



Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 816-3846-11
2002 年 6 月

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, Java, JDK, Solaris JumpStart, Solaris Web Start, SunOS, OpenWindows, XView, JavaSpaces, SunSolve, iPlanet Directory Server, Sun StorEdge, sun4u は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の諸国の Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。Netscape Communicator は、Netscape Communications Corporation 社の商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DiSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 9 (SPARC Platform Edition) Release Notes

Part No: 806-5195-11

Revision A



020710@4333



目次

はじめに	13
1 Solaris 9 の製品構成	17
Solaris 9 の構成	17
Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD (SPARC 版)	17
Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版)	17
Solaris 9 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版)	18
Solaris 9 LANGUAGES CD (SPARC 版)	18
Solaris 9 DOCUMENTATION 1 of 2 CD	19
Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD	19
Solaris 9 DVD (SPARC 版)	20
Solaris 9 メディア一覧 (Contents of Solaris 9 Media)	20
Solaris 9 インストールの手引き (Solaris 9 Start Here)	21
Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版) (Solaris 9 (SPARC Platform Edition) Installation Release Notes)	21
Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)	22
Binary Code License (Terms & Conditions)	22
2 インストールに関する注意事項とバグ情報	23
日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報	24
必要なディスク容量	24
日本語環境の選択	27
DVD から Solaris 9 をインストールする前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報	30
Solaris 9 DVD からのブート	30

DVD または CD から Solaris 9 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ	31
Solaris 9 Software DVD からコマンド行モードでインストール中に追加ソフトウェアがインストールされない (バグ ID: 4671875)	31
Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)	32
UFS または UDFS ファイルシステムを持つメディアは複数回挿入されるとマウントされない (バグ ID: 4638163)	33
Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)	33
Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報	34
Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 ドキュメントをインストールする方法	35
Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報	35
インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)	35
ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)	36
[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項	37
Solaris カスタム JumpStart のバグ情報	37
デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある (バグ ID: 4502007)	37
アップグレードに関する注意事項とバグ情報	38
Solaris 9 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない	38
Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択	38
旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない	39
Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)	41
Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)	42
/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)	43
ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)	43
Web-Based Enterprise Management (WBEM) データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035)	44
アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)	44

	日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4525236)	44
	インストール全般に関する注意事項とバグ情報	45
	スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)	45
	[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される	46
	[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力	46
	64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報	47
	一部の Sun UltraSPARC システム (sun4u) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要がある	47
	Documentation CD に関する注意事項	49
	Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前の文書 パッケージをインストールできない	49
	DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報	50
	Solaris 9 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)	50
	カスタムインストールの言語選択画面が正しく表示されないことがある (バグ ID: 4618350)	50
	特定のロケールでは Solaris 9 INSTALLATION CD が Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 用のプロンプトを表示しない (バグ ID: 4668033)	50
	Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD がデフォルトで簡体字中国語の文書をインストールする (バグ ID: 4673521)	51
	コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)	51
	インストール時のローカライズに関する注意事項	52
	選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある	52
	インストール時のローカライズに関するバグ情報	52
	英語およびヨーロッパの ISO-15 ロケールが正しくインストールされないことがある (バグ ID: 4645678)	52
	Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)	53
	タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)	53
	いくつかのヨーロッパロケールだけをインストールすると UTF-8 ロケールで表示されない文字がある (バグ ID: 4634077)	54
3	実行時の注意事項とバグ情報	57
	USB デバイスサポートに関するバグ情報	58

USB ハードディスクドライブにおけるデータの破壊 (バグ ID: 4660516)	58
スマートカードのバグ情報	58
スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094)	58
スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632)	59
[日本語環境のみ] SmartCard Console 1.0 のヘルプの情報に誤りがある (バグ ID: 4386225)	59
共通デスクトップ環境 (CDE)	60
共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項	60
Solaris 9 オペレーティング環境で Motif プログラムをコンパイルする時に問題が発生する	60
「ホスト名を入力 ...」オプションを選択した後、CDE ログイン画面から「リストからホストを選択」オプションが機能しない (バグ ID: 4667119)	61
行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793)	61
PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)	62
国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814)	62
PDA Sync のオンラインヘルプ内での操作が無効になる (バグ ID: 4260411)	62
dtmail で不在返信メッセージを作製すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)	63
[日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケール および ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項	63
[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)	64
システム管理に関するバグ情報	64
Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)	64
Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)	64
Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)	65
Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)	65
XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID:4497393、4497399、4497406、4497411)	66
Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)	66
WBEM でデータを追加しようとするとき CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)	67
[日本語環境のみ] iplanet Directory Server の iplanet Console で GUI 上のレイア	

ウトの問題がある (バグ ID: 4644430)	68
admintool を用いてユーザーを作成する場合の注意事項	68
Solaris ボリュームマネージャの問題	68
Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある	68
Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報	69
metadetach コマンドでサブミラーを切断すると、ミラーの大きさが自動的に変更される (バグ ID: 4678627)	69
ディスクが削除されて交換された場合、Solaris ボリュームマネージャの metareplace -e コマンドがソフトパーティションを有効にできない (バグ ID: 4645781)	70
障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの metahs -e コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)	70
論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの metadevadm コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)	71
Solaris ボリュームマネージャの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)	72
Xserver に関するバグ情報	72
キーボードを接続していないマシンでは Xsun がクラッシュする (バグ ID: 4651949)	72
ネットワークングに関するバグ情報	73
DNS が /etc/nsswitch.conf に指定されていると、libresolv.so.2 がマルチスレッド化アプリケーションでスワップファイル空間を使い果たす (バグ ID: 4646349)	73
ホールドオフ期間中、アイドル状態の Solaris PPP 4.0 デーモンが終了する (バグ ID: 4647938)	74
フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)	75
セキュリティに関するバグ情報	75
CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)	75
CDE の Calendar サーバーデーモンがファイル記述子を使い果たす (バグ ID: 4641721)	76
CDE の Removable Media 自動実行機能は Solaris 9 オペレーティング環境から削除されている (バグ ID: 4483353)	76
cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)	77
ソフトウェアに関するその他のバグ情報	77
Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)	77
DOCUMENTATION CD に関する注意事項	78

iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない	78
他の文書パッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要	78
DOCUMENTATION CD に関するバグ情報	79
ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)	79
Solaris 9 Documentation パッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)	79
ローカライズに関する注意事項とバグ報	80
ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項	80
en_US.UTF-8 ロケールでは AltGraph-E を使用してもヨーロッパ言語の文字が生成されない (バグ ID: 4633549)	81
アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)	81
スマートカードと Secure シェルアプリケーションが完全に各国語対応されていない (バグ ID: 4304495, 4680353)	81
Netscape Communicator 4.78 (日本語版)	81
[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)	82
[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)	82
Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)	82
英語以外のロケールに関する実行時のバグ情報	83
ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)	83
iPlanet Directory Server の問題	83
設定の問題	83
スキーマの問題	83
レプリケーションの問題	84
サーバープラグインの問題	84
サービスのロールとクラスの問題	84
インデックスの問題	84
iPlanet Directory Server に関するバグ情報	85
Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)	85
ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)	85
サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)	86
ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが残る (バグ ID: 4527623)	86
インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)	86

DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)	86
エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、サーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)	87
レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)	87
その他	87
バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない	87

4 サポート中止に関する情報 89

Solaris 9 でサポートを中止した製品	89
adb (1) マップ修飾子とウォッチポイント構文	89
AnswerBook2 文書サーバー	90
aspppd (1M) ユーティリティ	90
ATOK8 日本語入力方式	90
crash (1M) ユーティリティ	90
Solaris ipc (1) コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション	91
cs00 日本語入力方式	91
アーリーアクセス (EA) ディレクトリ	91
ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ	91
enable_mixed_bcp チューニング可能パラメータ	91
japanese ロケール	92
libjapanese.a	92
Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2	92
JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8	92
OpenWindows 開発ツールキット	92
OpenWindows ユーザー環境	93
プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメータ(priority_paging/cache-free)	93
s5fs ファイルシステム	93
sendmail ユーティリティ機能	94
SUNWebnfs	94
sun4d ベースのサーバー	94
SUNWrdm パッケージ	94
sdtudc_extract_ps	94
将来のリリースでサポートを中止する予定の製品	95
AdminTool	95
アジアの短縮 dtlogin 名	95
power.conf の Device Management エントリ	95

フェデレーテッドネーミングサービス (FNS) / XFN のライブラリとコマンド	95
GMT zoneinfo タイムゾーン	95
JRE 1.2.2	96
Kerberos バージョン 4 クライアント	96
Korean CID フォント	96
LDAP クライアントライブラリ	96
NIS+	96
pam_unix(5) モジュール	97
Perl バージョン 5.005_03	97
電源管理入出力制御コマンド	97
Solaris ボリュームマネージャトランザクションボリューム	98
Solstice Enterprise Agents	98
SPC ドライバ	98
sun4m ハードウェア	98
XIL	98
xutops プリントフィルタ	98

5	マニュアルに関する情報	99
	マニュアルの訂正・補足と注意事項	99
	『Solaris 9 パッケージリスト』	99
	『Solaris 9 インストールガイド』	100
	マニュアルページ sysidcfg(4) と『Solaris 9 インストールガイド』	100
	マニュアルページ re-preinstall(1M)	100
	『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』	100
	『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」	101
	『Solaris 9 インストールにあたって』	101
	『Solaris カーネルのチューンアップ・リファレンスマニュアル』(Part No: 816-3961-10) (バグ ID: 4668695)	101
	『日本語環境ユーザーズガイド』の日本語フォントの訂正	103
	『日本語環境ユーザーズガイド』の「ja_JP.UTF-8 ロケールとフォントに関する注意事項」	104
	『日本語環境ユーザーズガイド』の留意事項の訂正 1	105
	『日本語環境ユーザーズガイド』の留意事項の訂正 2	105
	[日本語環境のみ] man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページが古い	105
	Solaris 9 DOCUMENTATION CD に関する注意事項	106
	ナビゲーションファイルに関する注意事項	106

日本語 HTML ファイルに関する注意事項 106

A Solaris 9 オペレーティング環境で統合されたパッチ 107
統合されたパッチの一覧 107

はじめに

本書『Solaris™ 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』は、Solaris 9 をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルです。Solaris 9 オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報や、既知の問題点について説明します。

『Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』は、以下の 2 つの版が存在します。

- Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD の「Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの
- <http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese」に含まれているもの (『Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版)』 + 最新情報が記載されている) - 本書

注 - 本書には、SPARC プラットフォームに該当する情報が記載されています。また、本書で説明する情報は、章、節、注、箇条書き、図、表、例、またはコード例において特に明記しない限り、64 ビットと 32 ビットの両方のアドレス空間に該当します。

対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 9 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

内容の紹介

本書は、Solaris 9 オペレーティング環境ソフトウェアに関する以下の情報を提供します。

第 1 章では、Solaris 9 製品に含まれている CD、DVD、マニュアル、カードなどについて説明しています。

第 2 章では、インストールに関する注意事項とバグについて説明しています。この章の内容を理解してからインストールを開始してください。

第 3 章では、Solaris 9 実行時の注意事項とバグについて説明しています。

第 4 章では、サポートを終了するソフトウェア機能またはハードウェアについて説明しています。

第 5 章では、Solaris 9 のマニュアル中の記述に関する、補足事項や訂正事項を説明しています。

付録 A では、Solaris 9 オペレーティング環境に適用されているパッチを一覧表示しています。

Solaris のほかに付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項とバグ情報を確認してください。

関連マニュアル

Solaris をインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- 『Solaris 9 インストールの手引き』
- 『Solaris 9 インストールガイド』
- 『Solaris 9 ご使用にあたって』(本書)。次のメディアでご利用いただけます。
 - Solaris 9 Documentation CD の Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese
 - <http://docs.sun.com> (最新情報)
- 「Solaris 9 System Administrator Collection - Japanese」
- 『Solaris 9 オペレーティング環境の概要』

Solaris のマニュアルは、このリリースに含まれている Solaris 9 DOCUMENTATION CD で提供されています。

最新の CERT 勧告については、CERT の公式 Web サイト <http://www.cert.org> を参照してください。

ハードウェア構成によっては、インストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアのメーカーから提供される『Solaris 9 Sun ハードウェアマニュアル』などのインストール手順の補足資料を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING `

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をすることがあります。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Solaris 9 の製品構成

Solaris 9 は、複数言語をサポートするマルチリンガル製品です。この章では、Solaris 9 に含まれている CD、DVD、および印刷マニュアルについて説明します。

Solaris 9 の構成

Solaris 9 の構成について、概要を説明します。

Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD (SPARC 版)



この CD には、Solaris Web Start 3.0 インストールプログラムが含まれています。Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれているその他のソフトウェアをインストールする場合に使用します。

Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 オペレーティング環境 (「コアシステムサポート」と一部の「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- 従来の suninstall インストールプログラム

注 - Motif 版の suninstall は削除されました。CUI 版はアジア言語でもローカライズされました。

Solaris 9 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 9 オペレーティング環境 (「エンドユーザーシステムサポート」の残りとして、それ以上のソフトウェアグループ用のソフトウェア)
- ExtraValue ソフトウェア
ExtraValue ソフトウェアには、サポート対象である CoBundled ソフトウェア (SunScreen 3.2、Web Start Wizards SDK 3.0.1) と評価用のアーリーアクセス・ソフトウェア (Netscape 6.2.1、Bonus_Languages) が含まれています。Bonus_Languages には、Solaris 8 用のカタロニア語、ポーランド語、ロシア語の CDE の翻訳メッセージが含まれています。

Solaris 9 LANGUAGES CD (SPARC 版)



この CD には、Solaris オペレーティング環境で英語以外の言語を使用する際に必要なソフトウェアが含まれています。

注 - Solaris 9 でサポートされているすべてのロケールの基本機能 (言語の入力、出力、印刷、データ処理) をサポートするソフトウェア (部分ロケールと呼ぶ) は、SOFTWARE CD に含まれています。LANGUAGES CD には、各言語用のユーザーインターフェースの翻訳および追加ソフトウェアが含まれています。

Solaris 9 DOCUMENTATION 1 of 2 CD



この CD には、英語およびヨーロッパ言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。

以下は英語コレクションの一覧です。

```
Solaris 9 Release and Installation Collection
Solaris 9 About What's New Collection
Solaris 9 User Collection
Solaris 9 System Administrator Collection 1
Solaris 9 Software Developer Collection 1
Solaris 9 Reference Manual Collection
Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection
KCMS Collection
Solaris 9 Asian Locales Collection
iPlanet Directory Server 5.1 Collection 1
```

注 1: Documentation 2 of 2 CD にも含まれます。

Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD



この CD には、日本語およびその他のアジア言語のオンライン文書コレクション (PDF および HTML ファイル) が含まれています。また、英語のオンライン文書コレクションも一部含まれています。

以下は日本語コレクションの一覧です。

Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese
Solaris 9 About What's New Collection - Japanese
Solaris 9 User Collection - Japanese
Solaris 9 System Administrator Collection - Japanese
Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese ²
Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese ²
Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese
iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese

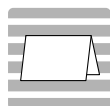
注 2: 一部のみの翻訳となりますので、全情報を参照する場合は、Documentation 1 of 2 CD または Documentatio 2 of 2 CD の対応する英語コレクションをご覧ください。

Solaris 9 DVD (SPARC 版)



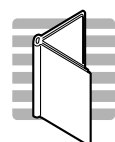
この DVD には、前述のすべての CD の内容が含まれています。(製品によってはこのメディアが含まれていないものがあります)。

Solaris 9 メディア一覧 (Contents of Solaris 9 Media)



Solaris 9 の内容について各国語で記述されているカードです。メディアフォルダーのポケットに入っています。

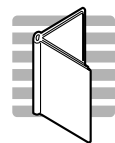
Solaris 9 インストールの手引き (Solaris 9 Start Here)



インストールを始めるにあたって参照するマニュアルです。従来の対話式インストール (suninstall) を行うか、または Solaris Web Start インストールを行うかを選択し、それぞれを使用してインストールを行う手順が説明してあります。

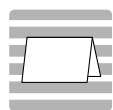
インストールに際しては、本書の第 2 章 も必ずお読みください。

Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版) (Solaris 9 (SPARC Platform Edition) Installation Release Notes)



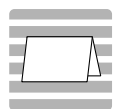
インストールに関する特に重要なバグ情報や注意事項が記載されています。

Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)



ソフトウェア使用の許諾について記述されています。

Binary Code License (Terms & Conditions)



上記の「ソフトウェア使用許諾契約書」に対する補足条項が含まれています。

第 2 章

インストールに関する注意事項とバグ情報

この章では、日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報、および Solaris 9 のインストールに関する注意事項とバグ情報について説明します。本章の内容を理解してからインストールを開始してください。

この章には、Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている Kiosk および Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている『Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。

- 31 ページの「Solaris 9 Software DVD からコマンド行モードでインストール中に追加ソフトウェアがインストールされない (バグ ID: 4671875)」
- 33 ページの「UFS または UDFS ファイルシステムを持つメディアは複数回挿入されるとマウントされない (バグ ID: 4638163)」
- 35 ページの「インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)」
- 38 ページの「Solaris 9 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない」
- 41 ページの「Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)」
- 50 ページの「Solaris 9 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)」
- 50 ページの「特定のロケールでは Solaris 9 INSTALLATION CD が Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 用のプロンプトを表示しない (バグ ID: 4668033)」
- 51 ページの「Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD がデフォルトで簡体字中国語の文書をインストールする (バグ ID: 4673521)」
- 52 ページの「選択したロケール以外のロケールもインストールされることがある」
- 52 ページの「英語およびヨーロッパの ISO-15 ロケールが正しくインストールされないことがある (バグ ID: 4645678)」
- 53 ページの「Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)」
- 53 ページの「タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)」

- 54 ページの「いくつかのヨーロッパロケールだけをインストールすると UTF-8 ロケールで表示されない文字がある (バグ ID: 4634077)」

注 – Solaris 9 オペレーティング環境を使用するには、128M バイト以上のメモリーが必要です。

日本語環境をインストールする前に知っておく必要がある情報

必要なディスク容量

Solaris 9 の日本語環境と DOCUMENTATION CD をインストールする場合に必要なディスク容量について説明します。

Solaris 9 CD のソフトウェア容量

次の表に、Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 9 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 9 LANGUAGES CD に含まれている日本語ロケール (ja、ja_JP.PCK、ja_JP.UTF-8) のパッケージをインストールするために必要なディスク容量を示します。Solaris 9 より、ファイルシステムの自動配置でデフォルトとして選択される領域は、ルート (/) とスワップ (swap) だけになりました。記載されている値は、このデフォルトのファイルシステムでインストールする場合に必要なルートファイルシステムの推奨値 (括弧内は最小値) で、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。

なお、Solaris suninstall プログラムで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値です。この値は、インストールするシステムのディスクやメモリーのサイズによって異なります。

表 2-1 Solaris 9 (SPARC 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
全体ディストリビューション と OEM サポート	1787 (1519)
全体ディストリビューション	1751 (1489)
開発者システムサポート	1548 (1316)

表 2-1 Solaris 9 (SPARC 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト) (続き)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステムのサイズ
エンドユーザーシステムサポート	1042 (886)

注 - この表に記載されている値は、sun4u アーキテクチャのシステムにソフトウェアをデフォルトでインストールする場合に必要な容量で、64 ビット (sparc v9) サポートパッケージの容量を含んでいます。64 ビットパッケージをインストールしない場合や、sun4u 以外のアーキテクチャにインストールする場合には、この表の値よりも推奨値で 100M ~ 180M バイト、最小値で 90M ~ 150M バイトほど少ない容量で済みます。

Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量

次の表に、アジア言語版の DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている、英語および日本語のドキュメントパッケージとその容量を示します (その他のアジア言語のパッケージは省略)。これらのパッケージのうち * 印がついているパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-2 Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWadm *	Solaris 9 System Administratorl Collection (HTML 版)	26
SUNWdev *	Solaris 9 Software Developer Collection (HTML 版)	19
SUNWids *	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (HTML 版)	7
SUNWdocs *	Documentation Navigation for Solaris 9	22
SUNWjaadm *	Solaris 9 System Administrator Collection - Japanese (HTML 版)	26
SUNWjabe *	Solaris User Collection - Japanese (HTML 版)	15
SUNWjaman *	Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese (HTML 版)	14
SUNWjdad *	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (HTML 版)	9
SUNWjdev *	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (HTML 版)	13
SUNWjids*	iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese (HTML 版)	8

表 2-2 Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位 : M バイト)
(続き)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
SUNWjinab *	Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese (HTML 版)	3
SUNWwnabj *	Solaris 9 About What's New Collection - Japanese (HTML 版)	1
SUNWpaadm	Solaris 9 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	18
SUNWpdev	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版)	17
SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection (PDF 版)	8
SUNWpjaadm	Solaris 9 System Administrator Collection - Japanese (PDF 版)	25
SUNWpjabe	Solaris User Collection - Japanese (PDF 版)	14
SUNWpjaman	Solaris 9 Reference Manual Collection - Japanese (PDF 版)	16
SUNWpjdad	Solaris 9 Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese (PDF 版)	9
SUNWpjdev	Solaris 9 Software Developer Collection - Japanese (PDF 版)	17
SUNWpjids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection - Japanese (PDF 版)	12
SUNWpjinab	Solaris 9 Release and Installation Collection - Japanese (PDF 版)	4
SUNWpwnabj	Solaris 9 About What's New Collection - Japanese (PDF 版)	2

注 - * 印のついていない PDF 版のパッケージはデフォルトではインストールされません。これらのパッケージをインストールする場合には次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 2 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、パッケージを選択し、インストールを実行する。

次の表に、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION 1 of 2 CD に含まれており、DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれていない、英語のドキュメントパッケージの一部とその容量を示します。

これらのパッケージには、日本語に翻訳されていないマニュアルが含まれています。それらのマニュアルをインストールする場合には、次の手順を実行してください。

1. DOCUMENTATION 1 of 2 CD のインストーラを起動する。
2. 「インストール形式の選択」画面で、「カスタム」を選択する。
3. 「コンポーネントの選択」画面で、該当するパッケージを選択し、インストールを実行する。

パッケージはデフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 9 DOCUMENTATION 1 of 2 CD のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

パッケージ	コレクション名	必要な容量の概算値
[英語]		
SUNWaman	Solaris 9 Reference Manual Collection (HTML 版)	51
SUNWpaman	Solaris 9 Reference Manuall Collection (PDF 版)	29
SUNWakcs	KCMS Collection (HTML 版)	3
SUNWpakcs	KCMS Collection (PDF 版)	4

日本語環境の選択

Solaris 9 のインストール中に行うことができる、日本語環境の選択について説明します。日本語環境の選択では、「デフォルトロケール」と「インストールするロケール」の 2 つを選択します。インストール手順の詳細は、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

Solaris 9 は、次に示すように 3 種類の文字エンコーディングに対応した 4 つの日本語ロケールをサポートしています。

- EUC をサポートする ja および ja_JP.eucJP ロケール
- PCK (PC 漢字コード) をサポートする ja_JP.PCK ロケール (シフト JIS と同等)
- Unicode の UTF-8 をサポートする ja_JP.UTF-8 ロケール

デフォルトロケールの選択

インストール後のシステムのデフォルトロケールを選択します (具体的には、/etc/default/init ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合に、システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールを選択しなければならないわけではありませんが、日本語ロケールを選択することをお勧めします。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定

されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定を、ユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済むようになります。また、dtlogin の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

■ Solaris Web Start 3.0 (CD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。システムのデフォルトロケールは、「ja」に設定されます。

■ Solaris suninstall プログラムまたは Solaris Web Start 3.0 (DVD) インストールの場合

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。次に、日本語ロケールとして「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)」、「Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)」のいずれかを選択してください。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールとして設定されます。

Solaris Web Start 3.0 インストールでは、次の手順を実行することでデフォルトロケールを選択し直すことができます。

(例) ja_JP.PCK ロケールをデフォルトロケールにする場合

1. 「インストールの形式の選択」画面で、「カスタムインストール」を選択する。
2. 「ソフトウェアのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールのチェックボックスを ON にする (ここでチェックされていないロケールは、次の選択画面で表示されません。)
3. 「システムのロケール選択」画面で、ja_JP.PCK ロケールを選択する。

注 - いずれのインストール方法を選択した場合でも、ja_JP.eucJP ロケールをデフォルトロケールとして選択することはできません。

- システムのデフォルトロケールを、インストール後に設定または変更する場合には、/etc/default/init ファイルでの LANG 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

ja ロケールに設定	LANG=ja
ja_JP.eucPCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.eucJP
ja_JP.PCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.PCK
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	LANG=ja_JP.UTF-8
c ロケールに設定	LANG= の行を削除、または LANG=C

インストール前に、このデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておく、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されません。この設定は、カスタム JumpStart による自動インストールの場合など、意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合に有効です。¹

インストールするロケールの選択

インストールしたいロケールを選択すると、ロケールに依存するソフトウェアパッケージがインストールされます。日本語環境をインストールするには、必ず日本語パッケージをインストールする必要があります。

注 – Solaris 9 では、インストールするロケールとして、日本語ロケールを 1 つだけ選択した場合でも、すべての日本語ロケールがインストールされます。たとえば、ja ロケールのみを選択した場合でも、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK、および ja_JP.UTF-8 ロケールがインストールされます。

- DOCUMENTATION 2 of 2 CD を Solaris 9 INSTLLATION CD からインストールする場合
後述のバグ情報にあるバグ ID: 4668033 のため、Solaris 9 INSTALLATION CD を使用して、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールする場合には、インストールするロケールの項で、対象言語の EUC ロケールが選択されている必要があります。Solaris 9 INSTALLATION CD の「カスタムインストール」を選択した後「ソフトウェアのロケール選択」画面で EUC のロケール (日本語環境の場合は、ja ロケール) を選択し、DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールするように設定してください。
- Solaris suninstall プログラムの場合
「地域の選択」画面で、インストールするロケールを選択します。この画面では、あらかじめ選択したシステムのデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、この画面では ja ロケールのみが選択されますが、実際にはすべての日本語ロケールがインストールされます。
- Solaris Web Start 3.0 インストールの場合
「インストール形式の選択」画面にて、「デフォルトインストール」を選択した場合、システムのデフォルトロケールのみが自動的に選択され、ロケールを選択するための画面は表示されません。たとえば、システムのデフォルトロケールとして ja ロケールを選択した場合、ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK および ja_JP.UTF-8 ロケールのみがインストールされます。他の言語のロケールをインストールする場合は「カスタムインストール」を選択して、「ソフトウェアのロケール選択」画面で、追加したいロケールを選択してください。
- カスタム JumpStart インストールの場合

¹ デフォルトロケールの事前設定を行う方法には、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」と「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳しくは、『Solaris 9 インストールガイド』を参照してください。

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに locale キーワードを追加します。²

日本語ロケール環境をインストールする場合には、locale キーワードの値に ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK または ja_JP.UTF-8 のいずれかを指定します。

なお、プロファイル中で locale キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、すべての日本語ロケール環境が自動的にインストールされます。

DVD から Solaris 9 をインストールする前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報

Solaris 9 DVD からのブート

Solaris 9 オペレーティング環境が DVD で提供されるようになりました。DVD からインストールまたはアップグレードを行うには、Solaris 9 DVD を DVD-ROM ドライブに挿入して、ok プロンプトで次のコマンドを入力し、システムをブートします。

```
ok boot cdrom
```

² locale キーワードは、日本語パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。

DVD または CD から Solaris 9 ソフトウェアをインストールする前に知っておく必要があるバグ

Solaris 9 Software DVD からコマンド行モードでインストール中に追加ソフトウェアがインストールされない (バグ ID: 4671875)

Solaris 9 Software DVD を使用して追加ソフトウェアをインストールしようとしても、ソフトウェアがインストールされないことがあります。この問題は次の場合に起こります。

- コマンド行モードを使用して、Solaris 9 Software DVD からインストールしている。
- インストール中に、DVD を自動的に取り出さない選択をした。
- SunScreen 3.2 アプリケーション、Solaris 9 Software Supplement CD 上の製品、または Solaris Software Companion CD 上の製品などのオプションソフトウェアをインストールしている。

この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

挿入したディスクは *optional-software-name* の CD/DVD ではありません。
もう一度試してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- この問題を回避するには、DVD を自動的に取り出すかどうかを選択するときに「y」(デフォルト設定)を選択します。
- 上記のエラーメッセージが表示されたら、DVD-ROM ドライブを搭載しているマシンにリモートログインできる場合、次の手順に従ってください。
 1. マシンにリモートログインします。
 2. スーパーユーザーになります。
 3. 次のコマンドを入力して、DVD を取り出します。

```
# eject cdrom
```
 4. インストールを続けます。インストールプログラムで DVD を挿入するようにプロンプト表示されたら、Solaris 9 Software DVD をインストールを行なっているマシンに挿入し直します。
- 上記のエラーメッセージが表示されたら、次の手順に従ってオプションソフトウェアを手動でインストールしてください。

1. 上記のエラーメッセージが表示されたら、「スキップ」を選択します。このオプションを選択すると、残りのソフトウェアのインストールをすべて省略します。
2. インストールを完了します。
3. システムのリブート後、システムにログインし、手動でインストールプログラムを実行して必要なオプションソフトウェアをインストールします。次の中から適宜インストールプログラムのコマンドを選択します。

- SunScreen 3.2 製品をインストールするには、Solaris 9 Software DVD を挿入して、次のコマンドを入力します。

```
# /dvd-mount-point/s0/Solaris_9/ExtraValue/CoBundled/SunScreen_3.2/install \
-nodisplay
```

- Solaris 9 Software Supplement 製品をインストールするには、Solaris 9 Software DVD を挿入して、次のコマンドを入力します。

```
# /dvd-mount-point/s0/SW_Supp_CD/installer -nodisplay
```

- Solaris Software Companion CD をインストールするには、CD を挿入して、次のコマンドを入力します。。

```
# /cd-mount-point/installer -nodisplay
```

Toshiba SD-M1401 DVD-ROM を持つシステムで Solaris DVD からのブートが失敗する (バグ ID: 4467424)

システムに、ファームウェアリビジョン 1007 の Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブが含まれていると、Solaris 9 DVD からのブートが失敗します。

回避方法: パッチ 111649-03 以降を適用して Toshiba SD-M1401 DVD-ROM ドライブのファームウェアを更新します。パッチ 111649-03 は、Solaris 9 Supplement CD の次のディレクトリにあります。

DVD_Firmware/Patches

パッチのインストール方法については、上記のディレクトリにある README ファイルを参照してください。パッチをインストールする前に、README ファイルに記載されている注意事項や警告内容のすべてに目を通して、その内容に従って作業してください。

UFS または UDFS ファイルシステムを持つメディアは複数回挿入されるとマウントされない (バグ ID: 4638163)

次の場合には、UFS ファイルシステムまたは UDFS ファイルシステムを持つフォーマットされた CD または DVD は、メディアドライブによってはシステムにマウントされないことがあります。

- システムが、Solaris 9 オペレーティング環境で動作している
- ボリューム管理 (vol1d) がシステムで動作している
- メディアを挿入し、取出した後でもう一度挿入する

mount: I/O error メッセージがシステムコンソールに表示される場合があります。この場合、メディアのファイルシステムはマウントされず、メディアのファイルマネージャのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) は表示されません。

回避方法: /etc/rmmount.conf ファイルを編集し、mount * hsfs udfs ufs -o nosuid の行の前に次の行を追加してください。

```
mount cdrom* hsfs udfs ufs -o nosuid ro
```

注 - mount * hsfs udfs ufs -o nosuid 行の前にこの行を入力する必要があります。この行を追加すると、/etc/rmmount.conf ファイルのマウントセクションは次のようになります。

```
mount cdrom* hsfs udfs ufs -o nosuid ro
mount * hsfs udfs ufs -o nosuid
```

Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 9 DVD 上のデータにアクセスできない (バグ ID: 4511090)

Solaris 2.6 オペレーティング環境または Solaris 7 オペレーティング環境を実行しているシステムでは、Solaris 9 DVD がボリューム管理によって正しくマウントされません。そのため、インストールサーバーを設定したり、Live Upgrade を実行したり、メディア上のデータにアクセスすることができません。

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- システムに対応したパッチを適用する。

表 2-4 Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境用の DVD パッチ

リリース	パッチ ID
Solaris 2.6 オペレーティング環境	107618-03
Solaris 7 オペレーティング環境	107259-03

■ Solaris 9 DVD を手動でマウントする。

次の手順に従って、ボリューム管理を使用せずに Solaris 9 DVD をマウントします。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリューム管理を停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

3. 手動で DVD をマウントします。

```
# mkdir /mnt1
```

```
# mount -F hsfs -o ro /dev/dsk/c0t6d0s0 /mnt1
```

4. DVD がマウントされていて、DVD 上のデータにアクセスできることを確認します。

```
# cd /mnt1
```

```
# ls
```

DVD が正しくマウントされている場合は、システムから次の情報が返されます。

```
Copyright Solaris_9
```

Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報

Solaris Web Start 3.0 を用いたインストールに関する情報と問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris suninstall プログラムを使用するときには発生しません。

Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の Solaris 9 ドキュメントをインストールする方法

Solaris 9 DOCUMENTATION CD (英語版 + ヨーロッパ言語版) には、英語のドキュメントがすべて含まれています。アジア版の DOCUMENTATION CD には、一部のアジア言語にだけ翻訳されている、またはまったく翻訳されていない、以下の英語ドキュメントが含まれています。

Solaris 9 Software Developer Collection

Solaris 9 System Administrator Collection

iPlanet Directory Server 5.1 Collection

DOCUMENTATION 2 of 2 CD に付属のインストーラでは、これらのドキュメントの HTML 版が、デフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からインストールする必要があります。

Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD から Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris オペレーティング環境をインストールする場合、上記の英語版 HTML ドキュメントは DOCUMENTATION 2 of 2 CD からデフォルトでインストールされます。すべての英語ドキュメントをインストールする場合は、Solaris Web Start 3.0 の「製品の選択」画面で「Solaris 9 Documentation European」を選択して、DOCUMENTATION 1 of 2 CD からドキュメントをインストールしてください。

Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD からのインストールに関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD からインストールする場合の注意事項と問題について説明します。

インストールまたはアップグレード後、複数のインタフェースを持つシステムがすべてのインタフェースを使用可能と認識する (バグ ID: 4640568)

複数のネットワークインタフェースを持つシステムに Solaris 9 オペレーティング環境をインストールまたはアップグレードした場合、システムはすべてのシステムインタフェースが使用可能であると認識します。つまり、ネットワークにプラグインされて

いない、あるいは使用する予定のないインタフェースが `ifconfig -a` コマンドの出力に表示されます。さらに、同じイーサネットアドレスを持つインタフェースに同じ IP アドレスが割り当てられることがあります。その場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
ifconfig: setifflags: SIOCSLIFFLAGS: qfe3: Cannot assign requested address
```

この問題は、`local-mac-address PROM` 変数が `false` に設定されているシステム上でも発生します。この問題が発生するのは、すべてのインタフェースが同じ IP アドレスで構成されるためです。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 構成されたインタフェースだけを使用するには、初期ブート後にシステムをリブートする。
- 各ネットワークインタフェースに異なる IP アドレスを割り当てるには、次のいずれかの方法で `local-mac-address PROM` 変数を `true` に設定する。
 - `ok` プロンプトで、次のコマンドを入力する。

```
ok setenv local-mac-address? true
```
 - スーパーユーザーとして、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
# eeprom local-mac-address?=true
```

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力される可能性があります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、他のファイルシステムに割り当ててはできません。

回避方法: 警告メッセージは無視してください。警告メッセージが表示されても問題は発生しません。

[日本語環境のみ] CD からのインストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項

CD からのインストールにおいて、ソフトウェアグループとして「コアシステムサポート」を選択した場合、インストールするロケールとして日本語ロケールを選択しても、LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージはインストールされません。これは、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了し、システムがリブートした後、コアシステムの環境で LANGUAGES CD のインストールを起動できないためです。

回避方法: インストール終了後、次のように pkgadd (1M) コマンドを使用して LANGUAGES CD に含まれる必要な日本語パッケージをインストールしてください。

```
# cd /cdrom/sol_9_lang_sparc/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjfpref SUNWjfpue SUNWjos SUNWjws2
```

LANGUAGES CD のイメージを含むインストールサーバーを使用して Solaris suninstall プログラムによるインストールを行う場合や、Solaris Web Start 3.0 でインストールする場合は、この問題は起りません。

Solaris カスタム JumpStart のバグ情報

デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルは小容量ディスクに複数のロケールをインストールしない可能性がある (バグ ID: 4502007)

Solaris 9 メディアのデフォルトの Solaris JumpStart™ プロファイルを使用して、ディスク容量の小さいシステムに複数のロケールをインストールすると、インストールが失敗することがあります。この問題は、次の状況で発生する可能性があります。

- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、2.1 G バイトディスクのシステムに C ロケール以外のロケールをインストールする
- デフォルトの Solaris JumpStart プロファイルを使用して、4 G バイトディスクのシステムに 2 つ以上のロケールをインストールする

アップグレードに関する注意事項とバグ情報

旧リリースの Solaris がインストールされているシステムを、Solaris 9 にアップグレードする場合の注意事項とバグについて説明します。

Solaris 9 オペレーティング環境に、SUNWsan がインストールされていると Storage Area Network (SAN) にアクセスできない

使用している Solaris 8 システムが、Storage Area Network (SAN) に接続されている場合、Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする前にサポートエンジニアに確認してください。SUNWsan がインストールされている Solaris 8 システムを、Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードするには特別な手順が必要なことがあります。システムに SUNWsan パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、端末ウィンドウで次のコマンドを入力します。

```
# pkginfo SUNWsan
```

SUNWsan パッケージがインストールされていると、次の情報が表示されます。

```
system      SUNWsan      SAN Foundation Kit
```

Solaris suninstall プログラムによるアップグレードでのロケール選択

Solaris 8 から、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。このため、Solaris suninstall プログラムを使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 9 へアップグレードすると、既存システムのインストール時に明示的にインストールしなかったロケールが「地域の選択」画面で自動的に選択されます。これは、既存システムのインストール時に明示的に指定していないロケールのソフトウェアが、暗黙のうちにインストールされていたためです。

既存システムのインストール時にインストールするロケールとして明示的に指定しなかったロケールが含まれている地域を、「地域の選択」画面で選択解除することができます。余分なロケールをそのまま選択解除せずにアップグレードを行っても問題はありません。アップグレードしたシステムには、アップグレード前と同じレベルのロケール環境がサポートされます。ただし、既存のシステムに明示的にインストールしたロケールは、「地域の選択」画面で削除することはできません。

旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアは Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアと互換性がない

Solaris Management Console™ 1.0、1.0.1、1.0.2 のいずれかのソフトウェアがインストールされた状態で Solaris 9 オペレーティング環境およびその互換バージョンにアップグレードする場合は、アップグレードの前に Solaris Management Console ソフトウェアをアンインストールする必要があります。Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアは、旧バージョンの Solaris Management Console 1.0、1.0.1、1.0.2 ソフトウェアと互換性がありません。システムに SEAS 2.0、SEAS 3.0、Solaris 8 Admin Pack のいずれかがインストールされていると、Solaris Management Console ソフトウェアが終了することがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アップグレードする前に `/usr/bin/prodreg` を実行して、Solaris Management Console ソフトウェアのフルアンインストールを行います。
- アップグレード前に Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 をアンインストールしていなかった場合は、Solaris Management Console ソフトウェア 1.0、1.0.1、1.0.2 のすべてのパッケージを削除する必要があります。パッケージの削除には `prodreg` ではなく、必ず `pkgrm` を使用して、手順に記載された順番どおりに削除してください。以下に手順を示します。

1. スーパーユーザーになります。
2. 端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# pkginfo |grep "Solaris Management Console"  
# pkginfo |grep "Solaris Management Applications"  
# pkginfo |grep "Solaris Diskless Client Management Application"
```

上記の出力結果で、パッケージ名の説明文の先頭に「Solaris Management Console 2.1」という文字列がない場合、そのパッケージは Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアのパッケージです。

3. `pkgrm` を使用して、Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – 説明文に「Solaris Management Console 2.1」という文字列が含まれているパッケージは削除しないでください。たとえば、`SUNWmc.2` は Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアのパッケージです。

注 – pkginfo の出力に、複数のバージョンの Solaris Management Console 1.0 ソフトウェアパッケージが含まれている場合は、pkgrm を使用して、すべてのバージョンを削除してください。このとき、パッケージ名の末尾に番号が付いていないものを先に、付いているものをその後に削除してください。たとえば、pkginfo の出力に SUNWmcman と SUNWmcman.2 が含まれている場合、最初に SUNWmcman を削除して、次に SUNWmcman.2 を削除します。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWmcman
# pkgrm SUNWmcapp
# pkgrm SUNWmcsvr
# pkgrm SUNWmcsvu
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmcsws
```

4. 端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# rm -rf /var/sadm/pkg/SUNWmcapp
```

これで Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。将来 Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアの保守を行う際は、または、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能しない場合は、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアをいったん削除して次の手順で再インストールしてください。

1. pkgrm を使用して、Solaris Management Console 2.1 ソフトウェアパッケージのすべてのインスタンスを次の順序で削除します。

注 – SUNWmc と SUNWmc.2 のように、ある Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアパッケージに対して複数のインスタンスがシステム上に存在する場合は、最初に SUNWmc を削除して、次に SUNWmc.2 を削除してください。prodreg は使用しないでください。

```
# pkgrm SUNWjadcl
# pkgrm SUNWjrmui
# pkgrm SUNWjlvmg
# pkgrm SUNWjmga
# pkgrm SUNWjsmc
# pkgrm SUNWpmgr
# pkgrm SUNWrmui
# pkgrm SUNWlvmg
# pkgrm SUNWlvma
# pkgrm SUNWlvmr
# pkgrm SUNWdclnt
# pkgrm SUNWmga
# pkgrm SUNWmgapp
```



```
# pkgrm SUNWmcdev
# pkgrm SUNWmcex
# pkgrm SUNWwbmc
# pkgrm SUNWmc
# pkgrm SUNWmcc
# pkgrm SUNWmccom
```

2. Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_sparc/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmgapp
```

3. CD を取り出して、Solaris 9 SOFTWARE 2 of 2 CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_sparc_2/s0/Solaris_9/Product
# pkgadd -d . SUNWmccom SUNWmcc SUNWmc SUNWwbmc SUNWmcex SUNWmcdev SUNWmga SUNWdclnt
```

4. CD を取り出して、Solaris 9 LANGUAGES CD (SPARC 版) を CD-ROM ドライブに挿入し、端末エミュレータで次のコマンドを実行します。

```
# cd /cdrom/sol_9_lang_sparc/s0/components/Japanese/sparc/Packages
# pkgadd -d . SUNWjsmc SUNWjmga SUMWjadcl SUNWjlvmg SUNWjrmui
```

これによって、すべての旧バージョンの Solaris Management Console ソフトウェアが削除され、Solaris 管理コンソール (Management Console) 2.1 ソフトウェアが正しく機能するようになります。

Solaris 8 オペレーティング環境からアップグレードすると、冗長な Kerberos プライバシ機構が作成される (バグ ID: 4672740)

Solaris 9 オペレーティング環境では、Kerberos Version 5 グローバル機構はプライバシーサポートを含んでおり、Kerberos ドメスティック機構は必要ありません。Kerberos ドメスティック機構 (/usr/lib/gss/do/mech_krb.so.1 にある) を Solaris 8 システムにインストールしている場合、システムを Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Kerberos ドメスティック機構を削除することをお勧めします。

回避方法: Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする前に、次の手順に従ってください。

1. 次のコマンドを入力して、Kerberos ドメスティック機構がシステムにインストールされているかどうかを確認します。

```
% pkginfo | fgrep ' SUNWk5'
```

- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれる場合、Kerberos ドメスティック機構はシステムにインストールされています。手順 2 に進んでください。

- このコマンドの出力に SUNWk5 で始まるパッケージ名が含まれていない場合、Kerberos ドメスティック機構はインストールされていません。残りの手順を省略して、システムをアップグレードしてください。
2. 次のコマンドを入力して、`/etc/nfssec.conf` と `/etc/gss/qop` ファイルをバックアップします。


```
% tar -cf /var/tmp/krb_config_files.tar /etc/nfssec.conf /etc/gss/qop
```
 3. 次のコマンドを入力して、ファイルがバックアップされていることを確認します。


```
% tar -tf /var/tmp/krb_config_files.tar
```
 4. 手順 1 の出力に含まれていた各パッケージを削除します。


```
% pkgrm package-name package-name package-name
```
 5. Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードします。
アップグレードプログラムは Kerberos グローバル機構コードを更新して、Kerberos プライバシサポートを有効にします。
 6. テキストエディタで、`/etc/gss/mech` ファイルの次の行を変更します。
 - 次の行のコメントを解除します。


```
kerberos_v5      1.2.840.113554.1.2.2      gl/mech_krb5.so gl_kmech_krb5
```

 必要であれば、上記行を `/etc/gss/mech` ファイルに追加します。
 - 次の行を削除します。


```
kerberos_v5      1.2.840.113554.1.2.2      do/mech_krb5.so do_kmech_krb5
```
 - 次のコマンドを入力して、`/etc/nfssec.conf` ファイルと `/etc/gss/qop` ファイルを復元します。


```
% tar -xf /var/tmp/krb_config_files.tar
```

Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると既存の Secure Shell デーモン (sshd) が使用できなくなることがある (バグ ID: 4626093)

`/etc/init.d/sshd` デーモンから他社の Secure Shell (OpenSSH など) を実行しているシステムの場合、Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると、既存の Secure Shell デーモンが使用できなくなります。アップグレード時に、Solaris 9 のアップグレードソフトウェアが、Solaris 9 の `sshd` で `/etc/init.d/sshd` の内容を上書きし、既存の `sshd` が失われます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムが不要な場合は、アップグレード時に `SUNWsshdr` パッケージと `SUNWsshdu` パッケージをインストールしない。

- システムに Secure Shell プロトコルサーバープログラムまたはクライアントプログラムが不要な場合は、アップグレード時に Secure Shell Cluster (SUNWCssh) をインストールしない。

/export が満杯に近いシステムのアップグレードが失敗する (バグ ID: 4409601)

/export ディレクトリの空き容量がゼロに近い状態で、システムを Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードしようとする、/export ディレクトリ容量の必要条件の計算に誤りが発生するため、アップグレードに失敗します。この問題は、ディスクレスクライアントがインストールされているか、/export ディレクトリに他社製のソフトウェアがインストールされている場合によく発生します。次のエラーメッセージが表示されます。

```
WARNING: Insufficient space for the upgrade.
```

回避方法: アップグレードの前に、次のいずれかを実行してください。

- アップグレードが完了するまで、一時的に /export ディレクトリの名前を変更する
- アップグレードが完了するまで、/etc/vfstab ファイル内の /export の行を一時的にコメントアウトする
- /export が別のファイルシステムである場合は、アップグレードを実行する前に /export のマウントを解除する

ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)

現在のシステムが、AdminSuite™ 2.3 の Diskless Client ツールによってインストールされたディスクレスクライアントをサポートしている場合、既存のディスクレスクライアントのうち、サーバーと同じ Solaris バージョンで同じアーキテクチャのものをすべて先に削除しておく必要があります。そのあとで、Solaris 9 オペレーティング環境をインストールするか、または Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードします。具体的な手順については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 9 をインストールしようすると、次のようなエラーメッセージが出力されます。

```
The Solaris Version (Solaris 7) on slice <xxxxxxx> cannot be upgraded.  
There is an unknown problem with the software configuration installed  
on this disk.
```

スライス <xxxxxxx> 上の Solaris のバージョン (Solaris 7) がアップグレードできません。ディスク上にインストールされたソフトウェア構成に未知の問題があります。

このエラー メッセージの *version-number* は、現在、システムで稼働している Solaris のバージョンを表します。<xxxxxxx> は、このバージョンの Solaris オペレーティング環境を実行しているスライスです。

Web-Based Enterprise Management (WBEM) データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 オペレーティング環境のいずれかのオペレーティング環境から Solaris 9 オペレーティング環境 (Solaris WBEM Services 2.5) にアップグレードする場合は、Managed Object Format (MOF) 形式の重要なデータは、Solaris WBEM Services 2.5 で使用されている新しい Reliable Log レポジトリ形式に変換してください。この変換を行わないと、データが失われてしまいます。

WBEM データの具体的な変換手順については、『Solaris WBEM Services の管理』の「CIM Object Manager Repository のアップグレード」を参照してください。

アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)

Solaris 9 へのアップグレードを行うと、アップグレード時に設定したデフォルトロケールがシステムのデフォルトロケールに正しく設定されない場合があります。

Solstid 9 Software 1 of 2 CD を使用したアップグレードの場合、Solaris 9 SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールの終了後、自動ブートしたシステムが英語環境で起動し、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD のインストール画面が英語で表示されることがあります。

回避方法: アップグレード終了後、システムのデフォルトロケールを /etc/default/init ファイルの LANG 環境変数に設定してください。

日本語フォントディレクトリに、古いフォント設定ファイルが残ってしまう (バグ ID: 4525236)

Solaris 8 および Solaris 9 Beta/Beta Refresh から Solaris 9 へアップグレードを行うと、アップグレードログに以下のようなメッセージと共に、古いフォント設定ファイル(ファイル末尾に :8 が付く)が残ります。

パッケージ SUNWjxcft を削除中:

```
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale
Can't open /a/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias
```

回避方法: 古いフォント設定ファイルは削除してください。

```
# cd /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TTbitmaps/fonts.alias:8
# cd /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.scale:8
# rm /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.alias:8
```

インストール全般に関する注意事項とバグ情報

Solaris 9 のインストール全般に関する注意事項とバグ情報を説明します。

スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)

同梱されている CD を、その CD に含まれている Solaris Web Start 2.x (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしているときに、スワップ容量の不足のためインストールが失敗することがあります。この場合、コンソールにエラーメッセージが表示されますが、エラーメッセージは次のように文字化けしています。

```
RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????
```

回避方法: 同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.x は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.x を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、スワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は、`swap (1M)` のマニュアルページを参照してください。

[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、install_log、upgrade_log などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されます。

回避方法: コードコンバータで変換して参照するか、テキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力

日本語タイプ 5 キーボードは OpenBoot PROM のバージョンによっては、モニターレベルでタイプ 4 キーボードとして動作します。そのため、モニターレベルでは、キーボード上の印字と実際の入力が一部異なります。次の表を参照してください。その他の注意事項は、U.S. タイプ 5 キーボードと同じです。『Sun タイプ 5 キーボードプロダクトノート』を参照してください。

表 2-5 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
“	@
&	^
’	&
(*
)	(
Shift-0)
=	-
~	+
^	=
¥	\
@	[
’	{
[]
{	}

表 2-5 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字 (続き)

日本語タイプ 5 キーボード上の印字	実際の入力文字
+	:
:	'
*	"
]	'
}	~
-	LF
\	LF

64 ビット Solaris に関する注意事項とバグ情報

64 ビット Solaris をインストールする場合の、注意事項とバグ情報について説明します。

一部の Sun UltraSPARC システム (sun4u) では、ブート Flash PROM をアップデートする必要があります。

注 - システムがすでに 64 ビット対応のファームウェアを実行している場合、Flash PROM のアップデートは不要です。

UltraSPARC™ システム上で 64 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合、Flash PROM ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。Solaris 9 インストールプログラムには、64 ビットサポートを追加する選択肢があります。UltraSPARC システムにインストールする場合は、この 64 ビットサポートがデフォルトで選択されます。64 ビットシステムは、200MHz 以上の CPU 速度を持つ場合のみ、デフォルトで 64 ビットでブートします。

注 – Sun システムまたは UltraSPARC システムで 32 ビット Solaris オペレーティング環境を実行する場合は、Flash PROM のアップデートは不要です。

次の表に、UltraSPARC (sun4u™) システムと必要な最小限のファームウェアバージョンを示します。システムタイプは、`uname -i` コマンドを実行して確認できます。実行中のファームウェアバージョンは、`prtconf -v` コマンドを実行して確認できます。

表 2-6 UltraSPARC システム上で 64 ビット Solaris を実行するために必要なファームウェアバージョン

システムタイプ (<code>uname -i</code> で出力される)	必要最小限のファームウェアバージョン (<code>prtconf -v</code> で出力される)
SUNW,Ultra-1-Engine	3.10.0
SUNW,Ultra-1	3.11.1
SUNW,Ultra-2	3.11.2
SUNW,Ultra-4	3.7.107
SUNW,Ultra-Enterprise	3.2.16

注 – この表に記載されていないシステムでは、Flash PROM をアップデートする必要はありません。

Solaris CD を使用して Flash PROM をアップデートする方法については、「*Solaris 9 on Sun Hardware Collection*」のマニュアルをご覧ください。このコレクション中のマニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照することができます。

Documentation CD に関する注意事項

Solaris 2.6、7、および 8 オペレーティング環境が稼働している文書サーバーに 9 文字より長い名前の文書 パッケージをインストールできない

翻訳された PDF 形式の文書コレクションの中には、パッケージ名が 9 文字を超えるものがあります。Solaris 7 または 8 オペレーティング環境が稼働しているサーバーに、このような PDF コレクションをインストールする場合は、先にパッチを 2 つインストールしておく必要があります。

注 – このリリースの時点では、Solaris 2.6 サーバー用のパッチはありません。

回避方法: 各パッチのインストール手順については、文書メディア (Solaris 9 Documentation CD 1 of 2、2 of 2、または DVD) に収録されている Solaris Documentation Important Information (『Solaris ドキュメントに関する重要情報』) ファイルを参照してください。このファイルは、次のディレクトリにあります。

`mount-point/README/locale/install_locale.html`

たとえば、Solaris 9 Documentation CD 1 of 2 の英語ファイルは、次のディレクトリにあります。

`sol_9_doc_1of2/README/C/install_C.html`

DOCUMENTATION CD のインストールに関するバグ情報

Solaris 9 DOCUMENTATION CD の uninstaller ユーティリティの Uninstall が適切に機能しない (バグ ID: 4675797)

Solaris 9 Product Registry から立ち上げる Solaris 9 DOCUMENTATION CD の uninstaller で「全体」を選択した場合、uninstaller はデフォルトでインストールされるマニュアルパッケージしか削除しません。

回避方法: uninstaller のアンインストール形式の選択で「部分」を選択して、アンインストールしたいパッケージを選択します。

カスタムインストールの言語選択画面が正しく表示されないことがある (バグ ID: 4618350)

インストーラプログラムの「インストール形式の選択」で、一度一般インストールを選択すると、「インストール形式の選択」画面に戻ってカスタムインストールを選択しても、言語選択画面に選択可能なすべての言語を表示できなくなります。

回避方法: インストーラプログラムをもう一度立ち上げ直し、初めにカスタムインストールを選択してください。

特定のロケールでは Solaris 9 INSTALLATION CD が Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD 用のプロンプトを表示しない (バグ ID: 4668033)

特定のロケールでは Solaris 9 INSTALLATION CD を使用する場合、インストーラプログラムは Solaris DOCUMENTATION 2 of 2 CD からパッケージをインストールするかどうかをたずねません。この問題は、EUC 以外の次のロケール選択で発生します。EUC ロケール (日本語環境なら ja ロケール) を選択することで問題は回避できます。

- ja_JP.PCK
- ja_JP.UTF-8

- ko.UTF-8
- zh.GBK
- zh.UTF-8
- zh_CN.18030
- zh_HK.BIG5HK
- zh_HK.UTF-8
- zh_TW.BIG5
- zh_TW.UTF-8

回避方法: Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD からコレクションをインストールする場合は、Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD から直接 installer ユーティリティを実行してください。

Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD がデフォルトで簡体字中国語の文書をインストールする (バグ ID: 4673521)

zh_HK.BIG5HK ロケールまたは zh_HK.UTF-8 ロケールで Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD をインストールすると、簡体字中国語の文書がデフォルトでインストールされます。

回避方法: Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD のインストール中に「カスタム」インストールを選択して、次に、インストールしたい繁体字中国語の文書を選択します。

コマンド行インタフェースモードでは DOCUMENTATION CD の確認画面が表示されない (バグ ID: 4520352)

-nodisplay オプションを指定して Solaris 9 DOCUMENTATION CD のインストーラプログラムを使用すると、確認画面が正しく表示されないことがあります。

回避方法: Solaris 9 DOCUMENTATION CD のインストーラプログラムを使用するときに、-nodisplay オプションを指定しないでください。Solaris 9 DOCUMENTATION CD をインストールするときには、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) モードを使用してください。

インストール時のローカライズに関する 注意事項

選択したロケール以外のロケールもインストール されることがある

Solaris 9 では、インストールするロケールを選択した場合、関連するほかのロケールもインストールされることがあります。これは、すべての完全ロケール(メッセージが翻訳されている)とアジアおよび日本語の部分ロケールが、言語単位でパッケージ化し直されたためです。ほかの部分ロケールは従来通りに地理上の分類(中央ヨーロッパなど)に基づいて、パッケージ化されてインストールされます。

インストール時のローカライズに関する バグ情報

英語およびヨーロッパの ISO-15 ロケールが正しく インストールされないことがある (バグ ID: 4645678)

Solaris 9 ソフトウェア DVD から対話的インストールを実行する際にインストール時に使用するロケールとして英語またはヨーロッパの ISO-15 ロケールを選択すると、ISO-15 および対応する ISO-1 ロケールが正しくインストールされないことがあります。この問題が生じるのは、「Select a Locale」画面で選択した英語またはヨーロッパの ISO-15 ロケールが「Select Software Localization (ソフトウェアのロケール選択)」画面で自動的に選択されないためです。

回避方法: インストール時に使用するロケールとして英語またはヨーロッパの ISO-15 ロケールを選択して、インストールを実行する場合、次の手順に従ってください。

1. 「Select a Locale」画面で、インストール中に使用する英語またはヨーロッパの ISO-15 ロケールを選択する
2. 「Select Software Localization (ソフトウェアのロケール選択)」画面で、システムにインストールする適切な英語またはヨーロッパの ISO-15 と ISO-1 ロケールを選択する。

注 – 英語またはヨーロッパの ISO-15 および ISO-1 ロケールがインストール用に選択されていることを「Select Software Localization (ソフトウェアのロケール選択)」画面で確認しないと、選択したロケールがインストールされないことがあります。

Solaris 9 Beta Refresh Chinese CDE フォントパッケージが Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードされない (バグ ID: 4653908)

簡体字中国語または繁体字中国語のロケールを含んだ Solaris Beta Refresh オペレーティング環境が動作しているシステムを Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする場合、簡体字中国語と繁体字中国語の CDE フォント各国語対応パッケージ (SUNWcdft または SUNWhdft) が適切な Solaris 9 パッケージにアップグレードされないため、アップグレードは正常に完了しません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
Removing package SUNWcdft:
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.EUC: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.GBK: does not exist
/a/var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove:
  /a/usr/dt/config/xfonts/zh_CN.UTF-8: does not exist
pkgrm: ERROR: postremove script did not complete successfully
```

回避方法: Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris 9 Beta Refresh の postremove ファイルを適宜削除します。

```
# rm /var/sadm/pkg/SUNWcdft/install/postremove
# rm /var/sadm/pkg/SUNWhdft/install/postremove
```

タイ語、ロシア語、ポーランド語、カタロニア語を完全にサポートする Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムをアップグレードすると、無効なパッケージがシステムに残る (バグ ID: 4650059)

Solaris 8 Language Supplement CD がインストールされている Solaris 8 オペレーティング環境が動作しているシステムを Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードする場合、いくつかの無効なタイ語、ロシア語、ポーランド語、およびカタロニア語のロケールパッケージがシステムに残ってしまいます。これらのロケールパッケージでは ARCH=sparc11 が設定されているので、Solaris 9 オペレーティング環境へのアップグレード時に削除されません。

回避方法: オペレーティング環境にアップグレードする前に、Solaris Product Registry アプリケーションを使用して Solaris 8 Languages Supplement CD パッケージを削除してください。

いくつかのヨーロッパロケールだけをインストールすると UTF-8 ロケールで表示されない文字がある (バグ ID: 4634077)

ヨーロッパロケールの特定のセットを 1 つまたは複数インストールする場合、そのロケールの UTF-8 コードセットにある英語またはヨーロッパ言語文字以外の文字を表示しないことがあります。この問題は次の場合に起こります。

- 次の 1 つまたは複数のロケールをインストールする場合
 - 中東/イスラエル (ISO8859-8)
 - 北アフリカ/エジプト (ISO8859-6)
 - 東ヨーロッパ/ロシア (ISO8859-5)
 - 西ヨーロッパ/トルコ (ISO8859-9)
 - 南アメリカ/ブラジル (ISO8859-1)
 - 中央ヨーロッパ/ポーランド (ISO8859-2)
- システムにほかのロケールをインストールしない場合

回避方法: 次のいずれかの方法を実行してください。

- インストール実行中に、`en_us.UTF-8` 北アメリカ/米国ロケールおよびヨーロッパロケールの両方をシステムにインストールする
- インストール終了後に、`pkgadd` ユーティリティを使用してシステムに次のパッケージを追加する
 - `SUNW5ttf` — 繁体字中国語 BIG5 True Type フォントパッケージ
 - `SUNWcttf` — 簡体字中国語 (EUC) True Type フォント
 - `SUNWiiimr` — インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (root)
 - `SUNWiiimu` — インターネット/イントラネット入力システムフレームワーク (usr)
 - `SUNWinleu` — インド語ロケール環境 user ファイル
 - `SUNWinlex` — インド語言語環境 user ファイル (64 ビット)
 - `SUNWinttf` — インド語の True Type フォント
 - `SUNWjxcft` — 日本語必須 TrueType フォント
 - `SUNWkttf` — 韓国語 True Type フォント
 - `SUNWtleu` — タイ語ロケール環境 user ファイル
 - `SUNWtleux` — タイ語言語環境 user ファイル (64 ビット)

これらのパッケージは、Solaris 9 Software 1 of 2 CD または CD イメージ上の Solaris9/Product ディレクトリで入手できます。

たとえば、Solaris 9 Software 1 of 2 CD から Solaris 9 オペレーティング環境をインストールする場合、次のコマンドを入力してください。

```
# cd /cdrom/cdrom0/Solaris9/Product  
# pkgadd -d . SUNW5ttf  
# pkgadd -d . SUNWcttf
```

前述のリストにある各パッケージに対してこの pkgadd コマンドを繰り返し実行します。

第 3 章

実行時の注意事項とバグ情報

この章では、既知の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

この章には、Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている Kiosk および Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている『Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。

- 58 ページの「USB ハードディスクドライブにおけるデータの破壊 (バグ ID: 4660516)」
- 61 ページの「「ホスト名を入力 ...」オプションを選択した後、CDE ログイン画面から「リストからホストを選択」オプションが機能しない (バグ ID: 4667119)」
- 69 ページの「metadetach コマンドでサブミラーを切断すると、ミラーの大きさが自動的に変更される (バグ ID: 4678627)」
- 68 ページの「Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある」
- 70 ページの「ディスクが削除されて交換された場合、Solaris ボリュームマネージャの metareplace -e コマンドがソフトパーティションを有効にできない (バグ ID: 4645781)」
- 70 ページの「障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの metahs -e コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)」
- 71 ページの「論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの metadevadm コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)」
- 72 ページの「Solaris ボリュームマネージャの metarecover コマンドが metadb 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)」
- 72 ページの「キーボードを接続していないマシンでは Xsun がクラッシュする (バグ ID: 4651949)」
- 73 ページの「DNS が /etc/nsswitch.conf に指定されていると、libresolv.so.2 がマルチスレッド化アプリケーションでスワップファイル空間を使い果たす (バグ ID: 4646349)」
- 74 ページの「ホールドオフ期間中、アイドル状態の Solaris PPP 4.0 デーモンが終了する (バグ ID: 4647938)」

- 75 ページの「CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)」
- 76 ページの「CDE の Calendar サーバーデーモンがファイル記述子を使い果たす (バグ ID: 4641721)」
- 77 ページの「Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ポリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)」
- 78 ページの「iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない」
- 79 ページの「ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)」
- 79 ページの「Solaris 9 Documentation パッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)」
- 83 ページの「iPlanet Directory Server の問題」
- 85 ページの「iPlanet Directory Server に関するバグ情報」

USB デバイスサポートに関するバグ情報

USB ハードディスクドライブにおけるデータの破壊 (バグ ID: 4660516)

Solaris 対応ではない USB ハードディスクドライブを Solaris 9 オペレーティング環境で使用した場合、UFS パニックが発生して、データが破壊されることがあります。

回避方法: Solaris 対応製品の一覧については、http://www.sun.com/io_technologies/storagesolutions.html を参照してください。

スマートカードのバグ情報

スマートカードに対してシステムが反応しない (バグ ID: 4415094)

ocfserv が終了し、ディスプレイがロックされている場合は、スマートカードを挿入しても取り出しても、システムはロックされたままになります。

回避方法: 次の手順を実行してシステムのロックを解除してください。

1. ocfserv プロセスが終了したマシンにリモートログインして接続します。
2. スーパーユーザーになります。
3. 端末ウィンドウで次のように入力して、dtsession プロセスを終了させます。

```
% pkill dtsession
```

ocfserv プロセスが再起動し、スマートカードのログインおよびその他の機能が復元されます。

スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目が使用できない (バグ ID: 4447632)

スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目を使用して、`/etc/smartcard/opencard.properties` にあるスマートカードの構成ファイルを編集することができません。メニュー項目を選択すると、テクニカルサポートを受けないと編集を継続できないことを示す警告メッセージが表示されます。

回避方法: スマートカード Management Console の「構成ファイルを編集」メニュー項目は使用しないでください。スマートカードの設定に関する情報は、『Solaris スマートカードの管理』を参照してください。

[日本語環境のみ] SmartCard Console 1.0 のヘルプの情報に誤りがある (バグ ID: 4386225)

SmartCard Console 1.0 のヘルプの「解説」の部分に誤りがあります。

回避方法: 以下のように読み換えてください。

(誤) Solaris Management Console 2.0 について
(正) SmartCard Console 1.0 について

(誤) Solaris Management Console 2.0 Alpha
(正) SmartCard Console 1.0

共通デスクトップ環境 (CDE)

Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

共通デスクトップ環境 (CDE) に関する注意事項

Solaris 9 では、文字集合 JIS X 0212:1990 に対するフォントが、「平成明朝体」から、「RICOH ゴシック体」と「RICOH 明朝体」に変更になりました (今までの平成明朝体も引き続きインストールされますが、利用するにはシステム側の変更が必要となります)。

また、文字集合 JIS X 0213:2000 に関しては UTF-8 ロケール上で利用可能ですが、UNICODE3.1 で定義された文字集合が対象となります (ただし、Java および DPS からの利用はできません)。

Solaris 9 オペレーティング環境で Motif プログラムをコンパイルする時に問題が発生する

Solaris 9 オペレーティング環境で 以下の場合に、Motif プログラムをコンパイルすると問題が発生します。

- Solaris 2.4、2.5、2.5.1、2.6 のいずれかのオペレーティング環境でコンパイルした共有ライブラリにリンクしている
- 古いバージョンのライブラリも Motif Application Programming Interface (API) を使用している

上記の旧バージョンの Solaris オペレーティング環境でコンパイルされた共有ライブラリは Motif 1.2 を使用しており、Solaris 9 オペレーティング環境でコンパイルされたプログラムは Motif 2.1 を使用しているためです。これはバイナリ互換の問題ではないので、Solaris 2.4、2.5、2.5.1、2.6 オペレーティング環境でコンパイルしたアプリケーションは、Solaris 8 オペレーティング環境において問題なく動作します。

回避方法: 古いバージョンの共有ライブラリが Motif ライブラリに直接リンクされている場合に、Motif ライブラリとその古いバージョンの共有ライブラリの両方にリンクされているプログラムを、Solaris 9 オペレーティング環境でコンパイルするには、次のようなコンパイル行を使用してください。

```
% cc foo.c -o foo -DMOTIF12_HEADERS -I/usr/openwin/include \  
-I/usr/dt/include -lXm12 -lXt -lX11  
は、foo にはコンパイルするプログラムの名前を指定してください。
```

「ホスト名を入力 ...」オプションを選択した後、CDE ログイン画面から「リストからホストを選択」オプションが機能しない (バグ ID: 4667119)

1 度 CDE ログイン画面で「オプション」ボタンから「リモートログイン」オプションを選択して、「ホスト名を入力 ...」を選択して実行した場合、その後にリモートログインしようとしても、「リストからホストを選択」オプションが機能しません。

回避方法: リモートログインするときには、「ホスト名を入力 ...」オプションを使用します。

行数の多い電子メールの表示中に CDE がハングアップしたようになる (バグ ID: 4418793)

Solaris 9 Unicode または UTF-8 ロケールで、行数の多い電子メールメッセージを読むと、CDE Mailer (dtmail) がハングアップしたようになり、メッセージがすぐには表示されない

回避方法: 次のどちらかを実行してください。

- 132 桁が表示されるように、dtmail メールボックスウィンドウを拡大する。
- 次の手順で、Complex Text Layout 機能を使用不可にする。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 使用システムのロケールディレクトリに切り替えます。

```
# cd /usr/lib/locale/locale-name
```

上の例では、*locale-name* はシステムの Solaris 9 Unicode ロケール名または UTF-8 ロケール名です。

3. ロケールレイアウトエンジンカテゴリの名前を変更します。

```
# mv LO_LTYPE LO_LTYPE-
```

注 - パッチを適用する場合は、ロケールレイアウトエンジンカテゴリ名を元の名前 (LO_LTYPE) に戻してから、ロケールレイアウトエンジンにパッチを適用してください。

PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)

デスクトップから最後のエントリを削除した後に、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。たとえば、カレンダーの最後のアポイントメントやアドレス帳の最後のアドレスが、削除した後に復元されてしまいます。

回避方法: 同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814)

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスと Solaris CDE とで、日本語などの複数バイト文字のデータを交換すると、両方の環境において、交換した複数バイト文字データが壊れる可能性があります。

回避方法: PDA Sync を実行する前に必ず、PDA デバイスに付属しているバックアップ機能やバックアップユーティリティを使用して、PC などにデータの完全なバックアップをとってください。間違えてデータ交換をしてしまった場合には、バックアップデータからデータを復旧させてください。

PDA Sync のオンラインヘルプ内での操作が無効になる (バグ ID: 4260411)

PDA Sync のメインウィンドウ以外のウィンドウから、ヘルプボタンを使用してヘルプを起動した場合、表示されたヘルプに対する操作ができないことがあります。

回避方法: PDA Sync のオンラインヘルプは、メインウィンドウから起動したものを使用してください。

dtmail で不在返信メッセージを作製すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)

不在返信メッセージを作製する場合、dtmail はその内容を (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングではなく、dtmail を起動したエンコーディングで保存します。このため、不在返信メールを受信した際に、メールの内容が文字化けすることがあります。

回避方法:不在返信メッセージが保存されている .vacation.msg ファイルを、次のように入力して (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングに変更し、保存し直します。

```
% /usr/bin/iconv -f org_locale -t ISO-2022-JP $HOME/.vacation.msg \  
> $HOME/.vacation.msg_tmp  
% /usr/bin/cp $HOME/.vacation.msg_tmp $HOME/.vacation.msg
```

上記の `org_locale` には、`iconv` で使用されるコードセット (dtmail で作成した .vacation.msg ファイルのエンコーディングに対応) を指定します。日本語環境では、次の3つのいずれかです。

eucJP (ja ロケールの場合)
PCK (ja_JP.PCK ロケールの場合)
UTF-8 (ja_JP.UTF-8 ロケールの場合)

[日本語環境のみ] ja_JP.PCK ロケール および ja_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

- ボリュームマネージャのメッセージを表示するためのダイアログウィンドウは XView™ アプリケーションなので、ja_JP.PCK ロケールおよび ja_JP.UTF-8 ロケールでは英語表示で起動されます。
- ja ロケールで登録したカレンダーは、ja_JP.PCK ロケール および ja_JP.UTF-8 ロケールで起動されたカレンダー・マネージャで見ることができません (ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで作成した場合も同様です)。

[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)

Solaris CDE 1.2 より前のメールプログラムで、オプションメニューの「移動メニューの設定」で登録したメールボックス名に日本語文字列が含まれている場合、Solaris CDE 1.2 以降のメールプログラムではそれらのメールボックス名が文字化けすることがあります。

回避方法: Solaris CDE 1.2 あるいは Solaris CDE 1.3 のメールプログラムで、再度登録してください。

システム管理に関するバグ情報

Solaris システムのシステム管理作業を実行する際に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

Solaris 7 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4394587)

Solaris 7 のディスクレスクライアントを構成する場合、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 106978-10 および 107456-01 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと、ディスクレスクライアント追加時に設定したクライアントのパスワードが、正しく反映されない場合があります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 のディスクレスクライアントを日本語環境で構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 110416-02 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと日本語入力システム ATOK12 が正しく動作せず、CDE 上でアプリケーションが正しく起動できないなどの問題が発生することがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u ディスクレスクライアントを構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 105654-03 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと sun4u ディスクレスクライアントがブート中にハングアップすることがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースプロバイダを検出できない (バグ ID:4619576)

Solaris WBEM Services 2.5 デーモンは、com.sun.wbem.provider インタフェースまたは com.sun.wbem.provider20 インタフェースに書き込まれたプロバイダを検出できません。これらのインタフェースに書き込まれたプロバイダ用に Solaris ProviderPath インスタンスを作成した場合でも、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンはプロバイダを検出しません。

回避方法: デーモンがこのようなプロバイダを検出できるようにするには、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンをいったん停止してから再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - javax API を使用してプロバイダを作成した場合は、Solaris WBEM Services 2.5 デーモンが javax プロバイダを動的に認識するので、デーモンを停止してから再起動する必要はありません。

XML/HTTP トランスポートプロトコル環境では com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースメソッド呼び出しが失敗することがある (バグ ID:4497393、4497399、4497406、4497411)

javax アプリケーションプログラミングインタフェースではなく、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースを使用して WBEM ソフトウェアを開発する場合、全面的にサポートされるのは、CIM リモートメソッド呼び出し (RMI) だけです。XML/HTTP など、他のプロトコルについては、com.sun アプリケーションプログラミングインタフェースで完全に機能するという保証はありません。

次の表に、RMI では正常に実行され、XML/HTTP では失敗する呼び出しの例を示します。

メソッド呼び出し	エラーメッセージ
<code>CIMClient.close()</code>	<code>NullPointerException</code>
<code>CIMClient.executeQuery()</code>	<code>CIM_ERR_QUERY_LANGUAGE_NOT_SUPPORTED</code>
<code>CIMClient.getInstance()</code>	<code>CIM_ERR_FAILED</code>
<code>CIMClient.invokeMethod()</code>	<code>XMLERROR: ClassCastException</code>

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでファイルシステムのマウント属性を変更できない (バグ ID: 4466829)

Solaris 管理コンソール (Management Console) の Mounts and Shares ツールでは、/ (root)、/usr、/var などのシステムに必須なファイルシステム上のマウントオプションを変更できません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- `mount` コマンドとともに `remount` オプションを使用する。

```
# mount -F file-system-type -o remount,additional-mount-options device-to-mount mount-point
```

注 - `--remount` オプションを指定した `mount` コマンドで行なったマウント属性の変更は、一時的なものです。また、上記のコマンドの `additional-mount-options` の部分で指定しなかったマウントオプションのすべてがシステムによって指定されたデフォルト値を継承するわけではありません。詳細は、マニュアルページの `mount_ufs(1M)` を参照してください。

- `/etc/vfstab` ファイル内の適切なエントリを編集することによって、ファイルシステムのマウントプロパティを変更し、システムを再起動する。

WBEM でデータを追加しようとするとき CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)

使用可能なメモリー容量が十分でない時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY
```

メモリー容量が十分でない場合に Common Information Model (CIM) オブジェクトを実行していると、エントリを追加することができません。CIM Object Manager のリポジトリをリセットする必要があります。

回避方法: 次のようにして CIM Object Manager のリポジトリをリセットしてください。

1. スーパーユーザーになります。
2. CIM Object Manager を停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```
3. JavaSpaces™ ログディレクトリを削除します。

```
# /bin/rm -rf /var/sadm/wbem/log
```
4. CIM Object Manager を再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

注 - CIM Object Manager のリポジトリをリセットすると、データストアに格納されている独自の定義は失われます。次に示す例のようにして、定義が含まれている MOF ファイルを `mofcomp` コマンドを使用して再コンパイルする必要があります。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp -u root -p root_password your_mof_file
```

[日本語環境のみ] iplanet Directory Server の iplanet Console で GUI 上の レイアウトの問題がある (バグ ID: 4644430)

iplanet Console の「証明書の管理」ダイアログ等でボタンが重なって表示されたり、欠けて表示されたりという問題が発生する場合があります。

回避方法: ウィンドウの幅を広げることでこの問題を回避できます。

admintool を用いてユーザーを作成する場合の注意事項

admintool 上でログインシェルを sh または ksh に指定してユーザーを作成した場合、ホームディレクトリに自動生成される .profile には以下の 1 行が記述されています。

```
stty istrip
```

この行は、入力文字を 7 ビットにストリップすることを意味していますので、このままの設定ではそのユーザーが端末上で日本語入力を行うと、文字が化けてしまいます。

回避方法: 上記の 1 行をコメントにするか、もしくは削除してください。

Solaris ボリュームマネージャの問題

Solaris ボリュームマネージャの metattach コマンドが失敗することがある

シリンダー 0 から始まっていないルートファイルシステムをミラー化する場合には、接続されるすべてのサブミラーにシリンダー 0 から始まるものを、含めることはできません。

シリンダー 0 から始まるサブミラーを元のサブミラーにあるミラーに接続しようとする、シリンダー 0 から始まるサブミラーは使用できず、次のエラーメッセージが表示されます。

```
can't attach labeled submirror to an unlabeled mirror
```

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダー 0 から始まるようにする。
- ルートファイルシステムとほかのサブミラー用のボリュームの両方がシリンダー 0 から始まらないようにする。

注 – JumpStart インストールのデフォルトでは、/swap パーティションがシリンダー 0 から始まっていて、ルートファイルシステムはディスク上の他の場所から始まっています。システム管理者は通常、スライス 0 をシリンダー 0 から始めようとしています。デフォルトの JumpStart インストールにおいてスライス 0 上にあり、シリンダー 0 から始まってないルートパーティションを、別のディスクのシリンダー 0 から始まるスライス 0 にミラー化しようとする、ミラーを追加しようとする際に、エラーメッセージが出力されます。

Solaris ボリュームマネージャに関するバグ情報

metadetach コマンドでサブミラーを切断すると、ミラーの大きさが自動的に変更される (バグ ID: 4678627)

metadetach コマンドを使用してミラーからサブミラーを切断する場合、サブミラーを接続し直すことができなくなることがあります。この問題が発生するのは、サブミラーを切断した後にミラーの大きさが自動的に変更されるためです。

回避方法: metadetach コマンドを使用してサブミラーを切断する前に、切断したいサブミラーと同じサイズのサブミラーを接続します。

ディスクが削除されて交換された場合、Solaris ボリュームマネージャの `metareplace -e` コマンドがソフトパーティションを有効にできない (バグ ID: 4645781)

システムからソフトパーティション化されたディスクを物理的に削除して新しいディスクに交換した場合、`metareplace -e` コマンドはソフトパーティションを有効にできません。ソフトパーティションを有効にするために `metareplace` コマンドを実行する前に `metarecover` コマンドを使用したかどうかにかかわらず、この問題は起こります。

回避方法: 新しいディスク上にソフトパーティションを作成し直してください。

注 - ソフトパーティションが、ミラーまたは RAID5 の一部である場合、`-e` オプションをつけずに `metareplace` コマンドを使用して、古いソフトパーティションと新しいソフトパーティションを交換してください。

```
# metareplace dx mirror or RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

障害の発生したホットスペアディスクがスワップアウトされたとき、Solaris ボリュームマネージャの `metahs -e` コマンドが銅ケーブルストレージボックスで失敗する (バグ ID: 4644106)

次の場合に、`metahs -e` コマンドが失敗することがあります。

1. ホットスペアデバイスに障害が発生した (たとえば、`metaverify` テストユーティリティでエラーが発生した場合)。
2. メタデバイスにエラーが発生して、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアがホットスペアを起動しようとしたが、このホットスペアが「broken」とマークされている。
3. システムが停止して、障害が発生したホットスペアを含むディスクが同じ配置で新しいディスクに交換された。
4. システムが起動しても、Solaris ボリュームマネージャソフトウェアが新しいホットスペアを認識しない。
5. 新しいディスクのホットスペアを有効にするために、`metahs -e` コマンドを実行した。

次のメッセージが表示されます。

```
WARNING: md: d0: open error of hotspare (Unavailable)
```

Solaris ボリュームマネージャソフトウェアは、物理的に同じ場所に交換された新しいホットスペアディスクを認識しないため、この問題が起こります。Solaris ボリュームマネージャソフトウェアはすでにシステムに存在しないディスクのデバイス ID を表示し続けます。

注 – ディスクが交換されるとデバイス番号が変わる Photon などのストレージ格納装置では、この問題が発生するかどうかは判明していません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 次の手順に従い、Solaris ボリュームマネージャの状態データベースでホットスペアディスクのデバイス ID を更新する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアディスクのデバイス ID を更新します。

```
# metadevadm -u logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、新しいホットスペアディスクを利用できるようにします。

```
# metareplace -e logical-device-name
```
- 次の手順に従い、システムのホットスペアとホットスペアプールを管理する。
 1. スーパーユーザーになります。
 2. 次のコマンドを入力して、ホットスペアスライス用のエントリを削除します。

```
# metahs -d hspot-spare-pool-number logical-device-name
```
 3. 次のコマンドを入力して、正しいデバイス ID を持つ、同じ場所にあるホットスペアスライス用の新しいエントリを作成します。

```
# metahs -a hspot-spare-pool-number logical-device-name
```

論理デバイス名がすでに存在しない場合、Solaris ボリュームマネージャの `metadevadm` コマンドが失敗する (バグ ID: 4645721)

障害が発生したドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアで構成されたドライブに交換できません。交換するドライブは Solaris ボリュームマネージャソフトウェアにとって新しいドライブである必要があります。Photon 上のあるスロットから別のスロットにディスクを物理的に移動した場合、`metadevadm` コマンドが失敗することがあります。この問題が発生するのは、スライスの論理デバイス名がすでに存在しないのに、ディスクのデバイス ID がメタデバイス複製に存在しているためです。次のメッセージが表示されます。

Unnamed device detected. Please run 'devfsadm && metadevadm -r to resolve.

注 - このとき、新しい場所にあるディスクにはアクセスできませんが、スライスにアクセスするためには、古い論理デバイス名を使用する必要があります。

回避方法: ドライブを物理的に元のスロットに戻してください。

Solaris ボリュームマネージャの `metarecover` コマンドが `metadb` 名前空間の更新に失敗する (バグ ID: 4645776)

システムからディスクを物理的に取り外して交換して、`metarecover -p -d` コマンドを使用して適切なソフトパーティションの特定の情報をディスクに書き込むと、オープンエラーが発生します。このコマンドはメタデバイスデータベースの名前空間を更新せず、ディスクデバイス識別情報の変更を反映しません。この状態になると、ディスクの一番上に構築された各ソフトパーティションでオープンエラーが発生し、次のエラーメッセージが表示されます。

Open Error

回避方法: `metarecover` コマンドを実行してソフトパーティションを回復するのではなく、新しいディスクにソフトパーティションを作成してください。

注 - ソフトパーティションがミラーまたは RAID5 の一部である場合、次の `metareplace` コマンドを `-e` オプションをつけずに使用して、古いソフトパーティションを新しいソフトパーティションに交換します。

```
# metareplace dx mirror または RAID5 old_soft_partition new_soft_partition
```

Xserver に関するバグ情報

キーボードを接続していないマシンでは Xsun がクラッシュする (バグ ID: 4651949)

キーボードを接続していないマシンで Xsun を起動すると、Xsun がクラッシュすることがあります。Segmentation Fault エラーメッセージがシステムコンソールに表示されます。coreadm 設定が変更されている場合、Xsun がコアダンプします。

回避方法: Xsun を起動しないようにするには、次の手順に従ってください。

1. Xsun プロセスが中断されたマシンにアクセスします。
2. スーパーユーザーになります。
3. `/etc/dt/config/Xservers` ファイルがシステムに存在することを確認します。

このファイルが存在しない場合、次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
# mkdir -p /etc/dt/config ; cp /usr/dt/config/Xservers /etc/dt/config/
```

4. `/etc/dt/config/Xservers` ファイルを編集して、次のいずれかの文字列を含む行の始まりに `#` を追加します。

- `/usr/openwin/bin/Xsun`
- `/usr/openwin/bin/X`

5. `dtlogin` をリセットします。

```
# /etc/init.d/dtlogin reset
```

注 - これ以降 Xsun を実行する場合、上記回避方法は必要ありません。

ネットワークに関するバグ情報

DNS が `/etc/nsswitch.conf` に指定されていると、`libresolv.so.2` がマルチスレッド化アプリケーションでスワップファイル空間を使い果たす (バグ ID: 4646349)

DNS が `/etc/nsswitch.conf` ファイルにホストまたは IP ノードの検索用に指定されている場合、システムがマルチスレッド化アプリケーションを実行していると、`nscd` デーモンがクラッシュすることがあります。この問題が発生するのは、`nscd` デーモンのサイズが徐々に大きくなり、最大 4G バイトまでのスワップ空間を使い果たしてしまうためです。スワップ空間をすべて使い果たした場合、`nscd` はクラッシュして、ほかの新しいプロセスにもさまざまなエラーが発生します。

回避方法: この問題を回避するには、次の手順に従って、`nscd` 設定を変更します。

1. スーパーユーザーになります。
2. `nscd` デーモンを停止します。

```
# /etc/init.d/nscd stop
```

3. /etc/nscd.conf ファイルに次の行を追加するか変更します。

- keep-hot-count hosts 0
- keep-hot-count ipnodes 0

4. nscd デーモンを起動し直します。

```
# /etc/init.d/nscd start
```

注 -nscd を実行しないと、マルチスレッド化アプリケーションがホスト検索を行うときに同じようなメモリーリークが発生します。

ホールドオフ期間中、アイドル状態の Solaris PPP 4.0 デーモンが終了する (バグ ID: 4647938)

次の場合、Solaris PPP (ポイントツーポイントプロトコル) 4.0 デーモン (pppd) が予期せず終了することがあります。

- pppd デーモンがアイドル状態である。
- pppd デーモンの demand オプションと holdoff オプションが有効になっている。
- ホールドオフ期間中にパケットが到着した。

pppd デーモンが予期せず終了した場合、次のようなメッセージが適切なシステムログファイルに記録されます。

```
current date hostname pppd[PID]: [ID 702911 daemon.error] unable
to set IP to pass: Invalid argument
current date hostname pppd[PID]: [ID 702911 daemon.error] unable to
enable IPCP
```

pppd デーモンの demand オプションと holdoff オプションの詳細については、pppd(1M) のマニュアルページを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- pppd デーモンがリンクを初期化し直す前に待機する必要がない場合、pppd デーモンの holdoff オプションを使用しない。
- holdoff オプションの値を 0 に設定する。
- 次のような Bourne シェルスクリプトに似たループスクリプトから pppd デーモンを実行する。

```
#!/bin/sh
while :; do
    /usr/bin/pppd cua/b lock idle 60 demand nodetach noauth \
        38400 10.0.0.1:10.0.0.2 holdoff 20
done
```

フィルタリングが有効な 2 つの IP ノード間に複数のトンネルを設定するとパケットが失われることがある (バグ ID: 4152864)

2 つの IP ノード間に複数の IP トンネルを設定し、`ip_strict_dst_multihoming` または他の IP フィルタを有効にした場合、パケットが失われることがあります。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 2 つの IP ノード間に IP トンネルを 1 つだけ設定し、`-addif` オプションを指定した `ifconfig` コマンドによって、トンネルにアドレスを追加する。
- 2 つの IP ノード間のトンネルでは `ip_strict_dst_multihoming` を有効にしない。

セキュリティに関するバグ情報

CDE のスクリーンロックを解除すると、Kerberos Version 5 の資格が削除される (バグ ID: 4674474)

CDE セッションのロックを解除すると、キャッシュされている Kerberos Version 5 (krb5) の資格がすべて削除されて、さまざまなシステムユーティリティにアクセスできなくなることがあります。この問題は次の場合に起こります。

- `/etc/pam.conf` ファイルにおいて、当該システム用の `dtssession` サービスがデフォルトで `krb5` モジュールを使用するように構成されている。
- CDE セッションをロックした後、そのセッションのロックを解除しようとした。

この問題が発生した場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
lock screen: PAM-KRB5 (auth): Error verifying TGT with host/host-name:  
Permission denied in replay cache code
```

回避方法: 次の `pam_krb5 dtssession` のエントリを `/etc/pam.conf` ファイルに追加してください。

```
dtssession auth requisite pam_authtok_get.so.  
dtssession auth required pam_unix_auth.so.1
```

上記エントリが `/etc/pam.conf` ファイルに存在すると、`pam_krb5` モジュールはデフォルトで実行されません。

CDE の Calendar サーバーデーモンがファイル記述子を使い果たす (バグ ID: 4641721)

CDE の Calendar サーバーデーモン (rpc.cmsd) はファイル記述子を使い果たすことがあります。この場合、ユーザーは自分のカレンダーは表示できますが、新しいアポイントメントを追加できず、Unknown Error メッセージが表示されます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- この問題が発生した場合、次の手順に従ってください。
 1. Calendar サーバーでスーパーユーザーになります。
 2. Calendar サーバーデーモンを終了します。

```
# pkill rpc.cmsd
```

注 - rpc.cmsd サービスはデフォルトで /etc/inetd.conf ファイルで有効になっているため、再起動の必要はありません。Calendar サーバーで rpc.cmsd サービスが無効になっている場合、rpc.cmsd デーモンプロセスの終了後に rpc.cmsd デーモンを起動し直す必要があります。

- この問題を回避するには、パッチ ID 112617-01 を適用してください。

注 - 以前のリリースの Solaris オペレーティング環境用のパッチについては、<http://sunsolve.sun.com> にある SunSolveSM Web サイトを参照してください。

CDE の Removable Media 自動実行機能は Solaris 9 オペレーティング環境から削除されている (バグ ID: 4483353)

CDE デスクトップ環境の Removable Media 自動実行機能は、セキュリティ上の潜在的な問題を軽減するために、Solaris 9 オペレーティング環境から一時的に削除されています。

CD-ROM または他の着脱式メディアボリュームの自動実行機能を使用するには、次のいずれかを実行する必要があります。

- 着脱式メディアの最上位のファイルシステムから volstart プログラムを実行する。
- CDE の外部からアクセスするために CD に含まれている手順を実行する。

注 – セキュリティ関連の注意事項とパッチの最新情報については、SunSolveSM Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) にアクセスして調べてください。セキュリティ関連のパッチは、ご購入先でなくてもすべて SunSolve サイトから入手できます。

cron、at、および batch はロックされたアカウントにジョブをスケジュールできない (バグ ID: 4622431)

Solaris 9 オペレーティング環境において、ロックされたアカウントは期限切れのアカウントまたは存在しないアカウントと同様に処理されます。したがって、ロックされたアカウントに対して、cron、at、および batch ユーティリティでジョブをスケジュールすることはできません。

回避方法: ロックされたアカウントが cron、at、または batch ジョブを受け付けるようにするには、ロックされたアカウントのパスワードフィールド (*LK*) を NP (パスワードなしの意味) という文字列に置き換えます。

ソフトウェアに関するその他のバグ情報

Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャが失敗する (バグ ID: 4642114)

Solaris 9 オペレーティング環境を実行しているシステムで Veritas ボリュームマネージャを使用してさまざまな作業を実行しようとする場合、vxddladm addjob または vxddladm addsupport ユーティリティがコアダンプすることがあります。

回避方法: 次の手順に従ってください。

1. スーパーユーザーになります。
2. /var/ld/ld.config ファイルと /usr/bin/crle ユーティリティがシステムに存在することを確認します。
3. 次のコマンドを端末ウィンドウに入力します。

```
# /usr/bin/cp /var/ld/ld.config /var/ld/ld.config.save
# /usr/bin/crle -E LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib
# appropriate-vxddladm-command
```

```
# /usr/bin/mv /var/ld/ld.config.save /var/ld/ld.config
```

DOCUMENTATION CD に関する注意事項

iPlanet Directory Server 5.1 の文書リンクが適切に機能しない

iPlanet Directory Server™ 5.1 Collection において、「DocHome」というタイトルのリンクと異なるブック間のリンクが機能しません。これらのリンクを選択した場合、Not Found エラーがブラウザに表示されます。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- 当該システム上で iPlanet Directory Server 5.1 のドキュメント間を移動するには、iPlanet Directory Server 5.1 Collection ページに移動してから、表示したい文書へのリンクをクリックする。
- <http://docs.sun.com> にある iPlanet Directory Server 5.1 Collection を表示する。

他の文書パッケージを削除するには SUNWsdocs パッケージが必要

SUNWsdocs パッケージが削除されている場合、他の文書パッケージを削除しようとしても失敗します。この状況が発生するのは、SUNWsdocs が他のコレクションとともにインストールされ、ブラウザのエントリーポイントを提供しているためです。

回避方法: SUNWsdocs パッケージを削除している場合は、マニュアルメディアから SUNWsdocs パッケージをもう一度インストールし、そのあとで他のマニュアルパッケージを削除してください。

DOCUMENTATION CD に関するバグ情報

ヨーロッパロケールの PDF 文書は C ロケールでしか利用できない (バグ ID: 4674475)

Solaris 9 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムにおいて、次のヨーロッパロケールでは、Solaris 9 DOCUMENTATION CD 1 of 2 の PDF 文書の表示ができません。

- de (ドイツ語)
- es (スペイン語)
- fr (フランス語)
- it (イタリア語)
- sv (スウェーデン語)

この問題が発生するのは、Adobe Acrobat Reader の制限のためです。この問題の詳細については、<http://www.adobe.com:80/support/techdocs/294de.htm> にある Adobe Technote サイトを参照してください。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Solaris 9 オペレーティング環境とそれ以外の UNIX ベースのシステムでは、環境変数 `LC_ALL` を `C` に設定する。たとえば、`C` シェルでは、次のコマンドを端末ウィンドウに入力する。

```
% env LC_ALL=C acroread
```
- UNIX ベースでないシステムでは、Adobe Acrobat Reader 5.0 にアップグレードする。

Solaris 9 Documentation パッケージを削除すると、いくつかの Solaris 9 の文書コレクションが予期せずアンインストールされる (バグ ID: 4641961)

次の場合、いくつかの Solaris 9 文書コレクションが予期せずシステムから削除されます。

1. Solaris 9 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 を両方ともシステムにインストールした。
2. 1 の後、`prodreg` ユーティリティまたは Solaris 9 DOCUMENTATION CD のインストールプログラムを使用して、ある文書パッケージを削除した。

Solaris 9 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 と 2 of 2 には共通のコレクションが 3 つあります。このようなコレクションが含まれるパッケージを Solaris 9 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 のどちらかのインストールから削除すると、このパッケージは両方のインストールから削除されます。

次の表に、予期せず削除されることがあるパッケージの一覧を示します。

表 3-1 両方の Solaris 9 DOCUMENTATION CD に含まれる Solaris 9 文書パッケージ

HTML パッケージ名	PDF パッケージ名	コレクション名
SUNWaadm	SUNWpaadm	Solaris 9 System Administrator Collection
SUNWdev	SUNWpdev	Solaris 9 Developer Collection
SUNWids	SUNWpids	iPlanet Directory Server 5.1 Collection

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- アンインストールプロセスによって上記文書パッケージが予期せず削除されたが、これらのパッケージをシステムに置いておきたい場合、これらのパッケージを Solaris 9 DOCUMENTATION CD の 1 of 2 または 2 of 2 からインストールし直す。
- この問題を回避するには、`prodreg` ユーティリティを使用せず、`pkgrm` ユーティリティを使用して、削除したいパッケージをシステムから削除する。

ローカライズに関する注意事項とバグ報

ja_JP.eucJP ロケールに関する注意事項

Solaris 8 では、`ja_JP.eucJP` ロケールは `ja` ロケールと同等のロケールとして定義されていましたが、Solaris 9 からは「UI-OSF 日本語環境実装規約 Version 1.1」を基準に定義されています。よって、`ja` ロケールは従来の Solaris の `ja` ロケールと同じ動作が必要な場合、`ja_JP.eucJP` ロケールは他の UNIX ベンダーと同じ動作が必要な場合に使用するのが適しています。詳細は「日本語環境ユーザズガイド」を参照してください。

en_US.UTF-8 ロケールでは AltGraph-E を使用してもヨーロッパ言語の文字が生成されない (バグ ID: 4633549)

en_US.UTF-8 ロケール環境では、AltGraph キーと E キーを同時に押すことによってヨーロッパ言語の文字を入力することはできません。

回避方法: 次のいずれかを実行してください。

- Compose キーを押して放し、次に C キーを押して放し、さらに = キーを押して放す (Compose+C+=)。

注 - キーボードに Compose キーがない場合は、Control キーを押したまま Shift キーと T キーを押してください (Ctrl+Shift+T)。

- Alt キーを押したまま 4 のキーを押す (Alt-4)。

アラビア語のロケールでは Shift-U が予期しない動作をする (バグ ID: 4303879)

アラビア語のロケールで分音符号を生成するには、アラビア文字を入力してから Shift-U を入力してください。

スマートカードと Secure シェルアプリケーションが完全に各国語対応されていない (バグ ID: 4304495, 4680353)

スマートカードと Secure シェルアプリケーションは、一部のユーザーインターフェースまたはメッセージが英語で表示されます。これらは完全に翻訳することができない場合もあります。

Netscape Communicator 4.78 (日本語版)

Netscape Communicator 4.78 (日本語版) に関する注意事項とバグ情報について説明します。

[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)

Netscape Communicator 4.78 を ja_JP.PCK ロケールまたは ja_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合、ページ情報ダイアログ内の日本語の一部が文字化けしたり、ダイアログのタイトルが表示されないことがあります。ja ロケールで使用している場合は、この問題は起こりません。

[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー&ペーストできない (バグ ID: 4197428)

キーボードの Copy キー、Paste キー、編集メニューの「コピー」、「ペースト」を使用して、端末エミュレータやテキストエディタなどの CDE アプリケーションから Netscape Communicator に日本語文字列をコピー&ペーストできません。

回避方法: マウスの左ボタンでコピーしたい文字をハイライト表示し、マウスの中ボタン (2 ボタンマウスの場合は右ボタン) を使って、Netscape Communicator 上にペーストしてください。

注 - マウスボタンのマッピングを左利き用に設定している場合は、左ボタンと右ボタンの機能が逆になります。

Netscape Communicator 4.78 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)

Netscape Communicator 4.78 を最初に起動した際に、使用許諾契約書を表示するダイアログが表示されますが、契約書の内容が途中で切れています。

回避方法: 以下の場所にある license ファイルを直接参照してください。

```
/usr/dt/appconfig/netscape/lib/locale/<locale>/netscape/license
```

英語以外のロケールに関する実行時のバグ情報

英語以外のロケールに関する注意事項およびバグ情報について説明します。

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールでソートを行うと、予期しない結果が発生します。

回避方法: フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC_COLLATE 変数をその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
# echo $LC_COLLATE es_ES.UTF-8
# setenv LC_COLLATE es_ES.IS08859-1
```

上記のように LC_COLLATE 変数を設定後、ソートを行なってください。

iPlanet Directory Server の問題

設定の問題

インストール時、識別名を入力するときには UTF-8 文字セットエンコーディングを使用します。ほかのエンコーディングはサポートされていません。インストール操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。データをインポートするために使用される LDIF ファイルも UTF-8 文字セットエンコーディングを使用する必要があります。インポート操作では、データはローカル文字セットエンコーディングから UTF-8 文字セットエンコーディングに変換されません。

スキーマの問題

iPlanet Directory Server 5.1 が提供するスキーマは、RFC 2256 において `groupOfNames` オブジェクトクラスと `groupOfUniqueNames` オブジェクトクラスに指定されているものとは異なります。iPlanet Directory Server 5.1 が提供するスキーマ

マでは、member 属性タイプと uniquemember 属性タイプはオプションで選択します。RFC 2256 では、これらのタイプにはオブジェクトクラスごとに少なくとも1つの値が存在する必要があると指定されています。

aci 属性は操作属性です。明示的に要求しない限り、検索結果は返されません。

レプリケーションの問題

現在、広域ネットワーク上のマルチマスターレプリケーションはサポートされません。

サーバープラグインの問題

iPlanet Directory Server 5.1 は UID 一意性検査 (Uniqueness) プラグインを提供します。デフォルトでは、このプラグインは起動されません。特定の属性について属性の一意性を確実にするには、属性ごとに属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの新しいインスタンスを作成します。属性の一意性検査 (Attribute Uniqueness) プラグインの詳細については、『iPlanet Directory Server 5.1 管理者ガイド』を参照してください。

現在、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインはデフォルトでオフです。衝突解決ループを回避するために、参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインは、マルチマスターレプリケーション環境でも1つのマスターレプリカだけで有効にする必要があります。連鎖要求を発行するサーバーで参照整合性検査 (Referential Integrity) プラグインを有効にする前に、パフォーマンス資源、時間、および完全性のニーズを解析します。完全性チェックはメモリー資源と CPU 資源を大量に消費する可能性があります。

サービスのロールとクラスの問題

nsRoleDN 属性はロールを定義するのに使用します。ユーザーのエントリにおけるロールメンバーシップを評価するには使用しないでください。ロールメンバーシップを評価するときには、nsrole 属性を調べます。

インデックスの問題

複数のデータベースを持つ場合、VLV インデックスは正しく機能しません。

iPlanet Directory Server に関するバグ情報

Console を使用してユーザーを無効にできない (バグ ID: 4521017)

iPlanet Directory Server 5.1 Console を起動し、新しいユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成した場合、新たに作成したユーザーまたはロールがアクティブになります。Console を使用した場合、ユーザーとロールは「アクティブでない」として作成できません。

回避方法: ユーザーまたはロールを「アクティブでない」として作成するには、次の手順に従います。

1. 新しいユーザーまたはロールを作成します。
2. 新たに作成したユーザーまたはロールをダブルクリックします (あるいは、選択して、「オブジェクト」メニューから「プロパティ」項目をクリックします)。
3. 「アカウント」タブをクリックします。
4. 「無効」ボタンをクリックします。
5. 「OK」をクリックします。

新たに作成したユーザーまたはロールが無効になります。

ルート接尾辞に空白文字が含まれるディレクトリは構成できない (バグ ID: 4526501)

iPlanet Directory Server 構成時にユーザーが空白文字が含まれるベース DN を指定した場合 (たとえば、「`o=U.S. Government, C=US`」)、結果として DN は切り詰められます (たとえば、「`Government, C=US`」)。構成時に DN を指定するときには、空白文字を使用せずに指定する必要があります (たとえば、「`o=U.S.%20Government, C=US`」)。

回避方法: ベース DN エントリを修正するには、次の手順に従います。

1. Console の「サーバとアプリケーション」タブの左側にあるナビゲーション区画において、一番上のディレクトリエントリを選択します。
2. User ディレクトリサブツリーフィールドにおいて、接尾辞を編集します。
3. 「OK」をクリックします。

サーバー間でパスワードポリシー情報の同期をとれない (バグ ID: 4527608)

マスター以外のディレクトリサーバーでパスワードポリシー情報を更新した場合、この情報はほかのすべてのサーバーに複製されません。これはアカウントロックアウトの原因にもなります。

回避方法: 各サーバーでパスワードポリシー情報を手動で管理します。

ユーザーパスワードを変更した後もアカウントロックアウトが残る (バグ ID: 4527623)

アカウントロックアウトが有効である場合、ユーザーパスワードを変更しても、アカウントロックアウトは残ります。

回避方法: ロックアウト属性 `accountUnlockTime`、`passwordRetryCount`、および `retryCountResetTime` をリセットして、アカウントのロックを解除します。

インストール直後の Console のバックアップが失敗する (バグ ID: 4531022)

iPlanet Directory Server をインストールして、コンソールを起動し、ディレクトリを LDIF ファイルで初期化し、サーバーをバックアップした場合、Console はバックアップが成功したと報告しますが、実際にはバックアップは失敗しています。

回避方法: データベースを初期化した後、Console から次の作業を行います。

1. サーバーを停止します。
2. サーバーを起動し直します。
3. バックアップを実行します。

DN 属性を正規化するとき、サーバーが大文字と小文字を区別する構文を無視する (バグ ID: 4630941)

LDAP ネーミングサービスを使用している場合、大文字小文字の区別以外は同じである自動マウントパス名を複数作成すると、これらのパス名は一意になりません。大文字と小文字の区別以外は同じ名前のエントリがすでに存在する場合、ネーミング属性が大文字と小文字を区別する構文で定義されるエントリは作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。たとえば、エントリ `attr=foo,dc=mycompany,dc=com` が存在する場合、エントリ `attr=Foo,dc=mycompany,dc=com` は作成できません (ディレクトリサーバーが許可しません)。この問題の副作用として、LDAP ネーミングサービスを使用する場合、自動マウントパス名は大文字と小文字の区別に関わらず一意である必要があります。

注 - /home/foo と /home/Foo の両方のパスを作成することはできません。

回避方法: ありません。

エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、サーバーがクラッシュする (バグ ID: 4678334)

エクスポート、バックアップ、復元、または索引の作成中にサーバーを停止すると、サーバーがクラッシュします。

回避方法: 上記操作中にはサーバーを停止しないでください。

レプリケーションが自己署名証明書を使用できない (バグ ID: 4679442)

ユーザーが証明書ベースの認証による SSL レプリケーションを構成しようとする場合、サプライヤの証明書が自己署名であるか、あるいは、SSL サーバー証明書としてのロールしか果たせない (SSL ハンドシェイク時にクライアントのロールを果たせない) 場合、レプリケーションは機能しません。

回避方法: ありません。

その他

バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない

いくつかのフリーウェアのソフトウェアが Solaris Software CD にバンドルされていますが、多くのものは国際化および各国語対応されていません。

第 4 章

サポート中止に関する情報

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

この章には、Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている Kiosk および Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD) に含まれている『Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。

- 95 ページの「アジアの短縮 dtlogin 名」
- 96 ページの「Korean CID フォント」

Solaris 9 でサポートを中止した製品

この節では、Solaris 9 オペレーティング環境に適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

adb(1) マップ修飾子とウォッチポイント構文

adb(1) ユーティリティは、Solaris 9 オペレーティング環境のこのリリースにおいて、新しい mdb(1) ユーティリティへのリンクとして実装されています。

mdb(1) のマニュアルページでは、adb(1) との互換モードなど、新しいデバッグ機能について説明されています。この互換モードにおいても、adb(1) と mdb(1) の間には、次のような違いがあります。

- mdb(1) では、一部のサブコマンドのテキスト出力形式が異なります。マクロファイルの形式は adb(1) と同じ規則に従っていますが、その他のサブコマンドの出力に依存するスクリプトは、変更しなければならない場合があります。

- ウォッチポイントの長さを指定する構文が、mdb(1) と adb(1) とで異なります。adb(1) のウォッチポイントコマンド :w、:a、:p では、整数の長さをバイト単位で指定してコロンとコマンド文字の間に挿入することができます。mdb(1) では、繰り返し回数として、数値を初期アドレスで指定する必要があります。
- adb(1) コマンドの場合
123:456w
- mdb(1) コマンドの場合
123,456:w
- mdb(1) では、/m、/*m、?m、?*m 書式指示子はサポートされていないため認識されません。

AnswerBook2 文書サーバー

AnswerBook2™ 文書サーバーは、このリリースには含まれていません。従来の AnswerBook2 文書サーバーは Solaris 9 オペレーティング環境で使用できます。Solaris のマニュアルは Solaris Documentation CD によってオンライン形式でご利用いただけます。また、<http://docs.sun.com> で、Solaris の全マニュアルをいつでもご利用いただけます。

aspppd(1M) ユーティリティ

aspppd(1M) ユーティリティは、このリリースではサポートがされません。Solaris 9 オペレーティング環境に含まれている Solaris PPP 4.0 のpppd(1M) を使用してください。

ATOK8 日本語入力方式

ATOK8 日本語入力方式は、このリリースでサポートが中止されました。Solaris 9 オペレーティング環境に組み込まれている ATOK12 日本語入力方式によって、ATOK8 と同様の機能とともに拡張機能が得られます。

crash(1M) ユーティリティ

crash(1M) ユーティリティは、このリリースではサポートされません。Solaris 9 オペレーティング環境でシステムがクラッシュしたときのダンプファイルを調べる crash ユーティリティに近い機能は、mdb(1) ユーティリティで提供されます。crash コマンドのインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の実装に関係のない細部の実装(スロットなど)の周辺に構成されてきました。

crash から mdb への移行については、『Solaris モジュールデバッガ』の「crash からの移行」で説明されています。

Solaris `ipcs(1)` コマンドのシステムクラッシュ時のダンプ用オプション

システムクラッシュ時のダンプに、コマンド行で `-c` オプションと `-N` オプションを指定して `ipcs(1)` コマンドを適用する機能は、このリリースではサポートされません。これと同等の機能は、`mdb(1) :: ipcs` デバッガコマンドで提供されます。

cs00 日本語入力方式

cs00 日本語入力方式は、Solaris 9 オペレーティング環境でのサポートが中止されました。xci インタフェースなどの関連インタフェース、Japanese Feature Package (JFP) の `libmle` API、および `mle` コマンドも Solaris 9 オペレーティング環境ではサポートされません。

旧リリースから Solaris 9 オペレーティング環境にアップグレードすると、従来の公共ユーザー辞書 `/var/mle/ja/cs00/cs00_u.dic` が削除されます。

Solaris 9 オペレーティング環境でサポートされる日本語入力方式は、ATOK12 と Wnn6 の 2 種類です。各入力方式に関しては、『国際化対応言語環境の利用ガイド』を参照してください。

アーリーアクセス (EA) ディレクトリ

Solaris 9 リリースでは、EA ディレクトリの名前は `ExtraValue` に変更されました。

ESDI ドライブ用 Emulex MD21 ディスクコントローラ

ESDI ドライブ用の MD21 ディスクコントローラは、Solaris 9 オペレーティング環境でサポートが中止されました。

`enable_mixed_bcp` チューニング可能パラメータ

`enable_mixed_bcp` は、このサポートが中止されました。Solaris 9 以前のオペレーティング環境では、`/etc/system` の変数 `enable_mixed_bcp` を 0 に設定すると、部分的に静的にリンクされた、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルの動的なリンクを無効にすることができます。設定がない場合、システムは、これらの実行可能ファイルに対して動的リンクを使用します。Solaris 9 オペレーティング環境では動的リンクが常に使用され、`enable_mixed_bcp` チューニング可能パラメータがシステムから削除されました。この変更による、SunOS 4.0 と互換性のある実行可能ファイルに対する、バイナリ互換性への影響はありません。

japanese ロケール

Solaris 1.x リリースからの移行のために ja (EUC) ロケールの別名として提供されてきた japanese ロケールは提供されなくなりました。ja または ja_JP.eucJP ロケールを使用してください。ただし、BCP (JLE) アプリケーションは引き続きサポートされます。

libjapanese.a

日本語専用ライブラリ libjapanese.a およびそれに関連する次のヘッダーファイルは、提供されなくなりました。

- /usr/include/jcode.h
- /usr/include/ibmjcode.h
- /usr/include/jctype.h
- /usr/include/ja/xctype.h
- /usr/include/wstring.h

libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムは、XPG4.2 などの標準関数を使用して書き換えることをお勧めします。

また、Solaris 7 および Solaris 8 で提供していた、libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムのソース互換性を保つための代替関数およびマクロのソースファイル (SUNwjlibj) も、提供されなくなりました。

Java Software Developer's Kit (SDK) 1.2.2

Java™ SDK バージョン 1.2.2 は、Solaris 9 のリリースには組み込まれていません。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

JDK 1.1.8 および JRE 1.1.8

JDK version 1.1.8 および JRE version 1.1.8 は、このリリースでサポートが中止されました。その代わりに、ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition version 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JDK および JRE の新旧を含むすべてのバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

OpenWindows 開発ツールキット

OpenWindows™ XView™ および OLIT ツールキットでの開発は、このリリースでサポートが中止されました。開発者は Motif ツールキットへの移行を検討してください。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用して開発されたアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境でも実行できます。

OpenWindows ユーザー環境

OpenWindows 環境は、このリリースでサポートが中止されました。共通デスクトップ環境 (CDE) が Solaris 9 オペレーティング環境のデフォルトのデスクトップ環境です。OpenWindows XView および OLIT ツールキットを使用するアプリケーションは、Solaris 9 オペレーティング環境の CDE でも実行できます。

プライオリティページングおよび関連カーネル調整可能パラメタ(priority_paging/cacheefree)

priority_paging および cacheefree という調整可能なパラメタは、Solaris 9 リリースではサポートされません。これらのパラメタの代わりに、拡張ファイルシステムキャッシュアーキテクチャがプライオリティページングと同様のページングポリシーを実装します。これは常時、使用可能です。/etc/system ファイルにこれらのパラメタを設定しようとする、ブート時に次のような警告が出力されます。

```
sorry, variable 'priority_paging' is not defined in the 'kernel'  
sorry, variable 'cacheefree' is not defined in the 'kernel'
```

Solaris 9 リリースに移行するか、または pkgadd で SUNWcsr パッケージを追加し、/etc/system ファイルに priority_paging パラメタまたは cacheefree パラメタが含まれていた場合、次のように処理されます。

1. /etc/system ファイルに priority_paging パラメタまたは cacheefree パラメタが設定されていると、次のメッセージが表示されます。

NOTE: /etc/system は、調整可能パラメタの参照が含まれていたのが変更されました。
変更されたファイルを確認してください。

2. /etc/system ファイルの、priority_paging または cacheefree を設定する行の前に、コメントが挿入されます。たとえば、priority_paging が 1 に設定されている場合、その行が以下の行に置き換えられます。

```
* NOTE: As of Solaris 9, priority paging is unnecessary and  
* has been removed. Since references to priority paging-related tunables  
* will now result in boot-time warnings, the assignment below has been  
* commented out. For more details, see the Solaris 9 Release Notes, or  
* the "Solaris Tunable Parameters Reference Manual".
```

```
* set priority_paging=1
```

s5fs ファイルシステム

s5fs ファイルシステムは、このリリースでサポートが中止されました。s5fs ファイルシステムは、Interactive UNIX アプリケーションのインストールをサポートするためのものでした。しかし Solaris オペレーティング環境は、Interactive UNIX アプリケーションをサポートしていません。

sendmail ユーティリティ機能

sendmail ユーティリティの一部は、このリリースにサポートされません。サポートが中止される機能は、標準機能に対して Sun が独自に修正を加えた部分です。たとえば、V1/Sun 構成ファイル用の特殊な構文や意味解釈、リモートモード機能、Auto Rebuild Aliases オプション、Sun 固有の 3 つの逆別名機能などがこれに当たります。

これらの機能および移行方法の詳細については、<http://www.sendmail.org/vendor/sun/solaris9.html> を参照してください。

SUNWebnfs

SUNWebnfs パッケージは、Solaris オペレーティング環境には含まれません。

ライブラリと関連マニュアルについては、<http://www.sun.com/webnfs> からダウンロードできます。

sun4d ベースのサーバー

sun4d アーキテクチャベースの以下のサーバーは、このリリースでサポートが中止されました。

- SPARCserver™ 1000
- SPARCcenter™ 2000 sun4d アーキテクチャに依存するハードウェアオプションは、このリリースでサポートが中止されました。

SUNWrldm パッケージ

Solaris SOFTWARE CD に含まれており、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報やリリース直前に明らかになった問題点が記載されていましたが、このパッケージはこのリリースでは提供されません。

SUNWrldm に記載されていた情報は、Solaris DOCUMENTATION CD に含まれている『ご使用にあたって』、印刷マニュアルの『ご使用にあたって』(インストールに関する情報のみ)、<http://docs.sun.com> に掲載されている『ご使用にあたって』に記載されていますので、これらを参照してください。

sdtudc_extract_ps

sdtudc_extract_ps が廃止され、その機能は sdtudc_extract に統合されました。

将来のリリースでサポートを中止する予定の製品

この節では、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースに適用される、ソフトウェアのサポート中止情報について説明します。

AdminTool

swmtool を含む AdminTool (admintool) は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

アジアの短縮 dtlogin 名

アジアの短縮ロケール名、zh、zh.GBK、zh.UTF-8、ko、ko.UTF-8、zh_TW などは、将来のリリースでは dtlogin 言語リストに含まれない可能性があります。Solaris 8 および Solaris 9 リリースでは、zh_CN.EUC、zh_CN.GBK、zh_CN.UTF-8、ko_KR.EUC、ko_KR.UTF-8、zh_TW.EUC をはじめ、新しい ISO 標準ロケール名を提供しています。

power.conf の Device Management エントリ

power.conf (4) の Device Management エントリは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Automatic Device Power Management エントリによって同様の機能が得られます。

フェデレーテッドネーミングサービス (FNS) / XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づく FNS は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。

GMT zoneinfo タイムゾーン

/usr/share/lib/zoneinfo/GMT[+-]* タイムゾーンは、将来のリリースでサポートが中止される予定です。これらのタイムゾーンのファイルは、/usr/share/lib/zoneinfo ディレクトリから削除されます。削除されたファイルの代わりに、対応する Etc/GMT[-+]* ファイルを使用してください。詳細については、zoneinfo (4) および environ (5) を参照してください。

JRE 1.2.2

JRE のバージョン 1.2.2 は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。ほぼ同等の機能が Java 2 Standard Edition バージョン 1.4 およびその互換バージョンでサポートされています。JRE の新旧のバージョンは、<http://java.sun.com> からダウンロードできます。

Kerberos バージョン 4 クライアント

Kerberos バージョン 4 クライアントは、将来のリリースで削除される予定です。これに伴い、以下において Kerberos バージョン 4 はサポートされなくなります。

- kinit(1)、kdestroy(1)、klist(1)、ksrvtgt(1)、mount_nfs(1M)、share(1M)、kerbd(1M) コマンド
- kerberos(3N) ライブラリ
- ONC RPC プログラミング API (kerberos_rpc(3KRB))

Korean CID フォント

Korean CID フォントは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris オペレーティング環境には、Korean CID フォントに代わるものとして Korean TrueType フォントが組み込まれているので、そちらを使用してください。

LDAP クライアントライブラリ

LDAP (軽量ディレクトリアクセスプロトコル、Lightweight Directory Access Protocol) クライアントライブラリ `libldap.so.3` は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このライブラリの新しいバージョンである `libldap.so.5` は、IETF (Internet Engineering Task Force) の `ldap-c-api` ドラフトの `draft-ietf-ldapext-ldap-c-api-05.txt` 版に準拠しています。

NIS+

NIS+ は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境には、NIS+ から LDAP への移行ツールが用意されています。詳細は、<http://www.sun.com/directory/nisplus/transition.html> を参照してください。

pam_unix(5) モジュール

pam_unix(5) モジュールは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。pam_authtok_check(5), pam_authtok_get(5), pam_authtok_store(5), pam_dhkeys(5), pam_passwd_auth(5), pam_unix_account(5), pam_unix_auth(5) および pam_unix_session(5) が同様の機能を提供します。

Perl バージョン 5.005_03

将来 Perl バージョン 5.005_03 は、サポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境では、Perl のデフォルトバージョンが前のバージョン (5.005_03) とバイナリ互換でないバージョンに変更されました (ただし、現在はまだ互換可能です)。サイトで独自にインストールしたモジュールは、新しいバージョンに対応させるために、再構築および再インストールする必要があります。バージョン 5.005_03 を使用する必要があるスクリプトは、デフォルトバージョン (/bin/perl、/usr/bin/perl または /usr/perl5/bin/perl) の代わりに、バージョン 5.005_03 のインタプリタ (/usr/perl5/5.005_03/bin/perl) を明示的に使用するように変更してください。

電源管理入出力制御コマンド

次の電源管理入出力制御コマンド (ioctl_s) は、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

- PM_DISABLE_AUTOPM
- PM_REENABLE_AUTOPM
- PM_SET_CUR_PWR
- PM_GET_CUR_PWR
- PM_GET_NORM_PWR

Solaris 9 オペレーティング環境では、次の ioctl_s が代わりにサポートされています。

- PM_DIRECT_PM
- PM_RELEASE_DIRECT_PM
- PM_GET_CURRENT_POWER
- PM_SET_CURRENT_POWER
- PM_GET_FULL_POWER

ioctl_s の詳細については、pm(7D) マニュアルページを参照してください。

Solaris ボリュームマネージャトランザクションボ リューム

Solaris ボリュームマネージャのトランザクションボリューム (トランスメタデバイス) は、Solaris 機能セットの冗長性を軽減するために、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 8 オペレーティング環境に組み込まれている UFS ロギングおよび互換バージョンで同様の機能が提供されています。

Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents™ は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

SPC ドライバ

SPC ドライバは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

sun4m ハードウェア

sun4m ハードウェアは、Solaris オペレーティング環境の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

XIL

XIL は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: XIL OBSOLESCENCE
  This application uses the Solaris XIL interface
  which has been declared obsolete and may not be
  present in version of Solaris beyond Solaris 9.
  Please notify your application supplier.
  The message can be suppressed by setting the environment variable
  "_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG."
```

xutops プリントフィルタ

xutops プリントフィルタは、将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。Solaris 9 オペレーティング環境の mp(1) プリントフィルタで同様の機能が提供されています。

第 5 章

マニュアルに関する情報

この章では、Solaris 9 のマニュアルに関する補足・訂正情報や、注意事項について説明します。

この章には、Solaris 9 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている Kiosk および Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれている『Solaris 9 ご使用にあたって (SPARC 版)』および印刷マニュアルの『Solaris 9 インストールにあたって (SPARC 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。

- 99 ページの「『Solaris 9 パッケージリスト』」
- 100 ページの「『Solaris 9 インストールガイド』」
- 100 ページの「マニュアルページ sysidcfg(4) と『Solaris 9 インストールガイド』」
- 101 ページの「『Solaris 9 インストールにあたって』」
- 101 ページの「『Solaris カーネルのチューンアップ・リファレンスマニュアル』 (Part No: 816-3961-10) (バグ ID: 4668695)」
- 105 ページの「[日本語環境のみ] man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページが古い」
- 106 ページの「日本語 HTML ファイルに関する注意事項」

マニュアルの訂正・補足と注意事項

『Solaris 9 パッケージリスト』

『Solaris 9 パッケージリスト』の「Solaris 9 オペレーティング環境のパッケージ」には、LDAP パッケージの SUNWl1dap の記述が抜けています。SUNWl1dap パッケージは Solaris 9 オペレーティング環境に含まれ、コア、エンドユーザー、開発者、全体ディストリビューション、および全体ディストリビューション+OEM のメタクラスターに含まれています。

『Solaris 9 インストールガイド』

『Solaris 9 インストールガイド』の「システム要件」の節と「Solaris uninstall プログラム」の節には、Solaris 9 オペレーティング環境の最小メモリー条件が 96M バイトであると記載されていますが、これは間違いです。Solaris 9 オペレーティング環境は 128M バイト以上のメモリーを必要とします。

マニュアルページ sysidcfg(4) と『Solaris 9 インストールガイド』

マニュアルページ sysidcfg(4) と『Solaris 9 インストールガイド』において、sysidcfg ファイルの default_route オプションには IP アドレスだけを使用するように記載されています。しかし、default_route オプションには NONE キーワードも使用できます。

マニュアルページ re-preinstall(1M)

マニュアルページ re-preinstall(1M) の「例 1: JumpStart ソフトウェアのインストール」は、次のように読み替えてください。

次の手順で、システムの専用デフォルトブートディスクに JumpStart ソフトウェアをインストールします。

1. ok プロンプトで、シングルユーザーモードで Solaris メディア (DVD または 1 of 2 CD) からシステムをブートします。

```
ok boot cdrom -s
```

2. re-preinstall コマンドを使用して、システムのデフォルトブートディスクに JumpStart ソフトウェアをインストールします。デフォルトブートディスクは、システムが自動的にブートするディスクスライス (通常はスライス 0) です (システムのデフォルトブートディスクは通常、現在の root (/) ファイルシステムが配置されているところであり、format(1M) コマンドで調べることができます)。たとえば、次のコマンドを使用すると、Solaris 9 システムのデフォルトブートディスク c0t3d0s0 に JumpStart ソフトウェアがインストールされます。

```
example# /usr/sbin/install.d/re-preinstall c0t3d0s0
example# sync;sync;sync; reboot disk:b
```

『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』

Solaris CIM スキーマでは、次のクラスおよび属性に Deprecated 修飾子のタグが付いています。

- Solaris_LogRecord クラス

- Solaris_LogService クラス
- Solaris_LogServiceSetting クラス
- Solaris_IPProtocolEndpoint クラスの OptionsEnabled プロパティ

これらの推奨されないクラスおよび属性には、適切な代替クラスおよび属性を使用してください。適切な代替クラスおよび属性かどうかを判別するには、クラス記述修飾子を参照してください。

『Solaris WBEM SDK 開発ガイド』の「クライアントプログラムの記述」

javax.com.sun.client API で RMI プロトコルを使用する WBEM クライアントを作成し、なおかつ Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーに接続する場合は、クライアントの CLASSPATH に /usr/sadm/lib/wbem/cimapi.jar ファイルを指定する必要があります。cimapi.jar ファイルには、Solaris 8 オペレーティング環境を実行しているサーバーとの通信に必要な com.sun.wbem クラスが指定されています。

『Solaris 9 インストールにあたって』

バグ ID: 4511090 「Solaris 2.6 および Solaris 7 オペレーティング環境で、Solaris 8 DVD 上のデータにアクセスできない」という記述で Solaris 8 DVD は、Solaris 9 DVD と読み替えてください。

『Solaris カーネルのチューンアップ・リファレンスマニュアル』 (Part No: 816-3961-10) (バグ ID: 4668695)

付録 A 「チューニング可能パラメータの変更履歴」の「一般的な入出力」に記載されている、「segkpsize (Solaris 7 およびそれ以前のリリース)」の内容と「rlim_fd_cur (Solaris 7 およびそれ以前のリリース)」の内容とが、誤って入れ替わって記述されています。正しい記述は次のとおりです。

「rlim_fd_cur (Solaris 7 およびそれ以前のリリース)」

説明	1つのプロセスがオープンできるファイル記述子数の「弱い」限度。プロセスは、自身のファイル記述子数限度を、 <code>rlim_fd_max</code> で定義される「強い」限度の範囲内で調整できます。それには、 <code>setrlimit()</code> 呼び出しを使用するか、プロセスを実行するシェルで <code>limit</code> コマンドを実行します。「強い」限度の範囲内で値を調整する場合には、スーパーユーザー特権は必要ありません。
データ型	符号付き整数
デフォルト	64
範囲	1 から MAXINT
単位	ファイル記述子
動的か	いいえ。 <code>rlimits</code> 構造体にロードされます。
検査	<code>rlim_fd_max</code> と比較され、 <code>rlim_fd_cur</code> の方が大きい場合は、 <code>rlim_fd_cur</code> は <code>rlim_fd_max</code> にリセットされます。
どのような場合に変更するか	1 プロセス当たりのデフォルトのオープンファイル数が十分でない場合。この値を増やす意味は、プログラムで <code>setrlimit(2)</code> を使用して自身で使用できる最大ファイル記述子数を増やす必要がなくなる点にあります。
コミットレベル	変更の可能性あり

「segkpsize (Solaris 7 およびそれ以前のリリース)」

説明	利用できるページング可能なカーネルのメモリー量を指定します。このメモリーは主にカーネルスレッドのスタックに使用されます。この値を増やすと、スレッドの数を増やさないのであれば個々のスレッドでより大きなスタックが使用でき、あるいはより多くのスレッドを使用できるようになります。このパラメータは64ビットカーネルでのみ設定できます。64ビットカーネルは、デフォルトでスタックサイズに24Kバイトを使用します。このパラメータは、パッチ106541-04が適用されたSolaris 7リリース、Solaris 7 5/99リリース、およびSolaris 8リリースで使用できます。
データ型	符号なし long
デフォルト	64ビットカーネルでは2Gバイト、32ビットカーネルでは512Mバイト
範囲	64ビットカーネルでは512Mバイトから24Gバイト、32ビットカーネルでは512Mバイト
単位	Mバイト
動的か	いいえ
検査	なし

どのような場合に変更 スレッドを増やしたい場合
するか

コミットレベル 変更の可能性あり

また、修正後のマニュアル (Part No: 816-3961-11) は、後日 <http://docs.sun.com/> に掲載する「Solaris 9 9/02 System Administrator Collection - Japanese」に提供される予定です。

『日本語環境ユーザーズガイド』の日本語フォントの訂正

『日本語環境ユーザーズガイド』の4章「日本語 TrueType フォントと日本語ビットマップフォント」の表 4-1 に不足情報がありました。以下の表を参照してください。

表 5-1

文字集合	字体	ビットマップフォント	TrueTypeフォント
JIS X 0201:1976、 JIS X 0208:1983	ゴシック体	○	-
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983	ゴシック体ボールド	○	-
JIS X 0201:1976、 JIS X 0208:1983	明朝体	○	-
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983	明朝体ボールド	○	-
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983	HG ゴシック体 B	○	○
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983	HG 明朝体 L	○	○
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983, JIS X 0212:1990, JIS X 0213:2000-1, JIS X 0213:2000-2	RICOH ゴシック体	○ ¹	○
JIS X 0201:1976, JIS X 0208:1983, JIS X 0212:1990, JIS X 0213:2000-1, JIS X 0213:2000-2	RICOH 明朝体	○ ¹	○
JIS X 0212:1990 ²	平成明朝体 W3H	○	○

注 1: JIS X 0201:1976、 JIS X 0208:1983 のビットマップフォントはありません。

注 2: 平成明朝体 W3H の利用にはシステムの変更が必要です。

『日本語環境ユーザズガイド』の「ja JP.UTF-8 ロケールとフォントに関する注意事 項」

ja_JP.UTF-8 で使用するフォントの表および説明は以下を参照してください。

キャラクタセット	フォント
ISO8859-1:GL(ASCII)	JISX0201.1976-0
ISO8859-1:GR	ISO8859-1
ISO8859-5:GR	ISO8859-5
ISO8859-7:GR	ISO8859-7
ISO8859-2:GR	ISO8859-2
ISO8859-4:GR	ISO8859-4
ISO8859-9:GR	ISO8859-9
ISO8859-15:GR	ISO8859-15
JISX0208.1983-0:GR	JISX0208.1983-0
JISX0201.1976-0:GR	JISX0201.1976-0
JISX0212.1990-0:GR	JISX0212.1990-0
JISX0213.2000-1:GR	JISX0213.2000-1
JISX0213.2000-2:GR	JISX0213.2000-2
KSC5601.1992-3:GLGR	KSC5601.1992-3
GB2312.1980-0:GR	GB2312.1980-0
BIG5-1:GLGR	BIG5-1
TIS620.2533-0:GR	TIS620.2533-0
ISO8859-6:GLGR	ISO8859-6
ISO8859-8:GR	ISO8859-8
SUN.UNICODE.INDIA-0:GLGR	SUN.UNICODE.INDIA-0
SUNUDCJA.1997-0:GL	SUNUDCJA.1997-0
UNICODE-FONTSPECIFIC:GLGR	UNICODE-FONTSPECIFIC

たとえば、U+0410 (Cyrillic Capital Letter A) は、ISO8859-5 と JIS X 0208:1983 など複数のフォントにグリフが存在しますが、上記のルールによって ISO8859-5 のフォントが実際に使用されます。また、CKJ Unified Ideographs エリアにある漢字で使用されるフォントは、JISX0208.1983 -> JISX0212.1990 -> JIS X 0213:2000-1 -> JIS X 0213:2000-1 -> KSC5601.1992-3 -> GB2312.1980 -> BIG5-1 の優先順位で使用されます。また、JISX 0213 は Unicode 3.1 で定義された JISX 0213 が取り扱い可能です。

『日本語環境ユーザズガイド』の留意事項の訂正 1

「mp コマンドで印刷する場合の制限事項」の記述は以下のように読み換えてください。

ja、ja_JP.eucJP、ja_JP.PCK ロケール上では、デフォルトで mp(1) はユーザー定義文字、JIS X 0212、IBM 選定拡張文字、JIS X 0208 13 区の NEC 特殊文字などの印刷をサポートしていません。これらの文字を印刷する場合は '-M' を指定するか、jpostprint(1) を使用してください(ユーザー定義文字を含む場合は jpostprint(1) を使用してください)。

『日本語環境ユーザズガイド』の留意事項の訂正 2

バグ ID: 4030803 の「DPS でフォントをインストールする場合は」という記述は、「DPS でインストールしたフォントを利用する場合には」と読み換えてください。

[日本語環境のみ] man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページが古い

一部の man3X11、man3Xt の日本語翻訳マニュアルページは、内容が最新ではありません。

回避方法: 日本語マニュアルページは参考とし、最新の情報は英語版マニュアルページを参照してください。(例: % env LANG=C man XtAddCallback)

Solaris 9 DOCUMENTATION CD に関する注意事項

ナビゲーションファイルに関する注意事項

Solaris 9 DOCUMENTATION CD には、各言語のコレクションへのリンクなどを集めたナビゲーション用の html ファイル群が用意されています。CD 上からは、これらのナビゲーション用ファイルを参照または使用することができます。

Solaris 9 DOCUMENTATION CD を、インストールした場合には、インストールされた各コレクションへのリンクを持つナビゲーション用の html ファイルが生成されます。生成されるファイル名は、`/var/opt/sun_docs/sundocs.html` です。このファイルから Netscape などのブラウザにより各コレクションをたどることができます。

日本語 HTML ファイルに関する注意事項

Solaris 9 DOCUMENTATION 2 of 2 CD に含まれる日本語 HTML ファイルをブラウザから参照する際には、ブラウザの文字コードセットを EUC-JP または Auto Detect に設定してください。

付録 A

Solaris 9 オペレーティング環境で統合されたパッチ

次に、Solaris 9 オペレーティング環境ではすでにバグが修正されている Solaris パッチの最新のリリースの一覧を示します。

Solaris 9 オペレーティング環境ではすでにバグが修正されている Solaris パッチの最新のリリースについての情報を提供するために、この一覧では、過去に正式にリリースされた Solaris 2.6、7、8、および 9 のパッチについての次の情報を提供します。

- パッチ ID 番号
- パッチが対処する問題の概要
- パッチが解決する問題の Sun のバグ ID

個々のパッチの詳細については、<http://sunsolve.sun.com> にある SunSolve Web サイトを参照してください。

統合されたパッチの一覧

- **103346-29 – Hardware/PROM: Sun Enterprise 3x00/4x00/5x00/6x00 flashprom update**

4227029 4337390 4363705 4363710 4367704 4369737 4372421 4372901 4376898 4382335 4382936
4392578 4401657 4403815 4412551 4427581 4430346 4431288 4452390 4469179

- **104018-08 – Solstice Site/SunNet/Domain Manager 2.3 Rev B: jumbo patch**

4349410

- **104169-08 – Hardware/PROM: Ultra 2 Standalone Flash PROM Update**

4310258 4174299 4200529 4256699

- **104190-14 – Solstice CMIP 8.2.1 : patch for runtime and examples fixes**

4291455 4310758 4280650

- **104288-07 – Hardware/PROM: Ultra 1E Standalone Flash PROM Update**

4310258 4256699

- **104366-10 – Fortran 90 1.2: Patch for Fortran 90 1.2**

4199439

- **104468-19 – Solstice AdminSuite 2.3/AutoClient 2.1: y2000 NIS+ BSM**

4297356

- **104529-15 – FORTRAN 77 4.2: Patch for FORTRAN 77 4.2**

4141066

- **104631-07 – SPARCompiler C++ 4.2: C++ 4.2 patch for Solaris 2.x**

1224985 1265563 4028292 4044133 4050683 4050876 4064298 4066271 4067988 4068034 4080025
4081421 4081663 4082049 4082776 4083233 4083417 4086206 4087521 4088228 4089011 4091451
4091607 4092166 4094907 4095428 4095545 4096164 4097231 4099207 4100612 4100882 4102613
4104811 4106809 4109013 4113130 4114550 4116182 4119513 4119968 4120853 4121018 4122885
4123883 4127741 4133851 4134073

- **104632-11 – SPARCompiler Pascal 4.2: Patch for Pascal 4.2**

4302142

- **104668-09 – SPARCompiler C 4.2: C patch for Solaris 2.x**

4129956

- **104731-06 – WorkShop IPE 4.0: Patch for dbx**

4100898 4123468 4139822

- **104829-02 – FLEXlm 4.1c: Patch for FLEXlm 4.1c and lit/lit_tty**

1246151 4217374 4217394

- **104839-06 – Hardware, 4.2GB Disks: Download program and ST15230 0764 firmware**

4129552 4132049

- **104844-06 – WorkShop IPE 4.0: Patch**

4115341

- **104881-07 – Hardware/PROM: Ultra 1 (non-E) Standalone Flash PROM Update**

4310258

- **104919-04 – TeamWare 2.0: Patch for TeamWare 2.0**

4169072 1156784 1175319 4010432 4025127 4042642 4047794 4048178

- **105022-03 – Solstice Frame Relay 2.0.1**

4321474 4528940 4530719

- **105079-03 – Solstice RFC1006/TLI Module 1.0: Patch**

4205498 4247246

- **105084-16 – Solstice X25 9.1 patch**

4499732 4513458

- 105515-28 – SunLink 3270 Open Client 9.1: Patch 105515-28

4410093 4410525

- 105849-02 – TMN Agent Tester jumbo patch

4211135 4366615 4358221

- 105937-10 – SunLink 3770 Device Emulator, 9.1: patch 105937-10

4320946

- 106122-09 – Hardware/PROM: Enterprise 450 / Ultra 450 Standalone Flash PROM Update:sun4u enterprise 450 / ultra 450 only

4389716 4390598 4399746

- 106144-27 – SunOS 5.7: Elite3D AFB Graphics Patch.sun4u

4493563

- 106147-06 – SunOS 5.7: VIS/XIL Graphics Patch

4269131

- 106164-21 – SunLink SNA GMAN Gateway Manager, 9.1: Patch 106164-21

4511975

- 106165-12 – SunLink SNA GMI Graphical Interface, 9.1: Patch 106165-12

4431540

- 106392-02 – ShowMe TV 1.2.1: ShowMe TV application patch

4175676

- 106455-11 – Hardware/PROM: Ultra 60 & E220R Standalone Flash PROM Update

4416722 4421857 4483753

- 106463-04 – TMNscript patch

4334132 4388917 4335613 4345322 4343880

- 106503-06 – Hardware/PROM: Enterprise 250 Standalone Flash PROM Update

4389716 4390598 4399746

- 106513-04 – RAID Manager 6.1.1: RM6.1.1 status chk, TX chip support, data error

4293936

- 106514-10 – Sun Internet Mail Server 3.5: Misc. fixes

4275342 4285243 4291426 4297233 4299267 4308838 4310789 4319682 4324321

- 106621-10 – Sun Directory Services 3.1 patch

4481734

- 106627-11 – Solstice DiskSuite 4.2: Product Patch

4343488

- 4119410 4160413 4246594

 - 106646-03 – SNC 3.2: rpc.pcnfsd has security problem, also hangs and dumps core
- 4296268

 - 106725-02 – OpenWindows 3.6.1: mailtool vacation security patch
- 4250171

 - 106733-07 – SunOS 5.7: Create a patch analyzer
- 4086246

 - 106736-02 – Solstice Backup 5.1.1: Product Patch
- 4484132

 - 106738-08 – SunFDDI: SBus 6.0 AP failure, panic, stat
- 4435423

 - 106739-12 – SunFDDI/P 2.0: Enhancements
- 4297060

 - 106748-04 – SunOS 5.7: /usr/ccs/bin/sccs and /usr/ccs/bin/make patch
- 4403509 4394108 4393797 4372948 4262173 4213852 4172562

 - 106760-02 – PPP 3.0.1: 64-bit clean code, /var permissions
- 4415127

 - 106765-08 – Sun Gigabit Ethernet 2.0: Patch for Solaris 7 ge driver
- 4366956 4375449

 - 106793-07 – SunOS 5.7: ufsdump and ufsrestore patch
- 4336161

 - 106817-04 – Hardware, 9GB Disks: Download program and ST39173W 4315 firmware
- 4456925 4530214

 - 106822-07 – Solstice CMIP 8.2.1 : patch for runtime and examples fixes
- 4193529

 - 106857-10 – SunOS 5.7: IS08859-15 bug fixes and EOL Openwindows support.
- 4233236

 - 106887-02 – SunOS 5.7: SunVideo 1.4 Patch
- 4299526

 - 106888-02 – SunOS 5.7: Buttons/Dials Patch
- 4430419

 - 106922-11 – SunHSI/P 2.0: HSIP driver, test hardness, multiboard, loopback

- 4407566
 - 106926-10 – SunOS 5.7: sdtudctool, sdtudc_register and sdtudc_extract patch
- 4527363
 - 106934-04 – CDE 1.3: libDtSvc Patch
- 4208656 4284409
 - 106938-04 – SunOS 5.7: libresolv patch
- 4149694 4302216
 - 106944-03 – SunOS 5.7: /kernel/fs/fifofs and /kernel/fs/sparcv9/fifofs patch
- 4111755
 - 106946-07 – SunOS 5.7: /usr/sbin/sar Patch
- 4489569
 - 106952-03 – SunOS 5.7: /usr/bin/uux patch
- 4335856 4318582 4314590 4311235 4305302 4304108
 - 106955-05 – SunSAI/P 2.0: fixes and enhancements
- 4392134
 - 106978-12 – SunOS 5.7: sysid patch
- 4243140 4246381
 - 107014-02 – XIL 1.4: Deskset Loadable Pipeline Libraries Patch
- 4409676
 - 107018-03 – SunOS 5.7: /usr/sbin/in.named patch
- 4285729
 - 107022-08 – CDE 1.3: Calendar Manager patch
- 4433585
 - 107026-12 – SunOS 5.7: ucblinks and su driver patch
- 4336161
 - 107028-02 – Hardware, 18/9/4GB disks: Download program and MAA3182S/MAB3091S/MAB3045S 2107 firmware
- 4186361
 - 107037-02 – Solstice Enterprise Agent 1.0.3: For SNMP and DMI Toolkit SUNWsasdk
- 4392144 4434978
 - 107038-02 – SunOS 5.7: apropos/catman/man/whatis patch
- 4221453
 - 107042-03 – SunOS 5.7 (JFP 7): install/sysadm messages patch

- 107058-01 – SunOS 5.7: Patch for assembler

4198684

- 107094-12 – CDE 1.3: dtterm libDtTerm.so.2 Patch

4387002

- 107104-13 – OpenGL 1.1.2: OpenGL Patch for Solaris 7/8 (32-bit)

4312374 4329898 4330878 4332124 4336148 4336763 4338060 4342631 4344497 4344641 4344844
4345636 4347472 4352058 4356654 4361554 4361909 4363275 4363493 4365466 4365540 4366022
4367901 4368035 4370215 4370242 4377560 4379841 4380402 4381416 4381432 4382007 4382236
4388315 4389573 4390143

- 107105-13 – OpenGL 1.1.2: OpenGL Patch for Solaris 7/8 (64-bit)

4312374 4329898 4330878 4332124 4336148 4336763 4338060 4342631 4344497 4344641 4344844
4345636 4347472 4352058 4356654 4361554 4361909 4363275 4363493 4365466 4365540 4366022
4367901 4368035 4370215 4370242 4377560 4379841 4380402 4381416 4381432 4382007 4382236
4388315 4389573 4390143

- 107119-06 – SunOS 5.7: JFP manpages patch

4386617

- 107124-03 – SunOS 5.7 (JFP 7): Message files patch

4240891

- 107178-02 – CDE 1.3: libDtHelp.so.1 patch

4345282

- 107180-28 – CDE 1.3: dtlogin patch

4449245

- 107187-02 – SunOS 5.7: Miscellaneous Eastern European locale problems

4287069

- 107226-18 – CDE 1.3: dtwm patch

4468742

- 107242-02 – Java DMK 3.0: Patch

4241350 4247240 4247242 4224772 4232774 4215388 4218501 4173673 4202115 4179034 4200376
4223900 4176006 4213058

- 107245-02 – Java DMK 3.0: patch (Runtime only)

4241350 4247240 4247242 4224772 4232774 4215388 4218501 4173673 4202115 4179034 4200376
4223900 4176006 4213058

- 107248-02 – CDE 1.3: sdtaudio patch

4123057

- 107250-02 – OpenWindows 3.6.1: libsv8.so.1 Patch

4194602

- 107283-07 – Sun Calendar Server 1.0: Misc. Fixes

4284104 4303839 4303844

- 107289-05 – C 5.0: Patch for C 5.0 compiler

4287437 4288216 4234938 4290257 4209313

- 107292-08 – SunOS 5.7: ifp driver patch

4356703 4365549

- 107295-02 – WorkShop IPE 5.0: Patch for WorkShop IPE 5.0

4196995 4218329 4299259

- 107311-16 – C++ 5.0: Patch for C++ 5.0 compiler

4522954

- 107316-01 – SunOS 5.7: localeconv() returns wrong results for French

4192615

- 107332-02 – SunOS 5.7: libadm patch

4197828

- 107337-02 – SunOS 5.7: KCMS configure tool has a security vulnerability

4415570

- 107350-03 – XGL 3.3.1: XGL Patch (unstripped version)

4299513 4324209 4307975

- 107351-03 – XGL 3.3.1: XGL Patch (stripped version)

4299513 4324209 4307975

- 107354-05 – TeamWare 2.1: Patch for TeamWare 2.1

4549075 4523423 4293534

- 107355-07 – WorkShop IPE 5.0: Patch for dbx

4377362 4338706

- 107356-05 – Fortran 90 2.0: Patch for Fortran 90 (f90) 2.0 compiler

4297891 4242306 4294983 4311889 4326671

- 107357-11 – Compiler Common 5.0: Patch C 5.0, C++ 5.0, F77 5.0, F90 2.0

4286729 4300391 4309003 4314039 4318075 4351256

- 107358-07 – WorkShop IPE 5.0: Patch for 64-bit dbx

4377362 4338706

- 107374-02 – Openwindows 3.6.1: Xview Patch

4458476

- 107377-05 – Fortran 90 2.0: Patch for 64-bit Fortran 90 (f90) 2.0 compiler

4297891 4242306 4294983 4311889 4326671

- 4522954
 - 107390-16 – C++ 5.0: Patch for 64-bit C++ 5.0 compiler
- 4448655
 - 107403-02 – SunOS 5.7: rmod & telmod patch
- 4228950
 - 107437-03 – SunOS 5.7: support IBM Cp837 and Cp874 iconv modules(th_TH)
- 4244676
 - 107438-02 – SunOS 5.7: iso8859-15 locale copy and paste fix
- 4452732
 - 107441-03 – SunOS 5.7: /usr/bin/mailx patch
- 4378183
 - 107443-14 – SunOS 5.7: packaging utilities patch
- 4352273
 - 107450-04 – SunOS 5.7: /platform/SUNW,Ultra-Enterprise-10000/lib/cvcd patch
- 4112039
 - 107454-05 – SunOS 5.7: /usr/bin/ftp patch
- 4356459
 - 107465-04 – SunOS 5.7: /kernel/fs/hsfs and /kernel/fs/sparcv9/hsfs patch
- 4259911 4301468 4303182 4307129 4322210 4328635 4330062
 - 107469-08 – SunOS 5.7: sf & social drivers patch
- 4255622
 - 107472-02 – SunOS 5.7: ses driver patch
- 4239619 4255709 4278281 4300876 4306571 4325179 4328845 4331309 4332727 4342013 4346160
4349481 4351705 4353263 4354574 4364789 4375525 4375872
 - 107473-07 – SunOS 5.7: luxadm patch
- 4483514 4523990 4527873
 - 107475-04 – SunOS 5.7: /usr/sbin/in.telnetd Patch
- 4215075
 - 107477-04 – SunOS 5.7: /usr/lib/nfs/mountd Patch
- 4462707
 - 107515-05 – SunPCi 1.0: for Solaris 2.5.1, 2.6, 7 and sparc architectures
 - 107538-05 – Sun Cluster 2.2: System Management Patch
- 107543-02 – SunVTS 3.0: Test patch for cpudata, m64test, saiptest, disktest, tapetest, nettest and sptest.

4173086 4148477 4186408 4176493 4199391 4176804 4180290 4174977 4172713

- 107544-03 – SunOS 5.7: /usr/lib/fs/ufs/fsck patch

4267022

- 107557-02 – SunOS 5.7: /usr/sbin/sag patch

4258285

- 107589-08 – SunOS 5.7: se, zs, kbd and kbio.h Patch

4409169 4417136 4463087

- 107596-03 – F77 5.0: Patch for FORTRAN 77 (f77) 5.0 compiler

4253715 4250185

- 107636-09 – SunOS 5.7: X Input & Output Method patch

4497548 4517493

- 107650-08 – OpenWindows 3.6.1 X11R6.4 Xprint Extension Patch

4358753

- 107652-06 – OpenWindows 3.6.1: X11R6.4 XKB Extension Patch

4280807

- 107698-01 – ild 3.0: Patch for ild 3.0 (SPARC)

4196586 4205569 4200410 4199709

- 107702-09 – CDE 1.3: dtsession patch

4349846

- 107722-01 – ild 3.0: Patch for 64-bit ild 3.0 (SPARC/V9)

4196586 4205569 4200410 4199709

- 107742-01 – WorkShop IPE 5.0: Patch for Performance Analyzer

4188151

- 107743-09 – SunOS 5.7: Sun Quad FastEthernet 2.2

4467799 4469987 4486431 4493834 4369563 4473952 4437412 4348511 4424879

- 107744-02 – SunOS 5.7: /usr/bin/du and /usr/xpg4/bin/du patch

4306228

- 107746-03 – SunOS 5.7: Croatian locale hr_HR corrections

4266292 4266293 4266298 4266300

- 107796-03 – SunOS 5.7: /kernel/fs/lofs patch

4126922

- 107799-02 – SunOS 5.7: compress/uncompress/zcat patch

4295877

- 4267022
 - 107834-03 – SunOS 5.7: dkio.h & commands.h patch
- 4258764
 - 107841-03 – SunOS 5.7: rpcsec patch
- 4247300
 - 107843-02 – SunOS 5.7: /sbin/init and /usr/sbin/init patch
- 4235785
 - 107845-02 – SunATM 4.0: Cannot unplumb failed hardware
- 4380805
 - 107885-08 – CDE 1.3: dtprintinfo Patch
 - 107887-10 – CDE 1.3: Actions Patch
- 4353583 4178221
 - 107893-15 – OpenWindows 3.6.1: Tooltalk patch
- 4499995
 - 107933-02 – SunOS 5.7: l10n_euro message updates for SUNW(euro)is SUNW (euro)os 899
- 4215590
 - 107935-02 – SunOS 5.7: l10n_euro message updates for SUNW(euro)is SUNW (euro)os MU
- 4215590
 - 107938-04 – SunPCi 1.0.1: for Solaris 2.5.1, 2.6, 7 and sparc architectures
 - 107941-02 – SunOS 5.7: Incorrect day order in Portuguese and Brazilian locales.
- 4059797
 - 107952-02 – HPC 3.0: MPI library fixes
- 4248856 4248999 4248857 4250047 4248208 4252527 4252893 4259229 4259523 4266878
 - 107953-02 – HPC 3.0: MPI 64bit fixes
- 4248856 4248999 4248857 4250047 4248208 4252527 4252893 4259523 4265638 4266878
 - 107956-02 – HPC 3.0: CRE fixes
- 4249505
 - 107957-02 – HPC 3.0: CRE 64bit fixes
- 4249505
 - 107959-02 – SunLink TRI/S 4.0: tr driver patch
- 4237658 4250123 4165724
 - 107968-01 – SunOS 5.7: 'Chinese/English' key is not working correctly

- 4246819
- 107972-02 – SunOS 5.7: /usr/sbin/static/rcp patch
- 4366956 4375449
- 107999-02 – HPC 3.0: Prism 64bit fixes
- 4274108
- 108029-03 – SunOS 5.7: S899 u3 prodreg fix for Java 1.1 and Java 1.2 VM
- 4434523
- 108049-09 – Solstice Internet Mail Server 4.0: Misc. fixes
- 4308271 4322108 4324661 4327184 4328665 4333766 4352421 4363256 4366273 4372645 4374698
4374937 4378530 4383539 4384087 4385899 4386605 4399599 4404802 4408123 4410075 4413282
4415361 4428152 4429356 4439022 4449652 4457457 4460396 4471836 4477797
- 108068-03 – SunOS 5.7: Manual Page updates for Solaris 7
- 4235625
- 108080-02 – SSP 3.1.1: power off system boards on domains at OBP causes arbstops
- 4335877
- 108089-04 – SunOS 5.7: /usr/bin/tail Patch
- 4500188
- 108100-03 – AP 2.2: networking switching mutex_panic HW chksumming
- 4297640 4337444 4338346 4339219
- 108103-02 – Hardware, 9/4GB Disks: Download program and DDRS39130/DDR34560 S98S firmware
- 4336161
- 108105-02 – Hardware, 9GB Disks: Download program and ST39102LC 6329 firmware
- 4336161
- 108117-04 – OpenWindows 3.6.1: Font Server patch
- 4345905
- 108119-02 – SSP 3.1.1: sys_id and genkey need libsysid to recognize COD
- 4376375
- 108127-05 – ShowMe TV 1.3: ShowMe TV application patch
- 4425902 4429829
- 108131-17 – OpenGL 1.2: OpenGL Patch for Solaris 2.5.1/2.6/7/8 (32-bit)
- 4445438 4446182 4447800 4448498 4455959 4459976 4463773 4465869 4466520
- 108132-17 – OpenGL 1.2: OpenGL Patch for Solaris 7/8 (64-bit)

4445438 4446182 4447800 4448498 4455959 4459976 4463773 4465869 4466520

- **108134-02 – SSP 3.1.1: edd doesn't detect/reboot domain that failed to boot in OBP**

4265626

- **108135-02 – SSP 3.1.1: codd does not stop when SSP made into spare**

4294678

- **108142-02 – SunHIPPI/P 1.0: hippi driver patch**

4259534 4266790 4262839 4262503 4264553

- **108151-02 – CDE 1.3: sdtname patch**

4123057

- **108162-05 – SunOS 5.7: jsh, rsh, sh, rksh, ksh patch**

4140307 4375814 4457880

- **108175-02 – SunOS 5.7: DSR Upgrade patch for localization packages**

4324404

- **108197-02 – CDE 1.3: dtpad patch**

4257599

- **108203-05 – SunOS 5.7: adb macro & headers for fibre channel transport layer**

4270724 4342072 4343660 4344776 4344777 4353138 4353873 4353887 4353895 4353900 4353906
4355988 4357644 4363620 4364099 4368105 4368384 4370554 4372083 4372763 4373469 4373730
4377643

- **108207-04 – Web Access 1.2: Misc. fixes**

4251090 4325489 4343881 4379805

- **108213-02 – Solstice Internet Mail Server 4.0: SKI/SSL Services**

4303035

- **108230-03 – SSP 3.1.1: Truncated temperature values are reported by CBE**

4344533

- **108244-03 – SunOS 5.7: libaio patch**

4457358

- **108301-02 – SunOS 5.7: /usr/sbin/in.tftpd patch**

1110881

- **108303-12 – Sun Ray Enterprise Server version 1.0 Update Patch**

4441806 4462352

- **108304-02 – TS91 Alarm patch**

4293351

- **108309-02 – SunOS 5.7: /usr/kernel/fs/pcfs patch**

- 4121297
- 108317-02 – SunOS 5.7: idn driver patch
- 4332521
- 108318-05 – SunOS 5.7: ecpp driver patch
- 4378189
- 108327-02 – SunOS 5.7: /usr/bin/cu patch
- 4406722
- 108343-04 – CDE 1.3: sdtperfmeter patch
- 4280252
- 108353-01 – Bandwidth Manager: 1.5 patch
- 4236384 4270154 4235102 4265111 4265113 4261564 4280322 4270141 4205871 4295804
- 108374-05 – CDE 1.3: libDtWidget Patch
- 4360030
- 108414-02 – SunOS 5.7: /usr/bin/cpio patch
- 4318063
- 108424-03 – Sun Cluster 2.2: Data Service Common Patch
- 4406127
- 108451-05 – SunOS 5.7: rpcmod patch
- 4220742 4249056
- 108478-01 – SunPCi 1.1.2: for Solaris 2.5.1, 2.6, 7 and sparc architectures
 - 108482-02 – SunOS 5.7: /usr/sbin/snoop patch
- 1110881
- 108536-05 – SSP 3.1.1: 4/8meg cache mixed on one board fails Sup new ecache srams
- 4369241
- 108543-05 – SSP 3.2: 4/8meg cache mix on one board fail new ecache POST SUPP SRAM
- 4369241
- 108551-03 – SunOS 5.7: /usr/sbin/rpc.nispasswdd patch
- 4124715
- 108553-07 – RAID Manager 6.22: generic RM6.22 patch for Solaris 8
- 4334761 4354225 4340360 4338928 4331703 4252343 4296354 4324198 4295540 4222386 4300763
4338808 4400410 4400636
- 108569-06 – X11 6.4.1: platform support for new hardware

- 4414947
- 108574-04 – SunOS 5.7: /usr/bin/csh Patch
- 1227664 4494351
- 108577-01 – TS91 Alarm patch
- 4271109
- 108585-03 – SunOS 5.7: llc2 driver patch
- 4400795
- 108593-02 – Java Plugin 1.2: Product patch for Solaris
- 4326326
- 108620-04 – Hardware/PROM: Netra t1 Standalone User PROM Update
- 4307608
- 108625-02 – SunVideo Plus 1.3: bug fix
- 4275288 4410488 4450656 4303923 4299297
- 108673-02 – Hardware/PROM: Netra t1 System PROM Update
- 4357307
- 108679-04 – SSP 3.2: system-board voltages reported in SSP MIB are inconsistent.
- 4405737 4504757
- 108691-01 – HPC 3.0: LSF daemons and libs updates and fixes
- 4282539 4205166 4250064 4244889 4318278
- 108692-01 – HPC 3.0: LSF user and examples updates and fixes
- 4282539 4282542 4318278
- 108693-07 – Solstice DiskSuite 4.2.1: Product patch
- 4424910
- 108701-10 – SunFDDI/P 3.0: DR panic, memory leak, truncated packets
- 4461517 4501257 4453113 4510056
- 108711-04 – SunOS 5.8: Missing Catalan Locale Support
- 4337258
- 108714-05 – CDE 1.4: libDtWidget patch
- 4360030
- 108719-05 – AP 2.3: BAD TRAP panic with mether_rarp with AP network switching
- 4378515
- 108720-02 – AP 2.3: Reboot after removing network drivers - AP databs not updated

- 4297492 4346464 4404608
- 108721-04 – SunOS 5.7: admintool patch
- 4509669
- 108734-02 – SunOS 5.8: Polish UTF-8 Support Solaris 8
- 4328876
- 108735-03 – SunOS 5.8: u.RU.KOI8-R: Cannot cut and paste cyrrilic between dtapps
- 4359095
- 108748-02 – SunOS 5.7: /usr/lib/nfs/statd patch
- 4456871
- 108750-02 – SunOS 5.7: /usr/lib/netsvc/yp/ypbind patch
- 4362647
- 108773-14 – SunOS 5.8: IIIM and X Input & Output Method patch
- 4497548 4517493 4524098 4529127 4519405
- 108781-02 – SunOS 5.8: Get UDCTool to work for zh_TW
- 4494067
- 108789-03 – SunHIPPI/P 1.1: hippi driver patch
- 4409924
- 108790-03 – SunOS 5.7: Cultural settings update for European locales
- 4418017 4421616 4421620 4423328 4456303
- 108798-02 – SunOS 5.7: /usr/bin/tip patch
- 4330475 4430971
- 108806-08 – SunOS 5.8: Sun Quad FastEthernet qfe driver
- 4467799 4469987
- 108815-02 – OpenWindows 3.6.1: Calendar Manager patch
- 1199013
- 108834-07 – RAID Manager 6.22: generic RM6.22 pre Solaris 8 patch
- 4252343 4338808 4400410 4400593
- 108838-03 – SunOS 5.7: allocate/mkdevmaps/mkdevalloc Patch
- 1229659 4284187
- 108873-03 – Hardware, 9/4GB Disks: Download program and M2949ESP/M2954ESP 2853 firmware
- 4336161

- 4458358 ■ 108885-09 – SSP 3.3: Modify POST/SSP to support CIC2 asic and new ecache SRAM
- 4305734 ■ 108897-01 – X11 6.4.1 Xprint patch
- 4314558 ■ 108901-04 – SunOS 5.8: /kernel/sys/rpcmod and /kernel/strmod/rpcmod patch
- 4336161 ■ 108907-02 – Hardware, 4GB Disks: Download program and ST34371W 3162 firmware
- 4488832 ■ 108909-12 – CDE 1.4: Smart Card Administration GUI patch
- 4331185 ■ 108914-02 – SunOS 5.8: l10n update: PDA Sync, SmartCard, DHCP mgr, Printer Admin.
- 4519969 ■ 108919-14 – CDE 1.4: dtlogin patch
- 4507039 ■ 108925-10 – SunOS 5.8: smartcard messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales
- 4382603 4357138 4367101 ■ 108935-04 – SunLink TRI/P 4.1: Token Ring Driver Patch
- 4527363 ■ 108949-07 – CDE 1.4: libDtHelp/libDtSvc patch
- 4367148 ■ 108951-03 – CDE 1.3: PDASync patch
- 4328476 4419454 ■ 108964-06 – SunOS 5.8: /usr/sbin/in.tftpd and /usr/sbin/snoop patch
- 4392241 ■ 108968-05 – SunOS 5.8: vol/vold/rmmount patch
- 4347145 ■ 108972-04 – SunOS 5.8: /sbin/fdisk patch
- 4372479 4410561 ■ 108982-09 – SunOS 5.8: fctl/fp/fcp/usoc driver patch
- 108983-08 – SunOS 5.8: /kernel/drv/fcip driver patch

4368384 4369500 4373906

- 108984-08 – SunOS 5.8: /kernel/drv/qlc driver patch

4394478

- 108985-03 – SunOS 5.8: /usr/sbin/in.rshd patch

4324375

- 108989-02 – SunOS 5.8: /usr/kernel/sys/acctctl and /usr/kernel/sys/exacctsys patch

4305365 4313746 4313747 4314201

- 108997-03 – SunOS 5.8: libexacct and libproject patch

4305365 4313746 4313747 4314201

- 109001-03 – SunOS 5.7: /usr/sbin/in.rshd patch

4158689 4305888 4324375

- 109005-03 – SunOS 5.8: /sbin/su.static and /usr/bin/su patch

4331401

- 109009-02 – SunOS 5.8: /etc/magic and /usr/bin/file patch

4047399

- 109013-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/lastcomm patch

4305365 4313746 4313747 4314201

- 109019-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/priocntl patch

4409616

- 109029-02 – SunOS 5.8: perl patch

4458516

- 109035-02 – SunOS 5.8: useradd/userdel/usermod patch

4361232

- 109043-02 – SunOS 5.8: sonode adb macro patch

4322741

- 109072-08 – CDE 1.4: (Japanese) sdtsmartcardadmin update

4457450

- 109082-05 – Hardware/PROM: Ultra 80 & E420R Standalone Flash PROM Update

4484524 4416722 4421857 4483753

- 109089-02 – Solstice Backup 5.5.1: lus driver patch (localized Japanese)

4305435

- 109096-10 – Netbackup 3.2 data corruption fix and jumbo patch

4499273 4507040 4510169

- **109116-04 – SunOS 5.7: fctl & fp driver patch**
 4342072 4344776 4344777 4353138 4355988 4364099 4368105 4368384
- **109117-05 – SunOS 5.7: fcp driver patch**
 4372479 4410561
- **109118-02 – SunOS 5.7: usoc driver patch**
 4278408 4295939 4303724 4303736
- **109120-07 – Solstice AdminSuite 3.0: NIS + compat mode passwd and autohome fixes**
 4431256
- **109127-05 – Sun Ray enterprise server version 1.1 Update Patch**
 4440161 4417780 4393246
- **109133-02 – SunOS 5.8: Cut and Paste not functioning in ru_RU.KOI8-R locale**
 4328876
- **109142-06 – CDE 1.4: dtterm libDtTerm patch**
 4387002
- **109149-02 – SunOS 5.8: /usr/sbin/mkdevmaps and /usr/sbin/mkdevalloc patch**
 1229659 4284187
- **109151-02 – COD 1.0: if expired lic supported codd need to handle error better**
 4399370
- **109169-12 – CDE 1.4: Window Manager Enhancements Patch**
 4411689
- **109179-04 – SunOS 5.8: localization updates for SmartCard and Removable Media**
 4329376 4333754 4329372
- **109200-02 – SunOS 5.8: l10n updates: Rem. Media, Window Mgr & Pam Proj**
 4333002
- **109202-03 – SunOS 5.8: /kernel/misc/gld and /kernel/misc/sparcv9/gld patch**
 4467926
- **109203-03 – SunOS 5.7: edit & vi patch**
 4221158 4364594
- **109234-08 – SunOS 5.8: Apache and NCA patch**
 4489046 4490838 4498385 4510506 4510628
- **109238-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/sparcv7/ipcs and /usr/bin/sparcv9/ipcs patch**
 4446945

- 4312938 ■ 109251-01 – Sun HPC Clustertools 3.1: TMFS_Finalize() can hang on large (>200 processors) jobs
- 4348866 ■ 109260-02 – StarOffice 5.1a (Solaris): Product patch
- 4359419 ■ 109277-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/iostat patch
- 4484841 ■ 109286-02 – HPC 3.1: MPI library fixes
- 4484841 ■ 109287-02 – HPC 3.1: MPI 64bit library fixes
- 4317206 ■ 109290-01 – Netbackup 3.2 Informix Database Extension Patch
- 4370959 4377687 ■ 109298-02 – Veritas File System 3.3.3: Veritas File System multiple fixes patch
- 4377689 4370959 ■ 109299-02 – Veritas File System 3.3.3: Veritas File Systems multiple fixes patch
- 4375814 ■ 109317-02 – Trusted Solaris 7: remote x-windows display from non TS7 hosts causes window system crash.
- 4500573 ■ 109324-04 – SunOS 5.8: sh/jsh/rsh/pfsh patch
- 4373365 ■ 109326-07 – SunOS 5.8: libresolv.so.2 and in.named patch
- 4489582 ■ 109328-02 – SunOS 5.8: /usr/lib/netsvc/yp/ypserv and usr/lib/netsvc/yp/ypxfr patch
- 4534248 ■ 109338-06 – SunSAI/P 3.0: fixes and enhancements
- 4192096 ■ 109354-14 – CDE 1.4: dtsession patch
- 4501846 ■ 109357-04 – SunOS 5.8: Cultural settings update for European locales
- 109374-06 – SunOS 5.8: audioens driver patch:sprac

- 4365407
 - 109377-02 – SunOS 5.7: Incorrect locale categories in Norwegian locale
- 4411003
 - 109381-03 – Solstice Internet Mail Server 4.0_ja: Misc. fixes
- 4502769
 - 109384-03 – SunOS 5.8: libaio patch
- 4326649
 - 109397-02 – SunOS 5.7: sdtname.dt and sdtprocess.dt japanese patches for sparc
- 4371941
 - 109399-03 – Hardware/FCode: FC100/P FibreChannel host adapter FCode update
- 4250955 4240583 4182418 4175596 4169310 4141683 4342664
 - 109400-03 – Hardware/Fcode: FC100/S SBus FibreChannel host adapter rev. 1.13 fcode update
- 4379876 4434235
 - 109409-04 – SunOS 5.7: xntpd and ntpdate Patch
- 4350277
 - 109411-02 – SunOS 5.8: sdtname.dt and sdtprocess.dt japanese patch for sparc
- 4470402
 - 109413-07 – Solstice AdminSuite 3.0.1: NIS + compat passwd autohome rights fixes
- 4466974
 - 109432-05 – Sun Cluster 2.2: Data Service Common Patch
- 4364933
 - 109433-02 – Sun Cluster 2.2: Data Services: Dataservice Patch for Apache Support
- 4406133
 - 109434-02 – Sun Cluster 2.2: HA-Apache Patch
- 4407566
 - 109441-04 – SunOS 5.8: sdtudctool patch
- 4152717
 - 109458-02 – SunOS 5.8: /kernel/strmod/ldterm patch
- 4384012
 - 109460-06 – SunOS 5.8: socal and sf drivers patch
- 4353583
 - 109470-02 – CDE 1.4: Actions Patch

■ 109478-03 – Forte Developer/Sun WorkShop 6: Patch for Debugger

4420378 4411112

■ 109480-02 – F77 5.1: Patch for Forte Developer 6 F77 5.1 compiler

4362600 4367974 4367084

■ 109481-04 – Compiler Common 6.0: Patch C 5.1, C++ 5.1, F77 5.1, F90 6.0

4352904 4358820 4354871 4351256 4335857 4360952 4363354 4331484 4335560 4342977 4346927
4348574 4348639 4348845 4323235 4327312 4330626 4337307 4337886 4344271 4347267 4347360
4348581 4349682 4351402 4351979 4352324 4364074 4345993 4365542 4366814 4368062 4368426
4369216

■ 109485-03 – F90 6.0: Patch for Forte Development 6 compiler

4264317 4367364 4366549 4361776 4277982 4305142 4328199 4335997 4317552 4339531 4341051
4320134 4342448 4152666 4163264 4173310 4188176 4204292 4212144 4219283 4242306 4262286
4277966 4279423 4285322 4293367 4297523 4299544 4300624 4301756 4303881 4305237 4307580
4307583 4308784 4308806 4308812 4308832 4309131 4310482 4311466 4311822 4311831 4312006
4312034 4312287 4312314 4312318 4314417 4314900 4316282 4316430 4318451 4320383 4320994
4320997 4320998 4321835 4321846 4322172 4322178 4323049 4323173 4323449 4324819 4325034
4325823 4325848 4325855 4326221 4326222 4326247 4331458 4302385 4317239 4318192 4319499
4322709 4322933 4322967 4323432 4324963 4325854 4327928 4329016 4325319 4313114 4305381
4328716 4332532

■ 109486-03 – F90 6.0: Patch for 64-bit Forte Development 6 compiler

4264317 4367364 4366549 4361776 4182331 4182332 4182333 4299544 4312287 4320998 4326247
4335997

■ 109488-02 – Forte Developer/Sun Workshop 6: Patch for IPE

4347892

■ 109491-02 – Patch for Forte 6 C 5.1 compiler

4341926

■ 109497-02 – Visual 6.0: Patch for Visual user widget integration

4366644

■ 109504-01 – F90 6.1: Patch for 64-bit Forte Development 6 update 1 F95 6.1 compiler

4361776 4372524

■ 109505-10 – Compiler Common 6.1: Patch C 5.2, C++ 5.2, F77 5.2, F90 6.1

4497625 4496988 4554603 4558804

■ 109510-05 – Forte Developer 6 update 1: Patch for Debugger

4498607

■ 109516-02 – Performance Analyzer 6.0: Patch for Forte Developer 6 update 1

4450451

■ 109519-01 – Forte 6 project (2 exe's + static lib) becomes corrupt upon saving

- 4354164
- 109529-06 – SunOS 5.8: luxadm, liba5k and libg_fc patch
- 4354574
- 109531-04 – Trusted Solaris 7: Kernel fixes for memory leak, memory corruption and tcp.
- 4338628
- 109560-03 – SunOS 5.7: ar has errors in / lacks some LC_CTYPE definitions
- 4310887
- 109568-03 – OpenWindows 3.6.2: sys-suspend need to support low power mode
- 4361324
- 109575-01 – HPC Clustertools 4.0: Support for Loadable Protocol Modules
- 4324736
- 109582-02 – CDE 1.4: sdtaudio patch
- 4432159 4431982 4438451 4429797 4429821 4445064 4426084 4430200 4437137 4335622 4205093
 4334951 4172865 4346390 4373526 4360130 4391013 4389881 4412645 4412646 4417212 4412604
 4413156 4419366 4428810 4460927 4463491 4462800 4462462 4462191
- 109586-09 – netra ct 1.0: patch for Netra ct Element Management Agent.sun4u
- 4513752 4513782 4513809
- 109593-02 – Trusted Solaris 7: Audit records, tnchkdb and NETPATH patch
- 4329815
- 109613-03 – CDE 1.4: dtmail patch
- 4398137
- 109647-01 – SunVTSTCT, SUNWvtstct diag Netract, env4test, alarmtest
- 4350969
- 109661-04 – SSP 3.3: DR attach drops cpu(s) to OBP when domain has heavy cpu load
- 4411156 4424029 4425372
- 109662-03 – Solaris ISP Server 2.0: /usr/lib/inet/in.ftpd patch
- 4445896
- 109667-04 – SunOS 5.8: /usr/lib/inet/xntpd and /usr/sbin/ntpdate patch
- 4379876 4434235
- 109672-01 – Trusted Solaris 7: audit events on trusted 2.5.1 generate invalid label in audit data
- 4276571
- 109684-02 – SSP 3.3: Memory consistency check of post2obp structure failed

- 4402889
- 109695-03 – SunOS 5.8: /etc/smartcard/opencard.properties patch
- 4343216
- 109704-02 – SunOS 5.8: Japanese iconv patch
- 4350293
- 109715-05 – SunHSI/P 3.0: HSIP driver, test hardness, multiboard, loopback
- 4458402
- 109748-03 – CDE 1.4: sdtaudiocontrol patch
- 4426089
- 109754-05 – SunOS 5.8: i2c driver patch:sun4u
- 4501846
- 109764-04 – SunOS 5.8: /kernel/fs/hsfs and /kernel/fs/sparcv9/hsfs patch
- 4356459
- 109766-02 – SunOS 5.8: SUNWjxmft and SUNWjxcft patch for 8/10 dot font.
- 4400714
- 109776-02 – SunOS 5.7: Misc. locales have errors in LC_CTYPE definitions
- 4314261
- 109778-03 – SunOS 5.8: Misc. locales have errors in LC_CTYPE definitions
- 4314261
- 109787-04 – Dual Fiber Channel Host Adapter 1.0: qlc driver patch
- 4394478
- 109788-01 – Trusted Solaris 7: Audit record for pfsh in TS 7 displays admin_high label in raw format
- 4322665
- 109790-01 – Trusted Solaris 7: netpr: buffer overflow in netpr_send_message(), security
- 4328543
- 109795-02 – SunOS 5.7: /kernel/misc/nfssrv patch
- 4495944
- 109811-01 – Trusted Solaris 7: Four vulnerabilities have been found in BIND, security
- 4327055
- 109858-01 – svd codes breaks with ws6.0
- 4336043

- 4336043 4335511

 - 109859-01 – svd and fft codes break with ws6.0
- 4397336

 - 109860-04 – HPC 3.1: Forte 6 support and various fixes
- 4397336

 - 109861-04 – HPC 3.1: Forte 6 support and various fixes (64-bit)
- 4338011 4419807 4507095

 - 109868-05 – SunOS 5.8: CDE and Desktop Power Pack updates for Asian locales
- 4365273 4369863

 - 109870-05 – Netra ct 1.0: Patch for Netra ct Element Management Agent upgrade
- 4269556

 - 109872-01 – SunOS 5.8: vis driver patch
- 4382509

 - 109876-02 – SunOS 5.8: fd driver patch
- 4358337

 - 109879-02 – SunOS 5.8: isadma driver patch
- 4351774

 - 109881-02 – SunOS 5.8: 1394 adb macros patch
- 4480970 4486544 4509547

 - 109882-05 – SunOS 5.8: eri header files patch
- 4310788 4329805 4349418 4364900

 - 109883-02 – SunOS 5.8: /usr/include/sys/ecppsys.h patch
- 4231424 4275177 4321184 4327624 4328624 4334502 4346495

 - 109889-01 – SunOS 5.8: usr platform links and libc_psr patch
- 4375134 4380979

 - 109892-03 – SunOS 5.8: /kernel/drv/ecpp driver patch
- 4490191

 - 109896-07 – SunOS 5.8: USB and Audio Framework patch
- 4365204

 - 109898-05 – SunOS 5.8: /kernel/drv/arp patch
- 4382115

 - 109900-02 – SunOS 5.8: /etc/init.d/network and /sbin/ifparse patch
- 4382115

 - 109902-03 – SunOS 5.8: /usr/lib/inet/in.ndpd patch

4386544

- 109920-06 – SunOS 5.8: pcic driver patch

4362529

- 109922-02 – SunOS 5.8: pcelx, pcser and cs driver patch

4352663

- 109924-03 – SunOS 5.8: pcata driver patch

4309269

- 109926-02 – SunOS 5.8: /kernel/drv/pem and /kernel/drv/sparcv9/pem patch

4352663

- 109928-04 – SunOS 5.8: pcmem and pcmcia patch

4355964

- 109930-01 – SunVTS 3.4 vtsk hangs or dies on large E10K configuration , Unable to disable scsi tests

4318966 4339289

- 109943-03 – StarOffice 5.2 (Solaris): Product patch

4348396 4352088 4353178 4355165 4355294 4364238 4366048 4371057 4371620 4378555 4380780
4385299 4394174 4394637 4397679 4403926 4404336 4405332 4407094 4411691 4411701 4418022
4419026 4419347 4422704 4423245 4427717 4435575 4446352 4446867 4447047 4449508 4460378
4463664 4464076 4472155 4476104 4477309 4495029 4505561 4505574 4505576 4505578 4505601
4505604 4505606 4505608 4505610 4505611 4505612 4505613 4505616 4505619 4506103 4506110
4506606 4506608 4506611

- 109973-07 – FWC 2.0: nvmem driver on attach erroneous diagnostics Patch

4407406

- 109974-07 – FWC 2.0: nvmem driver on attach erroneous diagnostics Patch

4407406

- 109985-07 – STE 1.2: enabling individual vdisk(s) with steadm Patch:sun4u

4407154

- 109986-07 – STE 1.2: enabling individual vdisk(s) with steadm Patch:sun4u

4407154

- 110002-02 – Security and other fixes for 32-bit CRE

4389877 4398221

- 110003-02 – Security and other fixes for 64-bit CRE

4389877 4398221

- 110004-02 – StarOffice 5.1a (Solaris): sym link perms. and long URL core dump fix

4378928

- 4122829 4318966

 - 110010-02 – vtsui disappears with no core and X error
- 4353727

 - 110011-02 – AnswerBook 1.4.2: create admin user that can interact with shell
- 4352834

 - 110023-04 – SunOS 5.8: Broken backward compatibility for Solaris locales
- 4300597

 - 110039-01 – SunVTS 3.3: disktest of internal FC-AL disks in E3500 has wrong logical group name.
- 4318966

 - 110040-01 – SunVTS 3.2: sunvts hangs or dies on large E10K configuration
- 4318966

 - 110041-01 – SunVTS 4.0: sunvts hangs or dies on large E10K configuration
- 4307665 4122829 4318966

 - 110046-01 – SunVTS 4.0: CDE GUI core dumps when adjust scroll bar in a oversize window ,vtsui disappears with no core and X err
- 4310887

 - 110053-02 – SunOS 5.8: ar has errors in / lacks some LC_CTYPE definitions
- 4201984 4122829

 - 110055-01 – SunVTS 3.0: sunvts dumps core on start via command or gui on all systems at site,vtsui disappears with no core and
- 4335220 4367008

 - 110068-02 – CDE 1.4: PDASync patch
- 4336307 4370067 4372350 4374505 4374554

 - 110088-02 – CDE 1.4: DtPower patch
- 4617192

 - 110126-03 – Hardware/PROM: PGX32 firmware Update
- 4472448

 - 110127-04 – SunOS 5.8: Generic Framebuffer configuration Graphics Patch
- 4501846

 - 110150-04 – SunOS 5.8: rasctrl driver patch
- 4122829 4318966

 - 110160-02 – vtsui disappears with no core and X error
- 4122829 4318966

 - 110165-03 – SunOS 5.8: /usr/bin/sed patch

- 4356581
- 110193-03 – SSP 3.4: Run SSP Daemons as RT class hostview doesn't display temp
- 4379395
- 110211-03 – Solaris 8: Update to SUNWvts tapetest for DLT enhancements
- 4458661
- 110221-06 – SunOS 5.8: Dcam1394 patch.sun4u
- 4500186
- 110249-01 – Trusted Solaris 7: libprint has buffer overflows, other security problems
- 4334230
- 110262-05 – Veritas Volume Manager 3.0.4: general patch for Solaris 7
- 4269722 4397192 4403082 4416683 4419530 4424442
- 110263-05 – Veritas Volume Manager 3.0.4: general patch for Solaris 8
- 4269722 4397192 4403082 4416683 4419530 4424442
- 110278-03 – L9 tapes do not cycle.
- 4464015
- 110281-02 – SunOS 5.7: patch /usr/bin/find
- 4159420
- 110283-05 – SunOS 5.8: mkfs and newfs patch
- 4425003 4476995
- 110289-01 – SunOS 5.7: nscd's size grows - TTL values not implemented
- 4159699
- 110304-05 – SSP 3.4: autoconfig changes required to support new ecache srams
- 4458358
- 110307-02 – SSP 3.3: Change check_host to log unexpected signatures
- 4506703
- 110308-02 – SSP 3.4: Change check_host to log unexpected signatures
- 4506703
- 110316-03 – SSP 3.4: obp patch
- 4411156 4424029 4425372
- 110317-02 – SSP 3.2: obp patch
- 4390237
- 110322-01 – SunOS 5.8: /usr/lib/netshvc/yp/ypbind patch

4362647

- 110326-02 – CDE 1.4: dtstyle patch

4389935 4384360 4319599 4382452 4392829 4390631

- 110335-02 – CDE 1.4: dtprintinfo patch

4380805

- 110337-02 – Trusted Solaris 8: Security CIPSO TCP kernel support

4423015 4424862 4431861 4456699 4477856

- 110342-04 – AP 2.3.1: apboot does not update dump device if not on boot disk

4504199

- 110353-02 – SunVTS 4.1: Update enatest sutest sctest fwcamtest netlbtest audiotest

4326135 4362352 4362725 4364488 4367671 4364194 4371588 4373568 4378905

- 110364-02 – SunOS 5.8: Add L10N sdttypesbinder files

4383627

- 110368-02 – SunOS 5.8: pcf8574 driver patch for SUNW Sun-Fire-280R

4434341

- 110370-03 – SunOS 5.8: SUNW,Sun-Fire usr platform links patch

4435718

- 110374-08 – SunOS 5.8: /platform/SUNW,Sun-Fire/kernel/drv/sparcv9/sgenv patch

4489357

- 110380-04 – SunOS 5.8: ufssnapshots support, libadm patch

4416430

- 110385-03 – SunOS 5.8: RCM modules patch

4386544

- 110387-03 – SunOS 5.8: ufssnapshots support, ufsdump patch

4358666

- 110389-04 – SunOS 5.8: cvc CPU signature

4362110

- 110392-02 – SunOS 5.7: m64config.1m Manual Page update

4423839

- 110407-02 – CDE 1.4 Sdttypes patch

4374350

- 110413-02 – SSP 3.2: Change libsysid to support new hostid ranges

- 4397551
 - 110414-02 – SSP 3.3: Change libsysid to support new hostid ranges
- 4397551
 - 110415-02 – SSP 3.4: Change libsysid to support new hostid ranges
- 4397551
 - 110416-03 – SunOS 5.8: ATOK12 patch
- 4443974
 - 110420-04 – SSP 3.4: ssp_restore overwrites newer files with older ones.
- 4268088
 - 110421-03 – SSP 3.3: ssp_restore overwrites newer files with older ones.
- 4268088
 - 110428-01 – SunOS 5.8: New Turkish UTF-8 locale
- 4368177
 - 110452-05 – VxVM 3.1.1: vxconfigd vxdumpadm vxio vxspec vxdump vxautoconfig vxdevwalk
- 4505737
 - 110453-03 – SunOS 5.8: admintool patch
- 4509669
 - 110458-02 – SunOS 5.8: libcurses patch
- 4398331
 - 110461-01 – SunOS 5.8: ttcompat patch
- 4335144
 - 110489-05 – Solaris Resource Manager 1.1: SHR/srmdrv/srmlim fixes
- 4399556 4409286 4423935 4458760
 - 110539-10 – NetBackup 3.4 UNIX server and client fix
- 4523614
 - 110605-02 – Motif 2.1.1: uil patch for Solaris 8
- 4385838
 - 110609-02 – SunOS 5.8: cdio.h and command.h USB header patch
- 4458516
 - 110614-02 – SunOS 5.8: ses driver patch
- 4414946
 - 110615-04 – SunOS 5.8: sendmail patch
- 4527557

- 4361023
 - 110626-03 – II 2.0 Framework ulimit Patch
- 4433660
 - 110645-02 – SunForum 3.1: fixes and enhancements
- 4244544
 - 110646-03 – SunOS 5.7: /usr/sbin/in.ftpd Patch
- 4389045 4399566
 - 110651-02 – Sun Cluster 3.0 HA-Oracle Patch
- 4478320
 - 110655-03 – Sun Cluster 2.2: Oracle Parallel Server Patch
- 4122829
 - 110658-01 – vtsui disappears with no core and X error
- 4524694
 - 110662-07 – SunOS 5.8: ksh patch
- 4466662
 - 110666-04 – Sun Ray enterprise server version 1.2 Update Patch
- 4483514 4523990 4527873
 - 110668-03 – SunOS 5.8: /usr/sbin/in.telnetd patch
- 4458546 4433377
 - 110676-04 – Sun Cluster 2.2: HA-SAP Patch
- 4411462 4401250 4400713
 - 110692-03 – NSS 1.0: patch for Netra Software Suite Network Resilience
- 4406333 4463668 4473076
 - 110693-02 – Netra X1 dmfe ethernet driver, Link light
- 4531181
 - 110696-04 – Sun StorEdge Network Fiber Channel 2.0: SanSurfer Administration Patch
- 4169796
 - 110702-01 – SunOS 5.8: mknetid patch
- 4159699
 - 110710-01 – SunOS 5.8: nscd patch
- 4407526
 - 110716-02 – SunOS 5.8: Solaris Product Registry 3.0 patch

- 4479482

 - 110722-03 – AP 2.3.1: AP needs to provide interface for Veritas DMP compatibility
- 4480970 4486544 4509547

 - 110723-04 – SunOS 5.8: /kernel/drv/sparcv9/eri patch
- 4408312

 - 110737-02 – Trusted Solaris 8: SMC NIS support
- 4385479

 - 110739-01 – Trusted Solaris 8: CDE exit sometimes fail
- 4384632

 - 110741-01 – Trusted Solaris 8: labeld is not i18n compliant
- 4384781

 - 110743-01 – Trusted Solaris 8: NIS(YP) account can't see assigned profiles
- 4391812 4391778 4391779 4391781

 - 110745-01 – SunOS 5.8: toolbox syntax correction
- 4389792

 - 110752-01 – SunOS 5.8: Uninstaller doesn't come up with error messages
- 4507096

 - 110754-03 – SunOS 5.8: WBEM messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales
- 4404182 4507099

 - 110756-02 – SunOS 5.8: DCL messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales
- 4507101

 - 110758-03 – SunOS 5.8: SMC messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales
- 4507105

 - 110764-03 – SunOS 5.8: MGP messages updates for Asian ko/zh/zh_TW locales
- 4390210

 - 110769-01 – Trusted Solaris 8: lock screen can have a transparent screen
- 4388344 4390118

 - 110771-02 – Trusted Solaris 8: /etc/shadow can be relabeled and modload does not work at boot time
- 4466477 4397444

 - 110790-04 – Netra ct 1.0: OBP update for SUNW,UltraSPARC-IIi-Netract.sun4u
- 4420102

 - 110797-02 – SunOS 5.8: UR4 New int

- 110800-02 – RSC 2.0 bug fix for intermittent reset after installation.

4471767

- 110806-02 – SunVTS4.3 Jumbo test patch

4418450 4421617 4396092 4425829 4421812 4421930 4409846 4428048 4415798 4466526 4466518
4466537 4466515 4466550 4489071

- 110819-03 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/us patch.sun4u

4469049

- 110821-02 – SunOS 5.8: iosram driver patch

4414084

- 110822-01 – SunOS 5.8: mboxsc driver patch

4363907

- 110823-03 – SunOS 5.8: fcode patch

4411034

- 110824-02 – SunOS 5.8: fcpci driver patch

4405109

- 110825-02 – SunOS 5.8: fcodem driver patch

4405109

- 110827-02 – SunOS 5.8: scosmb driver patch

4423572

- 110828-02 – SunOS 5.8: sbbc driver patch

4467769

- 110829-01 – SunOS 5.8: todstarcat driver patch

4363907

- 110830-02 – SunOS 5.8: /platform/SUNW,Sun-Fire-15000/lib/cvcd patch.sun4u

4429680

- 110831-02 – SunOS 5.8: /platform/SUNW,Sun-Fire-15000/kernel/drv/sparcv9/cvc patch?

4370761 4396065

- 110832-01 – SunOS 5.8: cvcredir patch

4363907

- 110833-01 – SunOS 5.8: usr platform links

4363907

- 110836-03 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/misc/sparcv9/gptwocfg patch

4418093

- 4393561 4393772 4398474

 - 110837-03 – SunOS 5.8: efcodes patch
- 4389945

 - 110840-02 – SunOS 5.8: bbc patch
- 4369175 4381743

 - 110841-01 – SunOS 5.8: gptwo patch
- 4465733 4472722

 - 110842-05 – SunOS 5.8: hpc3130 driver patch for SUNW,Sun-Fire-880
- 4434341

 - 110844-02 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/lm75 patch
- 4434341

 - 110845-03 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/lm1427 patch
- 4434341

 - 110846-02 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/pcf8574 patch
- 4434341

 - 110847-02 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/pcf8591 patch
- 4405109

 - 110848-02 – SunOS 5.8: pcicfg patch
- 4403503 4410299

 - 110851-02 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/ssc050 patch
- 4369175 4381743

 - 110853-01 – SunOS 5.8: SUNW,Sun-Fire-880 usr platform links patch
- 4434341

 - 110854-02 – SunOS 5.8: /platform/sun4u/kernel/drv/sparcv9/smbus_ara patch
- 4363907

 - 110856-01 – SunOS 5.8: /etc/inet/services patch
- 4402062

 - 110864-01 – SunOS 5.8: SUNW_PKGLIST fixes (ALC S8U4 packages for SUNWCreq)
- 4399082

 - 110867-01 – SunOS 5.8: SUNW_PKGLIST fixes (ALC S8U4 packages)
- 4452089

 - 110871-04 – Data Services Core: DS 2.0/SunCluster 2.2 Patch
- 110875-02 – SSP 3.4: Bringup does not verify bootproc from HPOST is in domain.

4485046

- 110885-01 – SunOS 5.8: JFP Solaris Product Registry 3.0 patch

4405721

- 110888-01 – SunOS 5.8 : figgs, New and updated message strings

4406660 4407100

- 110894-01 – SunOS 5.8: "Republic of China / Taiwan" isn't one legal country name

4406142

- 110898-04 – SunOS 5.8: csh/pfsh patch

1227664 4494351

- 110905-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/find patch

4333804 4445793

- 110907-01 – SunOS 5.8: /usr/include/arpa/inet.h patch

4345816

- 110918-03 – SunOS 5.8: /kernel/drv/openepr patch

4346494 4379810 4416565 4422498 4434338 4451354 4451879 4453614 4458013 4458210 4459820
4461330 4466463 4467793 4468133 4468450 4470641 4477894 4478393

- 110927-01 – SunOS 5.8: Need to backport fixes in SUNW_PKGLIST in s8u4

4399235

- 110941-03 – SunOS 5.8: sar and sadc patch

4111755 4469467

- 110943-01 – SunOS 5.8: /usr/bin/tcsh patch

4384076

- 110951-02 – SunOS 5.8: /usr/sbin/tar and /usr/sbin/static/tar patch

4508100

- 110953-02 – SunOS 5.8: /usr/kernel/drv/lc2 patch

4400795

- 110955-02 – SunOS 5.8: /kernel/strmod/timod patch

4453050

- 110957-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/mailx patch

4452732

- 110979-02 – Storage Migrator 3.4.1 VxFS files fix

4533532

- 110986-02 – SunOS 5.8: SMC help fix

- 4354567
 - 111018-01 – SunOS 5.8: /etc/driver_aliases patch for gpio
- 4395277
 - 111041-04 – SunOS 5.8: su and su_pnp driver patch.sun4u
- 4487938
 - 111042-01 – SunOS 5.7: "Republic of China / Taiwan" isn't one legal country name
- 4406142
 - 111049-03 – SunOS 5.8: /platform/SUNW,Ultra-Enterprise-10000/lib/cvcd patch
- 4352273
 - 111069-01 – SunOS 5.8: bsmunconv overwrites root cron tab if cu created /tmp/root
- 4383308
 - 111073-01 – SunOS 5.8: re_comp header patch
- 4345842
 - 111075-02 – X11 6.4.1: keyboards patch
- 4405756 4422290 4434254
 - 111078-02 – Solaris Resource Manager 1.2: srmuser and srmlim patch
- 4182182 4213039 4484021 4399556 4423935
 - 111085-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/login patch
- 4516885
 - 111088-02 – SunOS 5.8: mdb patch
- 4374045
 - 111092-02 – Netra X1 time of day driver
- 4425431
 - 111098-01 – SunOS 5.8: ROC timezone should be avoided for political reasons
- 4411173
 - 111104-02 – NSS 1.0: patch for Netra Software Suite Smart Boot
- 4469335 4365191
 - 111118-05 – VxVM 3.1.1 : vxconfigd vxdmpadm vxio vxspec vxdmp vxautoconfig vxdevwalk
- 4505737
 - 111132-01 – Sun Cluster 2.2: HA-Informix Patch
- 4406129 4434952

- 4339357
 - 111135-02 – Sun Cluster 2.2: Internet Pro Patch
- 4353938
 - 111141-01 – SunOS 5.8: last works incorrectly for more than 256 users login
- 4406523
 - 111158-03 – Veritas Volume Manager 3.1.1: supplemental Solaris 8 general patch
- 4372969 4519218
 - 111174-02 – SSP 3.4: Send BBSRAM close net command upon netcon_server init
- 4215075
 - 111197-02 – SunOS 5.8: /usr/lib/nfs/mountd patch
- 4500188
 - 111225-02 – SunOS 5.8: /usr/bin/tail and /usr/xpg4/bin/tail patch
- 4479455
 - 111231-04 – SunOS 5.8: Solaris user registration patch
- 4298915
 - 111238-01 – SunOS 5.7: Patch to /usr/sbin/in.fingerd
- 4298986
 - 111242-01 – SunOS 5.7: Patch to /usr/bin/finger
- 4352562 4359090 4359985 4363021 4367185 4367423 4367583 4372127 4372129 4372130 4372131
 4374712 4375925 4375936 4375940 4378630 4378643 4380040 4383161 4385882 4389603 4390822
 4391268 4393331 4393405 4393444 4395091 4395907 4396899 4396901 4397263 4397266 4397687
 4401738 4406264 4409154 4409249 4410769 4411734 4414501 4414503 4421050 4421656
 - 111249-01 – SunOS 5.7: SRC/P Maintenance Update Patch II
- 4469471 4469478 4469481
 - 111261-03 – Filer 1.1: vol and rootshell update
- 4449268
 - 111263-01 – Filer 1.1: crontab fix
- 4384285
 - 111265-01 – SunOS 5.8: patch who
- 4457451
 - 111269-03 – SunOS 5.8: Solaris Management Console patch
- 4451579 4355669 4437042
 - 111275-01 – SunOS 5.8: New features Solaris 8 Update 5 European
- 111287-02 – SSP 3.4: possible memory leak scotty causing ssp commands to slow down

- 4426557
- 111293-04 – SunOS 5.8: /usr/lib/libdevinfo.so.1 patch
- 4478323
- 111295-01 – SunOS 5.8: /usr/bin/sparcv7/pstack & /usr/bin/sparcv9/pstack patch
- 4393386 4399452 4400361
- 111299-03 – SunOS 5.8: PPP patch
- 4516011 4517632
- 111304-01 – SunOS 5.8: /kernel/misc/nfs_dlboot patch
- 4247106
- 111306-03 – SunOS 5.8: ufsboot and inetboot patch.sun4d sparc.sun4m sparc.sun4u
- 4463870
- 111317-02 – SunOS 5.8: /sbin/init and /usr/sbin/init patch
- 4461715
- 111319-01 – SunOS 5.8: /usr/sbin/in.rdisc patch
- 4304158
- 111321-02 – SunOS 5.8: klmmod and klmops patch
- 4370038
- 111325-01 – SunOS 5.8: /usr/lib/saf/ttymon patch
- 4246300
- 111327-05 – SunOS 5.8: libsocket patch
- 4316349
- 111336-02 – SSP 3.4: forced failover by "init 0" can cause unexpected CB failover
- 4463339
- 111338-01 – Sun Cluster 2.2: HA-Informix Patch
- 4434952 4406129
- 111341-02 – Sun Cluster 2.2: System Management Patch
- 4462707
- 111342-03 – Sun Cluster 2.2: Internet Pro Patch
- 4471359
- 111346-04 – Hardware/PROM: Sun Fire 3800/4800/4810/6800 Systems flashprom update
- 4432461 4462071 4485618 4488099 4490895
- 111350-01 – SunOS 5.7: Patch for ttymon process modules

- 4246300
- 111352-01 – SunOS 5.7: xpg4 more bug premature exit bug fix
- 4373943
- 111375-02 – HPC 3.1: RTE fixes.sun4u
- 4424634
- 111376-02 – HPC 3.1: RTE fixes 64-bit fixes.sun4u
- 4424634
- 111377-01 – SunOS 5.7: su Patch
- 4374692
- 111380-01 – SunOS 5.8: solregis: Japanese message patch
- 4449182
- 111386-01 – SunOS 5.8: s8u6 Euro bug fixing
- 4466198 4471313
- 111393-02 – SunOS 5.8: /usr/lib/autofs/automountd patch
- 4308622
- 111398-01 – SunOS 5.8: parse_dynamic_clustertoc needs to use dynamic_tests
- 4430962
- 111400-01 – SunOS 5.8: KCMS configure tool has a security vulnerability:sun4u
- 4415570
- 111403-02 – Filer 1.1: crontab fix:sun4u
- 4478579
- 111416-05 – RSC 2.1: Remote System Control bug fixes
- 4421239 4446920 4447042 4470063 4471204 4475358 4478743 4479747 4481170 4388044 4395524
4489656 4495766
- 111421-01 – SunOS 5.7: cis Patch
- 4385873
- 111422-01 – SunOS 5.7: libnvpair Patch
- 4426153
- 111439-01 – SunOS 5.8: /kernel/fs/tmpfs patch
- 4415160
- 111462-01 – Solstice Backup Oracle Module 3.0 Product Patch
- 4492728
- 111471-03 – SunOS 5.8: Bug fixes for mp in asian locale printing bugs
- 4501631 4502513 4502970 4503472 4505538

- 4443940

 - 111481-01 – OpenWindows 3.6.2: clock Patch
- 4465972 4495852 4518057

 - 111488-06 – Sun Cluster 3.0: mediator patch
- 4501840 4502088

 - 111498-04 – SunOS 5.8: PS2 Keyboard/mouse patch.sun4u
- 4330475 4430971

 - 111504-01 – SunOS 5.8: /usr/bin/tip patch
- 4400939

 - 111521-01 – Netra t1 1.1 patch
- 4456051 4433660 4457679 4408940 4449045 4452997 4432944 4448021 4461869 4360706 4368733
4446810

 - 111526-02 – SunForum 3.2: fixes and enhancements
- 4482512

 - 111534-03 – Hardware, 18G 36G Disks: Download program and DDYST18350 DDYST36950 S9WB firmware
- 4399022

 - 111547-01 – SunVTS 4.2: Kernel patch for nettest to support large E10K configuration.
- 4392144 4434978

 - 111548-01 – SunOS 5.8: catman, man, whatis, apropos and makewhatis patch
- 4425972 4422693

 - 111550-01 – Sun Grid Engine: Sun Grid Engine 5.2.2 maintenance patch to release 5.2.3 install script
- 4470537 4468922 4453924 4435665 4433953

 - 111551-02 – Sun Cluster 3.0: HA-Apache Patch
- 4287684 4283613 4355046

 - 111552-01 – Sun Cluster 3.0: HA-DNS Patch
- 4451296 4490841

 - 111554-05 – Sun Cluster 3.0: HA Man Pages Patch
- 4487483

 - 111556-02 – Sun Cluster 3.0: HA-Netscape LDAP Patch
- 4285279

 - 111565-01 – SunOS 5.7: librt.so.1 Patch
- 4285279

 - 111570-01 – SunOS 5.8: uucp patch

- 4416701
- 111578-02 – SunOS 5.7: arp Patch
- 4365204
- 111590-02 – SunOS 5.7: rpc.yppasswdd Patch
- 4392250 4466065
- 111596-02 – SunOS 5.8: /usr/lib/netshvc/yp/rpc.yppasswdd patch
- 4392250 4466065
- 111600-01 – SunOS 5.7: /usr/sbin/whodo Patch
- 4477380
- 111602-01 – SunOS 5.7: Floppy driver bug fix
- 4007736
- 111603-01 – Sun Grid Engine: Sun Grid Engine 5.2.2 maintenance patch to release 5.2.3 documentation update
- 4477590
- 111604-01 – Sun Grid Engine: Sun Grid Engine 5.2.2 maintenance patch
- 4396922 4398025 4399710 4404288 4407599 4419370 4419384 4419390 4422660 4422667 4422676
4422678 4425985
- 111605-01 – Sun Grid Engine: Sun Grid Engine 5.2.2 maintenance patch
- 4396922 4398025 4399710 4404288 4407599 4419370 4419384 4419390 4422660 4422667 4422676
4422678 4425985
- 111606-02 – SunOS 5.8: /usr/sbin/in.ftpd patch
- 4244544
- 111616-01 – SunOS 5.7: usr/share/lib/zoneinfo/ROC Patch
- 4411173
- 111620-01 – SunOS 5.7: netdb.h Patch
- 4324375
- 111622-02 – SunOS 5.7: libsocket Patch
- 4324375
- 111626-01 – OpenWindows 3.6.2: Xview Patch
- 4458476
- 111646-01 – SunOS 5.7: BCP libmle buffer overflow
- 4468138
- 111647-01 – BCP libmle buffer overflow
- 4468138
- 111648-01 – SunVTS: env3test cpupmtest ifbtest rsctest

- 4372302 4382930 4478525
- 111649-03 – Hardware/DVD: Toshiba DVD 1401 firmware
- 4504822
- 111656-01 – SunOS 5.8: Supplemental social and sf drivers patch
- 4376248 4464896
- 111657-01 – SunOS 5.8: Neide, atata and disk_ata.conf driver patch
- 4466044
- 111658-01 – SunOS 5.7: Supplemental social and sf drivers patch
- 4376248 4464896
- 111663-01 – SunOS 5.7: locale incorrectly sets decimal precision for euro currency
- 4468162
- 111666-01 – SunOS 5.7: bzip patch
- 4428954
- 111668-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111669-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111670-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111671-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111672-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111673-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111674-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111675-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111676-01 – PerfLib 3.1: Patch for Performance Library 3.1 (libsunperf)
- 4432678 4456602
- 111681-01 – Patch for Forte Developer 6 update 2 Performance Analyzer
- 4473482 4474825

- 4500611
 - 111741-02 – X11 6.4.1: hwc patch
- 4469366
 - 111753-01 – SSP 3.3: Buffer overflow vulnerability in cb_reset.
- 4469366
 - 111754-01 – SSP 3.4: Buffer overflow vulnerability in cb_reset.
- 4464057
 - 111762-01 – Expert3D IFB SunVTS Patch
- 4498185 4498201 4488349 4491325 4494623 4494951
 - 111774-01 – StorTools: Updated StorTools 4.1
- 4464091
 - 111775-01 – SunOS 5.8: smdiskless patch
- 4464091
 - 111777-01 – SunOS 5.8: smosservice patch
- 4405706
 - 111800-01 – SunOS 5.8: /usr/include/sys/mhd.h patch
- 4426200
 - 111802-01 – SunOS 5.8: /usr/lib/rcm/modules/SUNW_cluster_rcm.so patch
- 4461373
 - 111804-02 – SunOS 5.8: /usr/sbin/rem_drv patch
- 4459901
 - 111806-01 – Trusted Solaris 8: TS8 term sessions temporarily hang when cu attempts to change workspace label
- 4451172
 - 111822-01 – SunOS 5.8: libpiclfrudata.conf patch for SUNW,Sun-Fire-480R
- 4477380
 - 111826-01 – SunOS 5.8: /usr/sbin/sparcv7/whodo & /usr/sbin/sparcv9/whodo patch
- 4341921
 - 111831-01 – SunOS 5.8: /usr/kernel/drv/dump patch
- 4470241
 - 111844-02 – X11 6.4.1 xdm patch
- 4458250
 - 111852-01 – SunOS 5.8: SX Graphics Patch

- 4421848
 - 111853-01 – Hardware/FCCode: PCI Single/Dual FC Network Adapter
- 4506345 4518209
 - 111862-01 – HPC 4.0: RSM and other fixes for MPI.sun4u
 - 111863-01 – HPC 4.0: PFS iod deadlock and other fixes for PFS
- 4478551 4485890 4485899 4485905 4485913 4488046 4488050 4480794 4485916 4474061
 - 111876-01 – SunOS 5.8: nl.iso 15@euro locale incorrectly sets decimal precision
- 4481685
 - 111879-01 – SunOS 5.8: Solaris Product Registry patch SUNWwsr
- 4434523
 - 111881-01 – SunOS 5.8: /usr/kernel/strmod/telmod patch
- 4448655
 - 111908-04 – VxVM 3.2: general patch for Solaris 7
- 4419634
 - 111909-04 – VxVM 3.2: general patch for Solaris 8
- 4419634
 - 111936-01 – Sun Management Center 3.0 Jumbo Patch for SysRM
- 4482464
 - 111937-01 – Sun Management Center 3.0: Jumbo Patch for SysRM
- 4482464
 - 111939-01 – SunOS 5.7: Manual Pages Patch for Live Upgrade
- 4480134
 - 111955-01 – NetBackup 3.4 Japanese Msgs fix
- 4495769
 - 111962-05 – Solstice Backup 6.1: Product Patch
- 4599424
 - 111968-01 – Solstice Backup 6.1: Product Patch
- 4619741
 - 111969-02 – Solstice Backup 6.1 L10N: Product Patch
- 4621758
 - 111970-01 – Solstice Backup 6.1 L10N: Product Patch
- 4529351 4523123
 - 111971-03 – Solstice Backup 6.1: Product Patch

- 4523123
- **111975-01 – SSP 3.4: datasyncd fails to synchronize information between both SSPs.**
- 4451476
- **111984-01 – SSP 3.4: machine_server core dumps when ssp is starting**
- 4372326
- **111987-01 – SunPCi 2.2.2: for Solaris 2.6, 7, 8 and sparc architectures**
- 4490024 4495011
- **111988-01 – SUNWrasag2.1: patch to provide Carmel (D2) RASAgent support.sun4u**
- 4500766
- **111989-01 – SunOS 5.8: usr/bin/egrep patch**
- 1042934
- **111992-01 – Multiple BugID patch fix - SUNWkmmtr v1.1**
- 4466774 4460007 4460014 4474024 4489642
- **111996-01 – SunOS 5.7: ptree Patch**
- 4233996
- **112003-03 – SunOS 5.8: Unable to load fontset in 64-bit Solaris 8 iso-1 or iso-15**
- 4614971 4614237
- **112035-01 – Hardware: Seagate ST39120A firmware upgrade from 3.11 to 3.13**
- 4382875
- **112036-02 – SunOS 5.8: en_US.UTF-8 locale XI18N patch**
- 4503088 4528408
- **112039-01 – SunOS 5.8: usr/bin/ckitem patch**
- 4466215 4482260
- **112050-01 – SunOS 5.8: ptree patch**
- 4233996
- **112057-01 – SunOS 5.8: Asian mailx and in.comsat update**
- 4350331 4467096 4497465
- **112060-01 – SunOS 5.8: /usr/include/uflash_if.h patch**
- 4474872
- **112065-01 – NetBackup 3.4 UNIX server and client fix Sep 9th issue**
- 4499273
- **112075-01 – Netbackup 3.4 Database extension patch for DB2**

- 4481059
- 112084-01 – SunOS 5.8: regression: sdthanja displays garbages using libXm.so.4
- 4488389
- 112090-01 – SMS 1.1: DFRU does not format pre-existing FD segment
- 4478205
- 112091-03 – SMS 1.1: PCD allows SMS client mark board unassigned if marked active
- 4512463
- 112097-01 – SunOS 5.8:: /usr/bin/cpio patch
- 4318063
- 112106-01 – SunOS 5.7: mkfs Patch
- 4425003 4476995
- 112109-01 – SunOS 5.8: Some Greek characters are in wrong places
- 4405762
- 112114-01 – Trusted Solaris 8: dtwm consumes cpu after user logs out and logs in again.
- 4489450
- 112118-01 – SMS 1.1: sc1: poweron sc0 fails to power on sc0 after poweroff issued
- 4497949
- 112120-01 – SunOS 5.7:: libmapmalloc Patch
- 4487282
- 112125-01 – RAID Manager 6.22.1: generic RM6.22.1 Solaris 2.6, and 7 patch
- 4479887 4477099 4347418 4521759 4489954
- 112126-01 – RAID Manager 6.22.1: generic RM6.22.1 Solaris 8 patch
- 4479887 4477099 4347418 4521759 4489954
- 112127-02 – Hardware/PROM: Sun Fire 3800/4800/4810/6800 Systems flashprom update
- 4378797 4485017 4500007 4500603 4503758 4505571 4509350 4513790 4513811 4515276 4515933
4517599 4517794 4519173 4519626 4523193 4528505 4530595 4530934 4532454
- 112132-01 – Trusted Solaris 8: dtlogin, extra spaces in user name result in wrong clearance.
- 4495679
- 112135-01 – SunOS 5.8:: usr/lib/libmapmalloc.so.1 patch
- 4487282
- 112137-01 – SunOS 5.8: Support for Network Service Provider platforms

- 4472749
- 112138-01 – SunOS 5.8:: usr/bin/domainname patch
- 4502131
- 112140-01 – Lomlite2 lom_update_eeprom patch
- 4417373 4480653
- 112147-01 – SMS 1.1: ssd occasionally fails to handle start/stop requests
- 4497808
- 112148-01 – Netbackup 3.2 Java GUI re-release
- 4431232
- 112150-04 – SRS 2.1 SunMC Agent stability
- 4392815 4409133 4423809 4449312 4457539 4458732 4469664 4466248 4517972 4524369
- 112152-01 – SSP 3.5: check_host -b believes host is up incorrectly
- 4506703
- 112153-01 – SunMC 3.0: re-enable PDSM module
- 4507751
- 112178-01 – SSP 3.5: ssp_config patch
- 4505031
- 112179-01 – Sun Management Center 3.0 Enable DR for Sun Fire 15K
- 4470624
- 112187-01 – SunOS 5.8: Jumpstart patch
- 4362713
- 112218-01 – SunOS 5.8:: pam_ldap.so.1 patch
- 4384816
- 112220-01 – SunOS 5.8:: kernel/misc/nfssrv patch
- 4495944
- 112244-01 – Hardware/FCode: SBus Dual Fibre Channel Host Adapter
- 4506776 4526161
- 112247-01 – SSP 3.3: netcon_server dies if /etc/syslog_door has wrong permits
- 4519218
- 112248-01 – SSP 3.5: netcon_server dies if /etc/syslog_door has wrong permits
- 4372969 4519218
- 112264-02 – Sun Cluster 3.0 HA-Oracle - Oracle 9i
- 4465293

- 112265-01 – Sun Grid Engine 5.2.3 maintenance patch
4496678 4521398 4521393 4521400 4525977 4527558 4527559 4528905
- 112266-01 – Sun Grid Engine 5.2.3 maintenance patch
4496678 4521398 4521393 4521400 4525977 4527558 4527559
- 112274-01 – SunOS 5.8: /usr/bin/acctcom patch
4233191
- 112300-01 – SunOS 5.7: usr/bin/login Patch
4516885
- 112319-01 – SunOS 5.7: System Accounting Software Patch
4233191
- 112325-01 – SunOS 5.8: /kernel/fs/udfs and /kernel/fs/sparcv9/udfs patch
4307839 4307849 4329438 4453923
- 112328-01 – SunOS 5.8: /usr/sbin/rpcbind patch
4500062
- 112345-01 – SunOS 5.8: /usr/bin/pax patch
4508106

